

PC STATION PA7シリーズ

ユーザーズガイド

(電源を入れる・切るなど基本的な操作から、各機能の使い方を説明しています。)

- セットアップをはじめよう
- ご使用になる前に
- 周辺機器を使いこなす
- 本体内部の増設について
- 困ったときには・・・
- パソコンを購入時の状態に戻す
- 付 錄



付属マニュアルの読みかた

本で読むマニュアル



ユーザーズガイド



サポートのご案内

まず、これを読もう！

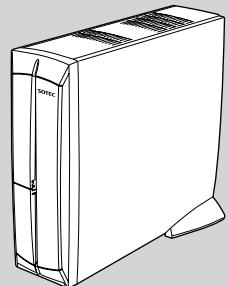
セットアップ方法から、本製品を使用するための基本的な操作方法を説明しています。また、本機に接続できるさまざまな周辺機器の説明をしています。

おかしいな？思つたら

本機をご使用中に何らかのトラブルが生じた場合、トラブルの解決方法と、トラブルを予防する方法について説明しています。また、「SOTEC電子マニュアル」にもトラブルの解決方法および予防方法を説明しています。

サポートに関しては

カスタマーID登録・保証書のお申込書の方法や、修理依頼の方法などサポート内容について説明しています。



電子マニュアル（画面で見るマニュアル）

デスクトップ画面にある
[SOTEC電子マニュアル]アイコンを
ダブルクリック

SOTECパソコン使いこなそう！

SOTEC電子マニュアル

本機のマルチメディア機能の活用方法、およびWindows XPやインターネットの便利な使いかたを、図解つきでわかりやすく説明しています。本機の楽しみ方を探したいときなどに、ご参照ください。また、トラブルの解決方法および予防方法も説明しています。



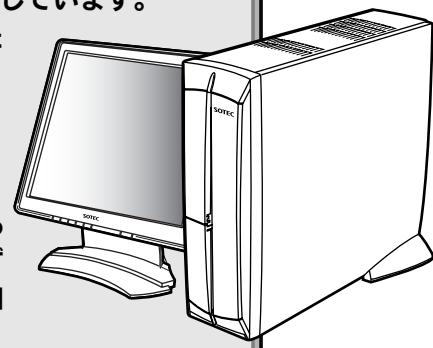
はじめに

このたびは、ソーテックPC STATION PA7シリーズをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

このユーザーズガイドでは、PC STATION PA7シリーズのご使用にあたって注意していただきたいことや、基本的な使いかた、および、より有効に活用する方法を、7つのセクションに分けて説明しています。

PC STATION PA7シリーズを正しくお使いいただくためにも、必ずこのユーザーズガイドをお読みください。
読み終わった後は、いつでもご参照いただけるよう、大切に保管してください。

また、本製品をご使用になる前に、本書の2ページにある「本製品を正しく安全にお使いいただくために」を必ずお読みください。本製品を正しく使用するために、知っておいていただきたい事項が記載されています。



チェック

はじめてWindowsを起動したときは、[スタート]ボタンを選択して表示される「本製品をご購入のお客様へ」を必ずお読みください。

この中には、PC STATION PA7シリーズを使用される上で重要な情報が記述されています。

特に、Windowsを再インストールする場合は、「本製品をご購入のお客様へ」に書かれているとおりにドライバソフトなどのインストールを行わないと、PC STATION PA7シリーズの性能を充分に発揮できないばかりか、一部の機能が動作しなくなる場合があります。



注 意 本製品は、人命に関わる設備や機器(医療機器、原子力設備に関連する機器、航空宇宙機器、運輸設備に関連する機器など)や、高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの使用や組み込みを目的として設計されていません。

これら設備や機器、制御システムなどに本製品を使用された場合、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。

本製品を正しく安全にお使いいただくために

この取扱説明書では、本製品を正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷（※1）を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害（※2）を負う可能性が想定される内容および、物的損害（※3）のみの発生が想定される内容を示しています。

※1 重傷とは、入院や長期の通院を要する恐れのある怪我などを指します。

※2 傷害とは、入院や長期の通院を要しない怪我などを指します。

※3 物的損害とは、本機の損害および、家屋・家財・ペットなどに関わる二次的な損害を指します。



記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容が描かれています。左図の場合は「分解禁止」という意味です。



記号は行為を規制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容が描かれています。左図の場合は「電源プラグをコンセントから抜いてください」という意味です。

!**警告**



水場使用禁止

- 洗い場、風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。



分解禁止

- 絶対に分解したり修理・改造をしないでください。火災や感電の原因となります。また、無償修理の対象外となります。



- 付属の電源ケーブル以外は使用しないでください。火災・感電の原因となります。

電源プラグを
抜く

- 本体から何かこげるような匂いがしたり、表面がかなり熱いときは直ちに電源プラグを抜いてください。そのままご使用になると火災・感電の原因となります。



- 本機の電源は交流 100V をご使用ください。異なる電源を使用すると、火災・感電・故障の原因となります。

!**注意**



アース線を接続する

- 電源プラグをコンセントに差し込む前に、必ずアース線をコンセントのアース端子に取り付けてください。アース線を接続しないと、感電の原因となります。



電源プラグを抜く

- アース線の取り付け・取り外しをする前は、電源プラグをコンセントから抜いてください。感電の原因となります。



電源プラグを抜く

- 電源プラグを抜くときはケーブルを持たず、必ずプラグ部分を持って抜いてください。故障の原因となります。



振動・衝撃を与えない

- 振動や衝撃の加わる場所には設置しないでください。また、重い物をのせないでください。故障による火災・感電の原因となります。



- 通風孔をふさがないでください。故障による火災の原因となります。

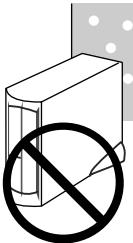


- 本体を持ち運ぶときは底面を保持して、安定した姿勢で持ち運んでください。前面および後面パネルや、端子およびスロットに指を引っ掛け持ち運ばないでください。故障・破損の原因となります。



電源プラグを抜く

- 旅行など長時間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜いてください。漏電・火災の原因となります。



- 熱の発生源の近く、直射日光のあたるところ、腐食性ガスのある環境、ほこりの多いところ、使用周囲温度(10~35°C)/使用周囲湿度(20~80%ただし結露しないこと)を超える範囲では使用・保存しないでください。故障の原因となります。



- 家電製品のそばにはなるべく設置しないでください。誤動作の原因となります。



- 雷が近いときは、すみやかに電源をOFFにし、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。また、モジュラーケーブルやLANケーブルなど、接続されているケーブル類も抜いてください。故障の原因となります。

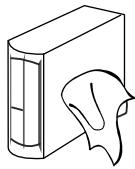


- 電源ケーブルの上にものをのせないでください。電源ケーブルが傷むと漏電・火災の原因となります。



- マウス底面から射出される光を直接見ないでください。目を傷つける恐れがあります。

⚠ 取り扱い上の注意



- 本体外装の汚れは、清潔でやわらかく乾いた布を使い、から拭きしてください。
- フロッピーディスクドライブは、乾式のクリーニングディスクを使って、定期的にクリーニングしてください。



- ハードディスクやフロッピーディスクが動作中のときは、移動させないでください。
- ハードディスクに保存したデータなどは、定期的にバックアップをお取りください。

法規について

レーザ安全基準について

この装置には、レーザに関する安全基準(JIS・C-6802)クラス1適合の光ディスクドライブが搭載されています。

PCリサイクルについて



このマークが表示されている対象製品は、当社が無償で回収および再資源化します。

詳細は当社Webサイト(<http://www.sotec.co.jp/>)をご参照ください。

PCグリーンラベル制度について



本製品は、社団法人電子情報技術産業協会(JEITA)により策定された「PCグリーンラベル制度」に合格致しました。

「PCグリーンラベル制度」とは、お客様が環境に配慮したパソコンをご購入になる際、商品選択を容易にするために、基準をクリアしたパソコンに「PCグリーンラベルロゴマーク」を表示する制度で、以下の3つのコンセプトから構成されています。

- ・環境(含3R※1)に配慮した設計・製造がなされている
- ・使用済み後も、引取り・リユース／リサイクル・適正処理がなされている
- ・環境に関する適切な情報開示がなされている

※1:3R=リデュース(Reduce)、リユース(Reuse)、リサイクル(Recycle)

グリーン購入ネットワーク(GPN)について



本製品はグリーン購入ネットワーク(GPN)に適合しています。

輸出および海外でのご使用に関する注意事項

本製品の輸出(個人による携行を含む)については、外国為替および外国貿易法に基づいて経済産業省の許可が必要になる場合があります。

必要な許可を取得せずに本製品を輸出すると、同法により罰せられます。

輸出の許可の要否については、ご購入頂いた販売店、または当社営業拠点にお問い合わせください。



この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報処理装置です。

この装置は家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しく取り扱いをしてください。

国際エネルギースタープログラムについて

当社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとした、オフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。

このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えるための機能を備えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品はコンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリ、複写機、スキャナ、複合機のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク(ロゴ)は参加各国の間で統一されています。



瞬時電圧低下について

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお薦めします。

(社団法人電子情報技術産業協会(旧JEIDA)のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示)

高調波電流規制について

この装置は、高調波ガイドライン適合品です。

マニュアルの読みかた

ページの構成

大見出し

この項目の概要

中見出し

インデックス

各章ごとに区切られています。

操作手順

アイコン

補足的な説明や、知っておくと便利なポイントです。

操作してはいけないこと、または操作するときに注意するポイントです。

特に注意していただきたいことです。説明を守らないと、本機の破損や怪我をする可能性があります。

7 ログオン/ログオフする
本製品を複数の人が利用するとき、ログオン/ログオフ作業が必要です。ログオンすることで、各自の使用環境を切り分けて本製品を使えます。

ログオンする
Windows起動時にログオンするユーザを選択することで、対応する使用環境を割り当てます。

1 パソコンの電源をONにします。
しばらくするとユーザの選択画面が表示されます。

2 ログオンするユーザを選択します。
パスワードが設定されている場合は、パスワードを入力します。
メモ パスワードが抜き忘れた場合は、大文字と小文字を間違って入力しないか再度ご確認ください。Windows XPでは、Tarouとtarouは違う文字列として判別されます。

メモ パスワードを設定する場合、入力したパスワードはメモをとるなどして、忘れないようにしてください。

この起動後に表示されるログオフ画面は、ご購入いただいたパソコンによって異なります。

SOTEC「電子マニュアル」参照
省電力機能
メニュー>ユーザーズガイド応用編>省電力機能

33

このページは、構成の説明用に作成したもので、実際のページとは異なります。



参照していただきたい電子マニュアル(画面で見るマニュアル)の項目を紹介しています。



参照していただきたい別冊のマニュアルやオンラインヘルプを紹介しています。

参照ページ

その単語の詳細が別ページに紹介、または説明されています。本文とあわせてご参照ください。

章の構成

このユーザーズガイドは、お客様のレベルや使いかたに応じて、大きく7つのセクションに分けて説明しています。

本製品の接続方法と、セットアップから電源のON、OFFまでを説明しています。

フロッピーディスクや光ディスクドライブなど、PC STATIONが標準で持っている機能について、基本的な使いかたおよび注意事項を説明しています。

AV機器やUSB機器など、PC STATIONに接続できる周辺機器の紹介と、接続の方法や注意事項について説明しています。

メモリやハードディスクの交換など、PC STATION内部に増設できる機器の接続方法について説明しています。

PC STATIONの使用中に、トラブルが発生したり、疑問に感じたりしたことがあれば、あわてずにこの項目をご参照ください。

PC STATIONをご購入時の状態に戻す(リカバリ)方法や、リカバリ前に作業していただきたいデータや設定のバックアップ方法について説明しています。

PC STATIONの内部プログラム(BIOS)の操作方法と、その機能について説明しています。また、索引を掲載しています。必要に応じてご参照ください。

PC STATIONを使うのは初めて、という方は、「STEP1 セットアップをはじめよう」をまずお読みください。接続方法からセットアップ、本機の電源の入れかたなど、基本的な使いかたを説明しています。また、フロッピーディスクや光ディスクドライブなど、PC STATIONに標準で付属している機能を使用する場合は、「STEP2 ご使用になる前に」をお読みください。

USB対応のスキヤナを使いたい、ハードディスクを増設したいなど、本製品をより有効に活用したいときは、「STEP3 周辺機器を使いこなす」、「STEP4 本体内部の増設について」をお読みください。

使っているときに動作がおかしくなったり、何らかのトラブルが発生した場合は、「STEP5 困ったときには・・・」「STEP6 パソコンを購入時の状態に戻す(リカバリ)」をお読みください。トラブルを解決する手助けとなるでしょう。

STEP1 セットアップをはじめよう

STEP2 ご使用になる前に

STEP3 周辺機器を使いこなす

STEP4 本体内部の増設について

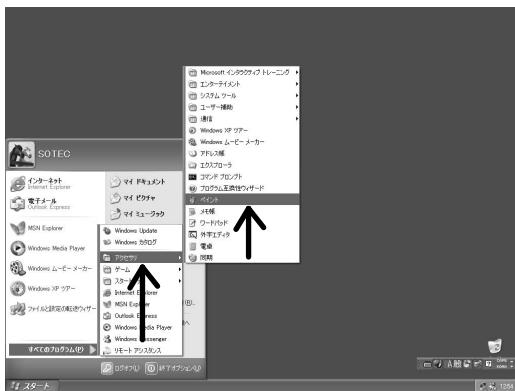
STEP5 困ったときには・・・

STEP6 パソコンを購入時の状態に戻す(リカバリ)

付 錄

マニュアルの表記について

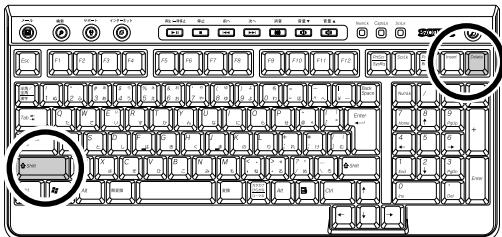
操作の表記ルール



次々とメニューを選択していく動作を本書では「→」を使って省略している箇所があります。例えば、左画面のように、スタートボタンから「ペイント」のプログラムまでを選択する動作を、

[スタート]ボタン→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[ペイント]

と表記しています。



※製品によりキーボードの形状は異なることがあります。

何かのキーを押しながら、他のキーを押す動作を本書では「+」を使って省略しています。

例えば、左図のように、Shiftキーを押しながら、Deleteキーを押す動作を、

Shift + Delete

と表記しています。

また、キーボード上の絵は、次のように簡略化して表記しています。

● キー表記とキーボードの対応表

本書の表記	実際のキー
Esc	Esc
Tab	Tab
Ctrl	Ctrl
Shift	Shift
Alt	Alt
Space	Space
Enter ↴	Enter ↴

本書の表記	実際のキー
BackSpace	Back Space
Insert	Insert
Delete	Delete
Home	Home
End	End
↑ ↓ ← →	↑ ↓ ← →
PageUp	PageUp

本書の表記	実際のキー
PageDown	3 PgDn
F1 F2 ...	F1 F2 ...
変換	変換
半角/全角	半角/全角
NumLk	NumLk
印	印
図	図

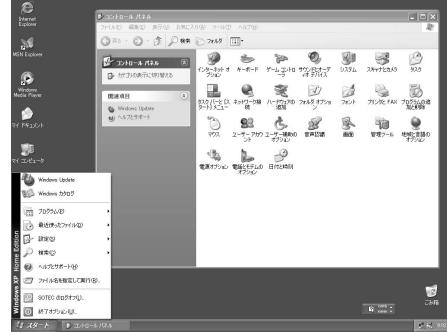
▶ Windows XPの表記ルール

● カテゴリ表示モードの画面で説明しています。

Windows XPには、カテゴリ表示モードと呼ばれる通常の表示方法と、Windows2000など従来の表示イメージにあわせたクラシック表示モードと呼ばれる表示方法があります。本書では、カテゴリ表示モードの画面で説明しています。



カテゴリ表示モード



クラシック表示モード

● Windows XP Home Editionの画面で説明しています。

Windows XPには、Windows XP ProfessionalとWindows XP Home Editionの2種類のバージョンがあります。本書では、Windows XP Home Editionの画面で説明しています。

● Windows XPまたはWindowsと省略して表記しています。

本書では、Microsoft Windows XP Professional日本語版およびMicrosoft Windows XP Home Edition 日本語版を、Windows XPまたはWindowsと省略して表記しています。

▶ モデル名の表記ルール

本製品に付属の製品仕様書から、マニュアルで表記しているモデル名をご確認ください。

● マルチメディア機能の区別による表記

AVモデル

PCカードスロット・IEEE1394端子・メモリーカードスロット・TVチューナ・デジタルCRTポート等を搭載しているモデル

標準モデル

AVモデルにのみ搭載されている各インターフェイスがない、標準のモデル

● OSの区別による表記

XP Homeモデル

Windows XP Home Edition をインストールしているモデル

XP Proモデル

Windows XP Professional をインストールしているモデル



- ・本書中の画面・イラストはモデル、ご使用の環境により実際のものと異なる場合がございます。
- ・記載しておりますホームページの内容やアドレス、お問い合わせ番号は、本書制作時点のものであり、変更する場合がございます。

「SOTEC電子マニュアル」について

SOTEC電子マニュアルは、本機のマルチメディア機能の活用方法、およびWindows XPやインターネットの便利な使いかたを、図解つきでわかりやすく紹介しています。

SOTEC電子マニュアルの起動方法

SOTEC電子マニュアルはデスクトップ画面から簡単に起動できます。



1 デスクトップ画面のアイコンをダブルクリックします。

メニューが表示されます。

2 目的に応じたメニュータイトル右横の「Go!」をクリックします。

サブメニューが表示されます。

3 サブメニューの中からタイトルをクリックします。

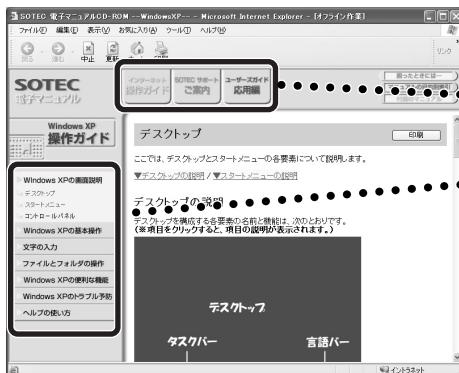
目的のコンテンツが表示されます。

クリックすると、他のメニューに移動できます。

クリックすると、他の情報に移動できます。



3



4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

46

47

48

49

50

51

52

53

54

55

56

57

58

59

60

61

62

63

64

65

66

67

68

69

70

71

72

73

74

75

76

77

78

79

80

81

82

83

84

85

86

87

88

89

90

91

92

93

94

95

96

97

98

99

100

101

102

103

104

105

106

107

108

109

110

111

112

113

114

115

116

117

118

119

120

121

122

123

124

125

126

127

128

129

130

131

132

133

134

135

136

137

138

139

140

141

142

143

144

145

146

147

148

149

150

151

152

153

154

155

156

157

158

159

160

161

162

163

164

165

166

167

168

169

170

171

172

173

174

175

176

177

178

179

180

181

182

183

184

185

186

187

188

189

190

191

192

193

194

195

196

197

198

199

200

201

202

203

204

205

206

207

208

209

210

211

212

213

214

215

216

217

218

219

220

221

222

223

224

225

226

227

228

229

230

231

232

233

234

235

236

237

238

239

240

241

242

243

244

245

246

247

248

249

250

251

252

253

254

255

256

257

258

259

260

261

262

263

264

265

266

267

268

269

270

271

272

273

274

275

276

277

278

279

280

281

282

283

284

285

286

287

288

289

290

291

292

293

294

295

296

297

298

299

300

301

302

303

304

305

306

307

308

309

310

311

312

313

314

315

316

317

318

319

320

321

322

323

324

325

326

327</p

動作環境

SOTEC電子マニュアルは以下の動作環境でのみ使用できます。

O S	ブラウザ
Windows XP Home Edition	Internet Explorer 6.0以降
Windows XP Professional	(※1)

※1 : JavaScriptおよびActive Xは無効にしないでください。

注意事項

- ・ SOTEC電子マニュアルは、株式会社ソーテックの著作物です。
- ・ SOTEC電子マニュアルは予告なしに変更される場合があります。また、SOTEC電子マニュアルを運用した結果については、一切の責任を負わないものとします。
- ・ SOTEC電子マニュアルで紹介されている各ソフトウェアは、ライセンスあるいはロイヤリティ契約のもとに供給されています。
- ・ SOTEC電子マニュアルは、著作権法によって保護されています。一部または全部を無断で複製、転載、改変、カスタマイズ、頒布することを禁じます。特にSOTEC電子マニュアルを編集および改変してご利用になると、本製品の誤使用の原因となる恐れがあります。

目 次

付属マニュアルの読みかた	
はじめに	1
本製品を正しく安全にお使い	
いただくために	2
法規について	6
マニュアルの読みかた	8
マニュアルの表記について	10
「SOTEC電子マニュアル」について	12
目 次	14

STEP1 セットアップをはじめよう

1 置き場所を決める	18
2 接続する	20
TVアンテナの接続	23
3 セットアップをはじめる	24
セットアップの準備をする	24
使用許諾契約書に同意する	26
本機を設定する	26
ユーザー名を登録する	28
セットアップを完了する	29
4 電源を切る	30
5 2回目以降に電源を入れたときは	31
6 電源を切らずに再起動する	32
7 ログオン/ログオフする	33
ログオンする	33
ログオフする	34
ユーザーの切り替え	35

STEP2 ご使用になる前に

1 各部の名前と機能を確認する	38
本体前面(まえ)	38
本体背面(うしろ)	40
2 マウスを使ってみよう	42
マウスの名前とはたらき	42
マウスの操作方法	43
3 キーボードを使ってみよう	44
各キーの機能	45
4 フロッピーディスクを 使ってみよう	48
フロッピーディスクの出し入れ	49
5 CD-ROMを使ってみよう	50
CD-ROMディスクの出し入れ	51
6 音量を調整する	52
スピーカの音量を調整する	52
7 画面の解像度を調整する	53

STEP3 周辺機器を使いこなす

1	使用できる周辺機器	56
	本体前面(まえ)	56
	本体背面(うしろ)	57
2	周辺機器を取り付ける前に	58
	取り付けは電源をOFFにしてから	58
	取り付け時の注意事項	59
	プラグアンドプレイについて	60
3	AV機器と接続する	62
	光デジタル対応の機器と接続する	62
	ヘッドホンと接続する	62
	マイクロホンと接続する	63
	デジタルビデオと接続する	63
	オーディオ機器と接続する	64
	ビデオやゲーム機器と接続する	65
4	USB対応の周辺機器を使う	66
	USB機器を接続する	66
5	PCカードを使う	68
	PCカードとは	68
	PCカードの差し込み	69
	PCカードの取り出し	71
6	メモリースティックを使う	72
	メモリースティックとは	72
	メモリースティックの差し込み	72
	メモリースティックの取り出し	73
7	SDメモリーカードを使う	74
	SDメモリーカードとは	74
	SDメモリーカードの差し込み	74
	SDメモリーカードの取り出し	75

STEP4 本体内部の増設について

1	本体カバーの取り付けと取り外し	78
	本体カバーの取り外し	78
	本体カバーの取り付け	79
2	前面カバーの取り付けと取り外し	80
	前面カバーの取り外し	80
	前面カバーの取り付け	81
3	各種カードの取り付けと取り外し	82
	オプションカードの取り付け	82
	オプションカードの取り外し	84
4	メモリの増設	85
	メモリについて	85
	メモリの取り付けと取り外し	86
	増やしたメモリを確認する	89
5	ハードディスクを増設する	90
	ハードディスクの種類	90
	内蔵ハードディスクドライブの交換	92

STEP5 困ったときには・・・

1 「おかしいな?」と思ったら	98
2 パソコンで調べる	99
3 困ったときのチェックリスト	100
SOTEC電子マニュアルで調べる	101
4 よくある質問集	102
パソコンを起動する前に	102
パソコンが動かない	102
パソコンを使っていたら	105

STEP6 パソコンを購入時の 状態に戻す(リカバリ)

1 リカバリの流れ	110
2 リカバリの準備をする	111
ファイルのバックアップ	111
Internet Explorerの『お気に入り』の バックアップ	111
Outlook Express 6のバックアップ	112
デスクトップ画面設定の バックアップ	116
ユーザー辞書のバックアップ	117
3 リカバリを実行する	118
リカバリ時のエラーメッセージと その対処法	124
4 パソコンの環境を元に戻す	126
パソコンの環境設定	126
製品購入後にインストールした アプリケーションソフトの設定	126
バックアップしたファイルを 元に戻す	126
Internet Explorerの『お気に入り』を 元に戻す	126
Outlook Express 6を元に戻す	127
デスクトップの画面設定を元に戻す	130
ユーザー辞書を元に戻す	131

付録

1 マザーボードの名前と機能	134
2 バックアップ電池の交換	136
バックアップ電池について	136
バックアップ電池の取り付けと 取り外し	137
3 5インチベイ機器の取り外し	138
4 3.5インチベイ機器の取り外し	139
5 電源ユニットの取り外し	141
6 BIOSを設定する	143
BIOSとは	143
BIOSセットアッププログラムの 起動方法	143
BIOSセットアッププログラムの終了	144
7 廃棄について	145
本製品の廃棄について	145
8 索引	147

1 STEP

セットアップをはじめよう

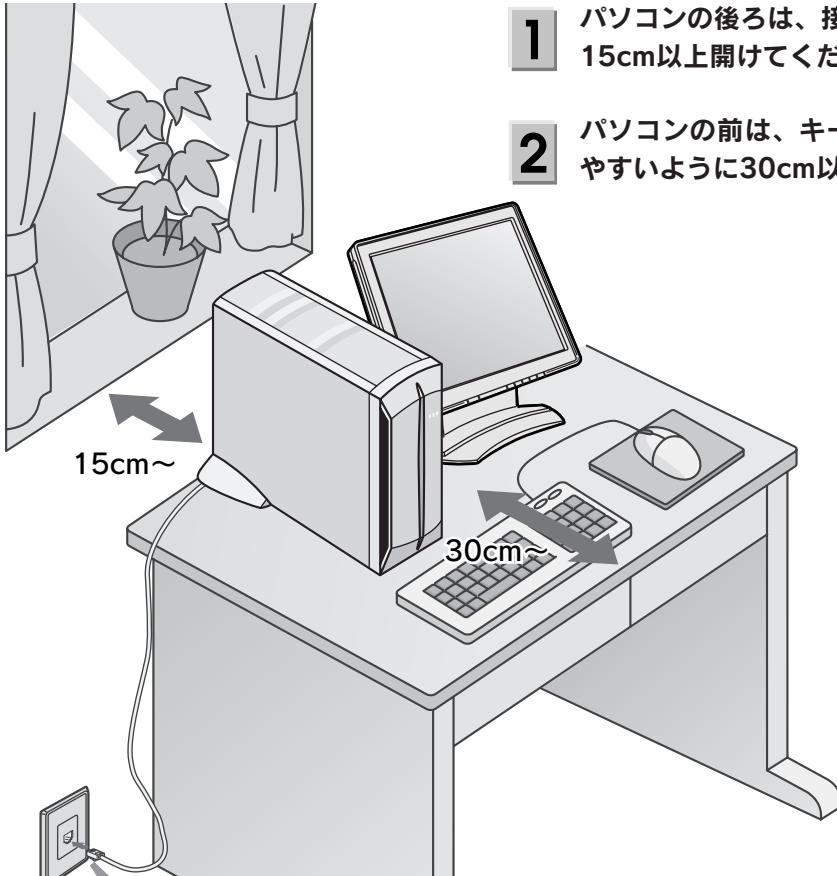
本製品の接続方法と、セットアップから電源のON、OFFまでを説明しています。
これから本製品を使うための準備をします。必ずお読みください。

1 置き場所を決める	18	7 ログオン/ログオフする	33
2 接続する	20	ログオンする	33
TVアンテナの接続	23	ログオフする	34
3 セットアップをはじめる	24	ユーザーの切り替え	35
セットアップの準備をする	24		
使用許諾契約書に同意する	26		
本機を設定する	26		
ユーザー名を登録する	28		
セットアップを完了する	29		
4 電源を切る	30		
5 2回目以降に電源を入れたときは	31		
6 電源を切らずに再起動する	32		

1

置き場所を決める

PC STATIONが手元に届いたら、まず、設置場所を決めてください。



1 パソコンの後ろは、接続ケーブルの配線のため、15cm以上開けてください。

2 パソコンの前は、キーボードやマウスが操作しやすいように30cm以上確保してください。

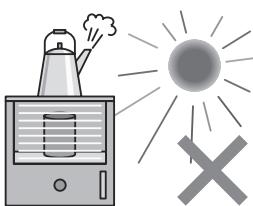
電話回線を使用してインターネットを利用する場合は、電話回線コンセントが近くにある場所を選んでください。



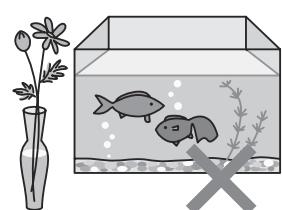
本機は、縦置き専用として設計されているため、横置きした場合での動作は保証しておりません。縦置きにしてご使用ください。

○置いてはいけない場所

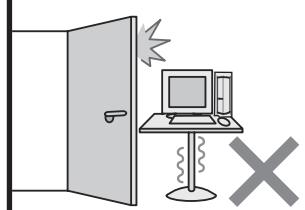
直射日光のあたる場所、ストーブなど熱源の近く。



水がかかるような場所。

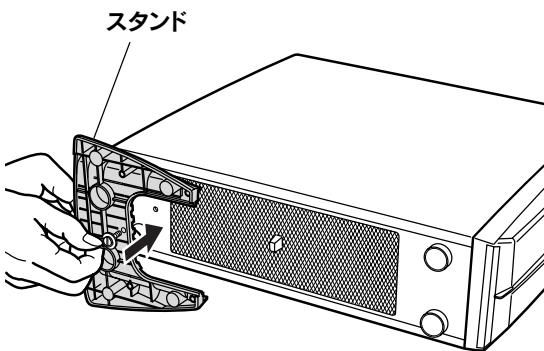


不安定な場所、物がぶつかりそうな場所。



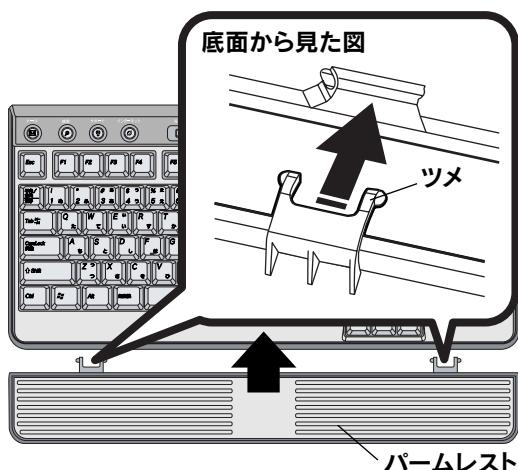
●スタンドの取り付け

本機は縦置き専用機です。付属のスタンドと本機を、ネジで固定してください。



●パームレストの取り付け

パームレストにある2つのツメをキーボードに、カチッと音がするまではめ込みます。

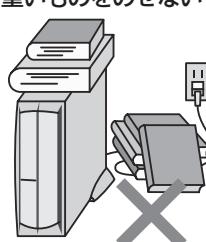


●管理について

ファンの通風孔を塞がないでください。通風孔は、本体の背面、上面、および底面にあります。



本体および電源ケーブルの上には重いものをのせないでください。



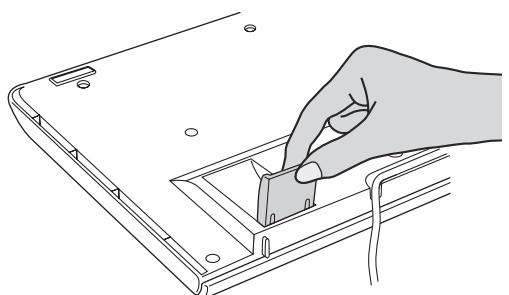
●正しい姿勢について

次のように正しい姿勢で、パソコンの前に座ってください。



●キーボードの角度調整について

キーボードの裏のツメを立てるこことによって、キーを打ちやすい角度に調整できます。



2

接続する

必要な機器を接続しましょう。

スキャナやプリンタなど、すでに周辺機器をお持ちの場合でも、Windows XP のセットアップが終了するまでは接続しないでください。

標準モデル

●本体背面

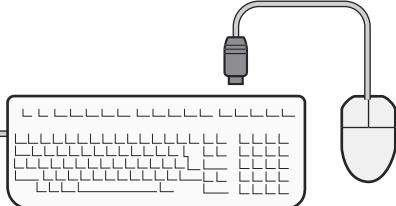
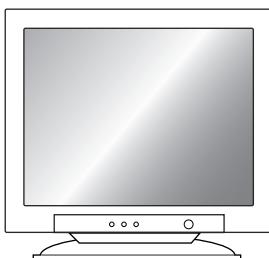
イラストを参考に、各周辺機器を接続してください。



- スピーカは、ご購入頂いた製品の構成によって付属しない場合があります。付属の「はじめにお読みください」をご参照の上、スピーカの有無をご確認ください。
- マウスのケーブルは、キーボード背面のマウスポートに接続してください。

2 ディスプレイ ()

4 スピーカ/
ディスプレイ内蔵
スピーカ ()
(液晶ディスプレイモデル)

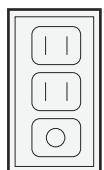


1 キーボードとマウス
( / )

3 アナログ電話回線 ()
(インターネットをする場合)

5 電源ケーブル

6 電源コンセント



AVモデル

●本体背面

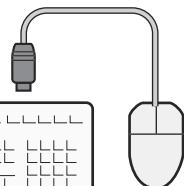
イラストを参考に、各周辺機器を接続してください。



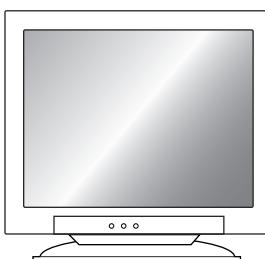
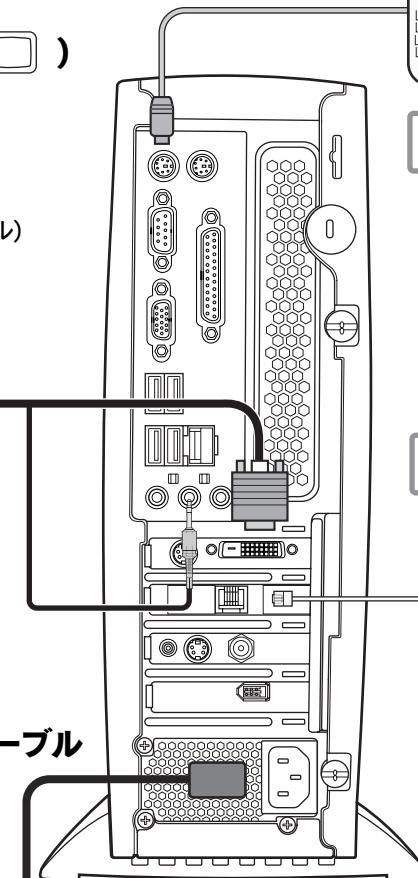
- スピーカは、ご購入頂いた製品の構成によって付属しない場合があります。付属の「はじめにお読みください」をご参考の上、スピーカの有無をご確認ください。
- マウスのケーブルは、キーボード背面のマウスポートに接続してください。



ディスプレイを接続するポートは、ディスプレイの種類により異なります。
アナログディスプレイ：アナログCRTポート
デジタルディスプレイ：デジタルCRTポート

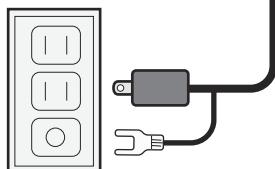


2 ディスプレイ (□)

4 スピーカ/
ディスプレイ内蔵
スピーカ (※)
(液晶ディスプレイモデル)1 キーボードとマウス
(□/白)3 アナログ電話回線 (□)
(インターネットをする場合)

5 電源ケーブル

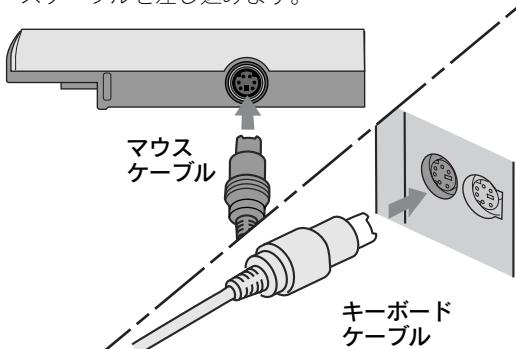
6 電源コンセント



●接続の詳細

1 キーボードとマウス (/)

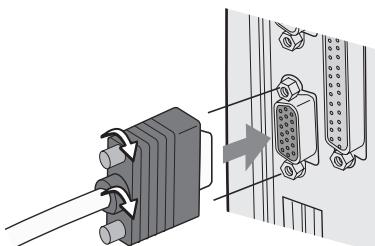
本体背面のキーボードポートにキーボードケーブルを、キーボード背面のマウスポートにマウスケーブルを差し込みます。



2 ディスプレイ ()

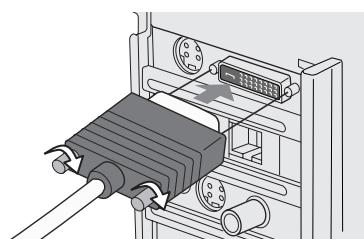
アナログディスプレイを接続する場合

アナログCRTポートへ、アナログディスプレイのプラグを差し込み、ネジで固定します。



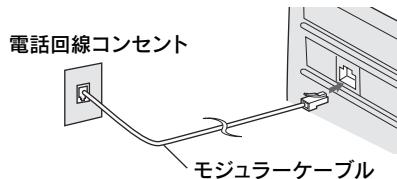
AVモデルでデジタルディスプレイを接続する場合

デジタルCRTポートへ、デジタルディスプレイのプラグを差し込み、ネジで固定します。



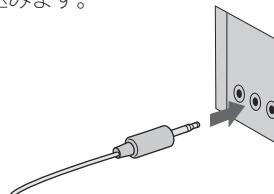
3 アナログ電話回線 ()

インターネットを利用する場合は、FAX/モデムポートに電話回線コンセントを接続します。



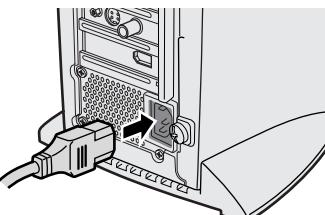
4 スピーカ/ディスプレイ内蔵スピーカ ()

ライン出力端子に、スピーカのピンジャックを差し込みます。



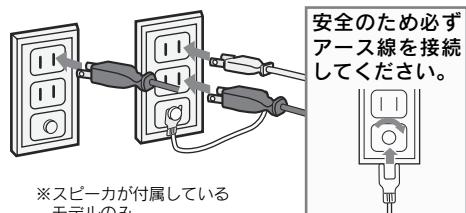
5 電源ケーブル

電源端子に電源ケーブルを差し込みます。



6 電源コンセント

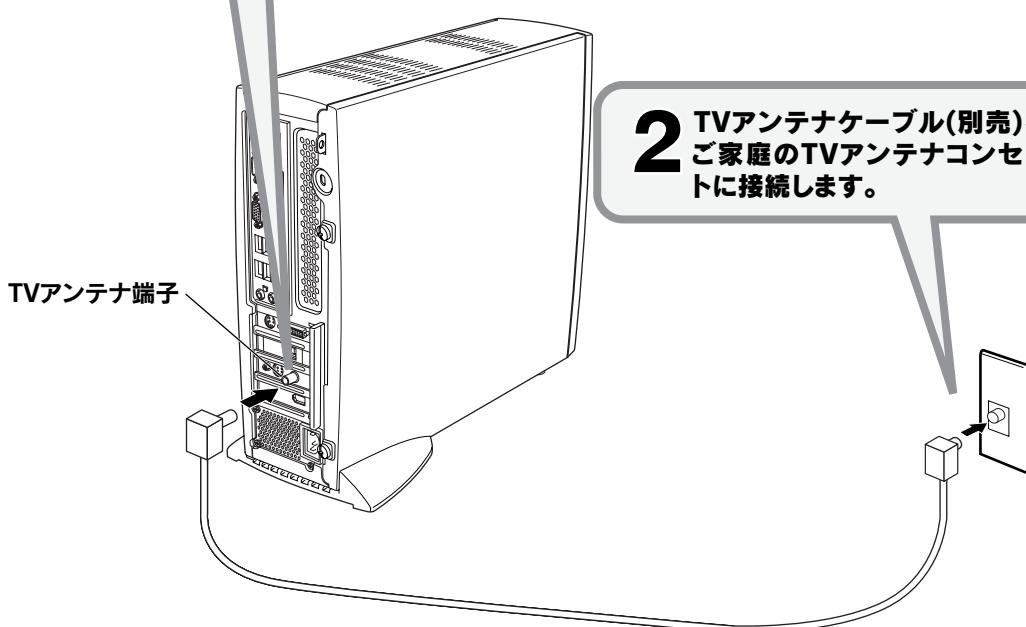
本機、ディスプレイ、スピーカ(※)の電源プラグを電源コンセントに差し込みます。



▶ TVアンテナの接続

AVモデル

- 1** ご家庭のTVアンテナケーブル(別売)をTVアンテナ端子に差し込みます。



STEP 1

セットアップをはじめよう

3

セットアップをはじめる

パソコンに自分の名前などを登録して、パソコンを使える状態にする作業のことを、「セットアップ」といいます。セットアップが終わると、さまざまなソフトが使えるようになります。

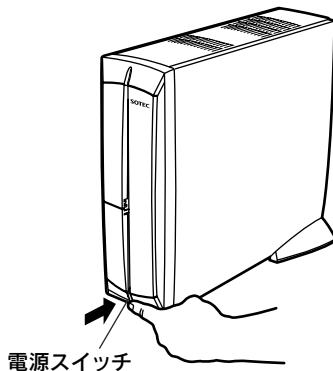
メモ

セットアップはあわてずに！

セットアップ作業中の画面の切り替えには、少し時間がかかることがあります。

これは、パソコン内部でいろいろな設定が処理されているためです。「しばらくお待ちください」といったメッセージが表示されたり、マウスカーソル(マウスポインタ)の矢印が (砂時計)になっているときは、キーボードのキーを押したり、マウスのボタンを何度も押さないでください。

セットアップの準備をする



1 スピーカ、ディスプレイの電源をONにします。

2 電源スイッチを押します。



パソコンの電源をONにしてから、しばらくの間は、画面の表示がいろいろ変化します。手順3の画面が表示されるまで、お待ちください。



注 意

電源がONになっている状態で無理やり電源ケーブルを差し込むと、短時間で通電と電源遮断が繰り返され、保護回路が作動します。保護回路が一度作動すると、電源をONできません。この場合、電源ケーブルを一度取り外し、30秒ほど時間をおいてから、再度差し込んでください。

チェック

操作の途中で電源を切らない！

セットアップ作業には、少し時間がかかります。

セットアップの作業中は、絶対にパソコンの電源を切らないでください。セットアップが終わる前に電源を切ると、故障の原因になります。

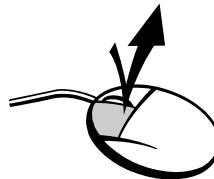
マウスの使いかた

ここではマウスを一度も使ったことがない方を対象として、次の手順に入る前に、マウスの使いかたを簡単に説明します。

クリック

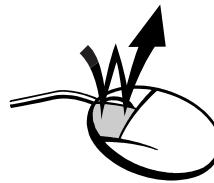
画面の文字やアイコンなどにマウスの矢印を合わせ、マウスのボタンを1回押す操作を「クリック」といいます。

本書中で、「左クリックします」と表記されていた場合は、マウスの左ボタンをクリックしてください。クリックは、マウスを使うときの最も基本的な動作です。



ダブルクリック

画面の文字やアイコンなどにマウスの矢印を合わせ、マウスの左ボタンを素早く2回押す操作を「ダブルクリック」といいます。デスクトップ上やウィンドウ内のアイコンなどを起動するときに使います。



3

[次へ]ボタンにマウスの矢印を合わせて、左クリックします。

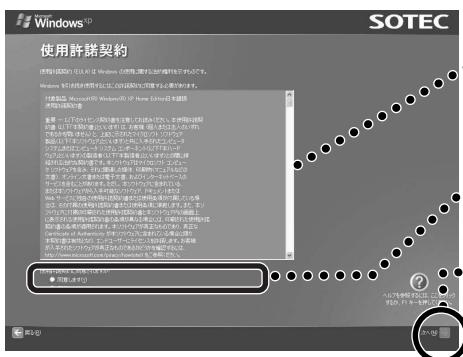
チェック

分からないう�があつたら・・・

Windows XPのセットアップの途中で分からないう�があれば、ヘルプで調べることができます。②をクリックするか[F1]キーを押すとヘルプを参照できます。

▶ 使用許諾契約書に同意する

使用許諾契約書に同意します。同意しないと、Windows XPを使用できません。



1 使用許諾契約書を確認します。

2

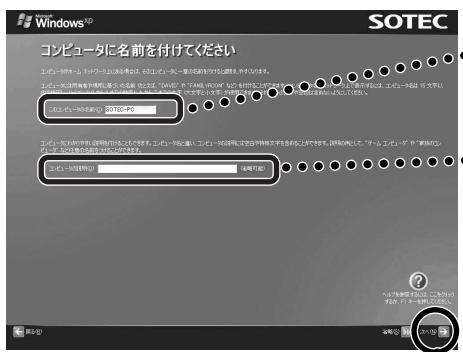
同意したら、[同意します]のを左クリックして、に変えます。

3

[次へ]ボタンを左クリックします。

▶ 本機を設定する

コンピュータに名前をつきます。例として、「SOTEC-PC」と入力します。



1

キーボードから、S O T E C - P Cの順にキーを押します。

2

任意でコンピュータの説明を入力します。

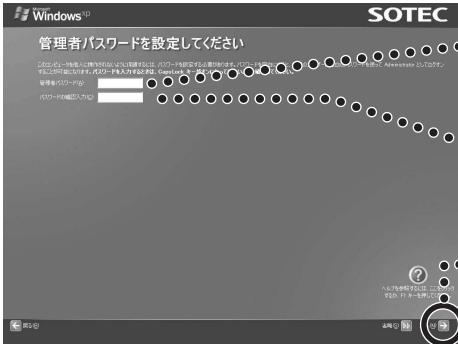
メモ 省略してもかまいません。

3

[次へ]ボタンを左クリックします。

XP Proモデルの方は 4 へ進む

XP Homeモデルの方は 9 へ進む



4 「管理者パスワード」の欄に、任意でパスワードを入力します。

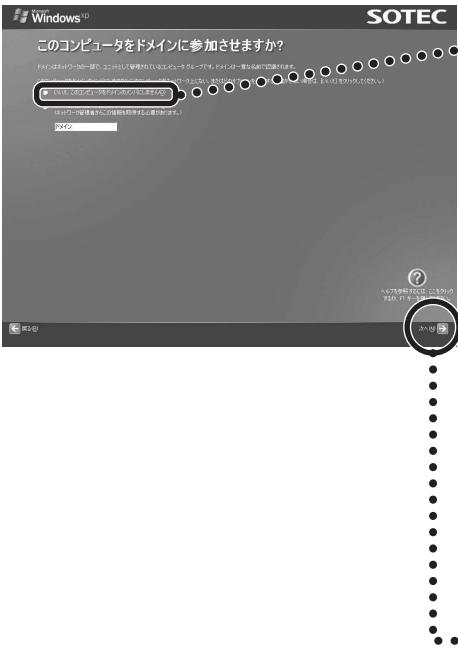
5 「パスワードの確認入力」の欄に「管理者パスワード」と同じパスワードを入力します。

6 [次へ]ボタンを左クリックします。

チェック

管理者パスワードとは

「管理者パスワード」とは、本機の設定を管理する人のためのパスワードです。ここで設定したパスワードは絶対忘れないようにしてください。パスワードを忘れてしまうとWindows XPの再インストール(リカバリ)が必要になります。



7 「いいえ、このコンピュータをドメインのメンバにしません」にチェックを入れます。

チェック

ドメインの登録

クライアントサーバ型のネットワークを構成しているネットワークに、本機を接続する際はドメインの登録が必要になります。ただし、ドメインの設定はセットアップ終了後におこなうことができますので、必ずしもセットアップ中に実行する必要はありません。ドメインの登録に関する詳細は、市販のネットワークの専門書籍をご参考ください。なお、ご家庭などで通常にご使用いただく場合は、ドメインの設定は必要はありません。

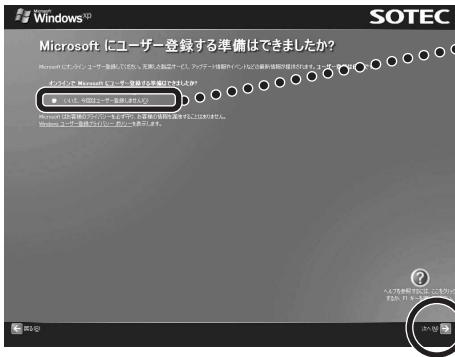
8 [次へ]ボタンを左クリックします。



9 [省略]ボタンを左クリックします。



インターネットへの接続設定は、セットアップ終了後に実行することをお勧めします。



10

ここでは、「いいえ、今回はユーザー登録しません」にチェックを入れます。

チェック

オンラインでのユーザー登録は、事前にインターネット接続を設定する必要があります。また、ユーザー登録は、セットアップ後でも行えます。

11

[次へ]ボタンを左クリックします。

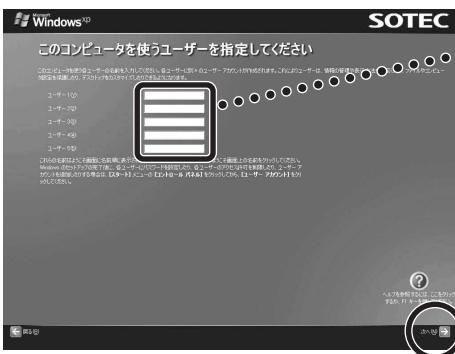


ここでオンライン登録する必要はありません

オンライン登録は、セットアップ終了後に行うことをお勧めします。このマニュアルでは、オンライン登録するための、インターネットの設定方法を説明していません。左のような画面が表示されてしまった場合は、[戻る]ボタンを左クリックして1つ前の画面に戻ってください。

ユーザー名を登録する

本機を使用するユーザーのユーザー名(ユーザーアカウント)を入力します。



1

各ユーザー名を任意で入力します。

チェック

・ユーザー名は最低1つ以上入力してください。
・複数のユーザーで使用する場合、ユーザー名が同じにならないようにしてください。

2

[次へ]ボタンを左クリックします。

メモ

セットアップ終了後でも、「コントロールパネル」の「ユーザーアカウント」からユーザーを追加することができます。

▶ セットアップを完了する

いよいよセットアップの完了です。



1

[完了]ボタンを左クリックします。

クリックした後、本機は自動的に再起動します。



再起動中は、画面の表示がいろいろ変化しますが、パソコンの異常ではありません。絶対に電源を切らないでください。



※再起動後に表示されるデスクトップ画面は、ご購入いただいたパソコンによって異なります。

再起動が終了して、左の画面が出てきたら、セットアップは完了です。いよいよインターネット、メール、オーディオ、ゲームなどが使えるようになります。



リカバリCD-ROMとアプリケーションCD-ROMの作成

CD-ROM ドライブ以外の光ディスクドライブを搭載したモデルでは、リカバリCD-ROMおよびアプリケーションCD-ROMが付属しておりません。付属の「はじめにお読みください」をご参照の上、各CD-ROMを作成してください。

STEP 1

セットアップをはじめよう

4

電源を切る

セットアップが終了したら、電源をOFFにしましょう。



1

[スタート]ボタン→[終了オプション]を選択します。



いきなり電源スイッチを押して電源をOFFにする動作を繰り返すと、Windows XPの
注 意 システムが壊れて、Windows XPの再インストールが必要になることがあります。電源をOFFにするときは正しい手順で操作してください。



2

[電源を切る]をクリックします。



キーボードを使ってWindowsを終了するには

■ キーを押し、キーで[終了オプション]を選択します。【コンピュータの電源を切る】ダイアログが表示されたら、再度キーを押します。

自動的に本体の電源がOFFになります。

3

必要に応じて周辺機器の電源をOFFにします。



SOTEC「電子マニュアル」参照

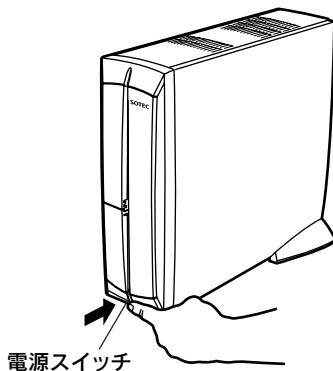
省電力機能

メニュー>ユーザーズガイド応用編>省電力機能

5

2回目以降に電源を入れたときは

Windows XPセットアップが終了すれば、次に電源をONにしたとき、そのままWindows XPのデスクトップ画面が表示されます。



1

電源スイッチを押します。



2

しばらくすると、Windows XPのデスクトップ画面が表示されます。

チェック

リカバリCD-ROMを光ディスクドライブに入れたままパソコンの電源をONにすると、リカバリの開始画面が表示されます。その場合、画面の指示に従い、再インストールの中断後、リカバリCD-ROMを取り出してから再起動してください。

※再起動後に表示されるデスクトップ画面は、ご購入いただいたパソコンによって異なります。

STEP 1

セットアップをはじめよう

6

電源を切らずに再起動する

デバイスドライバのインストールが終了した後や、Windowsの動作が不安定(画面が流れたり、画面が動かない)になったときは、次の手順で、Windowsを再起動させます。



1 [スタート]ボタン→[終了オプション]を選択します。

【コンピュータの電源を切る】ダイアログが表示されます。



2 [再起動]をクリックします。

メモ 画面が固まってしまったら・・・
アプリケーションソフトの操作中に、マウスカーソルが動かなくなってしまったときなど、操作が続けられないときは、**Ctrl** + **Alt** + **Delete**キーを同時に押してください。再起動せずに特定のアプリケーションソフトを終了させることができます。

ログオン/ログオフする

本製品を複数の人間で利用するとき、ログオン/ログオフ作業が必要です。ログオンすることで、各自の使用環境を切り分けて本製品を使えます。

ログオンする

Windows起動時にログオンするユーザーアカウントを選択すると、対応する使用環境が割り当てられます。



1

パソコンの電源をONにします。

しばらくするとユーザーアカウントの選択画面が表示されます。

2

ログオンするユーザーアカウントを選択します。パスワードが設定されている場合は、パスワードを入力します。



メモ パスワードが拒否された場合は、大文字と小文字を間違って入力していないか再度ご確認ください。Windows XPでは、Tarouとtarouは違う文字列として判別されます。



しばらくすると、Windows XPのデスクトップ画面が表示されます。

チェック

パスワードを設定する場合、入力したパスワードはメモをとるなどして、忘れないようにしてください。

※再起動後に表示されるデスクトップ画面は、ご購入いただいたパソコンによって異なります。

▶ログオフする

本製品起動時にログオンしたユーザーアカウントを、ログオフします。

ログオフすることで、今まで使用していたユーザーアカウントでの作業内容はリセットされます。



1

[スタート]ボタン→[ログオフ]を選択します。

[Windowsのログオフ] ダイアログが表示されます。



2

[ログオフ]をクリックします。

現在選択されているユーザーアカウントがログオフされます。

▶ ユーザーの切り替え

「ログオン/ログオフ」機能では、新しいユーザーアカウントでログオンするには、それまで使用していたユーザーアカウントをログオフしなければなりませんでした。

それに対して、「ユーザーの切り替え」機能を使うと、同時に複数のユーザーアカウントで本機にログオンできます。

ユーザーアカウントを切り替えることで、ログオフせずに使用環境を使い分けることができます。

STEP1

セットアップをはじめよう



1

[スタート]ボタン→[ログオフ]を選択します。

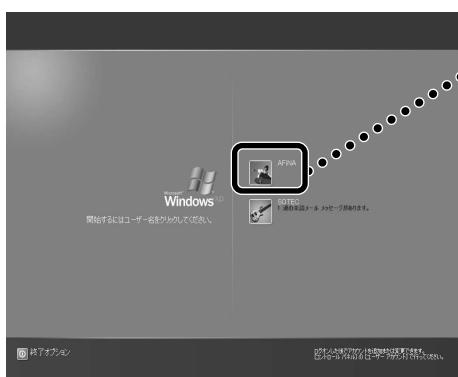
【Windowsのログオフ】ダイアログが表示されます。



2

[ユーザーの切り替え]をクリックします。

ユーザーアカウントの選択画面が表示されます。
(今まで使用していたユーザーアカウントはログオフされません。)



3

新しく使用するユーザーアカウントを選択します。

新たなユーザーアカウントでWindows XPにログオンしました。

以上でユーザーの切り替えは終了です。

STEP 2

ご使用になる前に

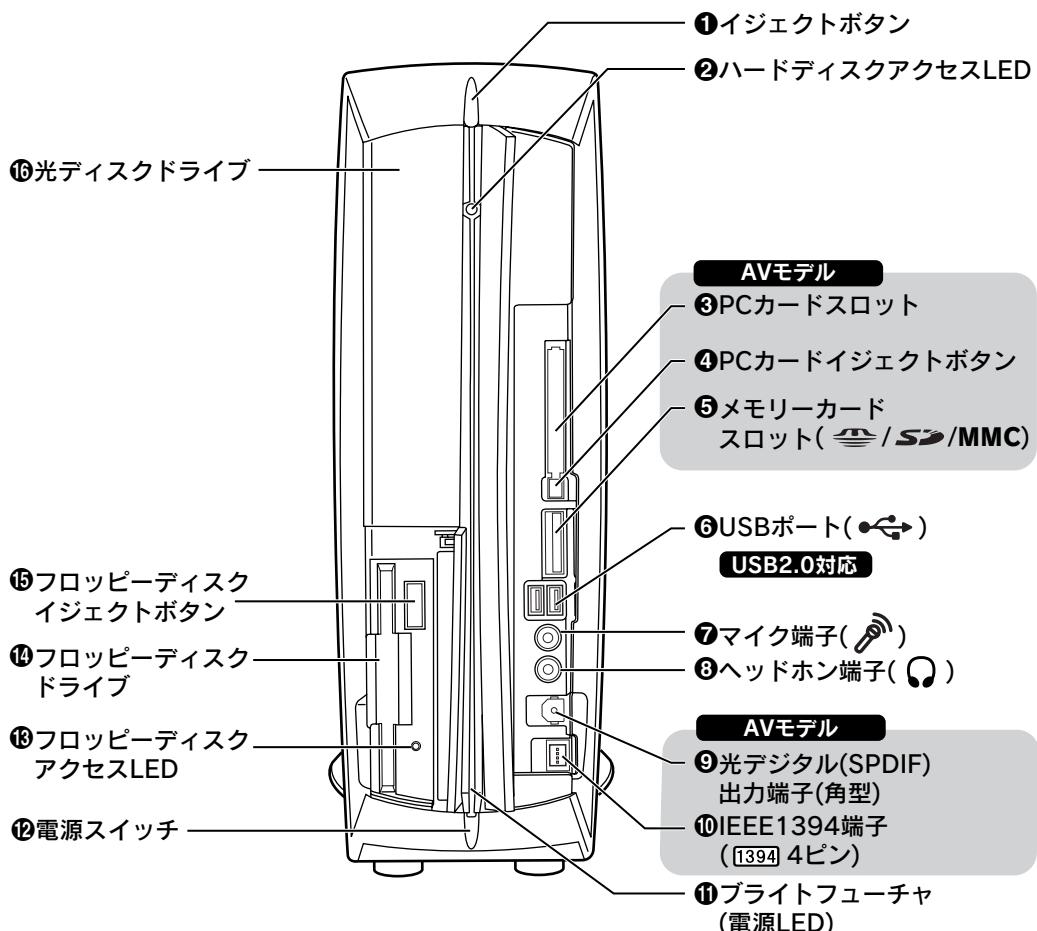
本製品各部の名前と機能の説明、フロッピーディスクや光ディスクドライブなど、本製品の基本的な操作方法を説明しています。必ずお読みください。

1 各部の名前と機能を確認する	38	4 フロッピーディスクを 使ってみよう	48
本体前面(まえ)	38	フロッピーディスクの出し入れ	49
本体背面(うしろ)	40		
2 マウスを使ってみよう	42	5 CD-ROMを使ってみよう	50
マウスの名前とはたらき	42	CD-ROMディスクの出し入れ	51
マウスの操作方法	43		
3 キーボードを使ってみよう	44	6 音量を調整する	52
各キーの機能	45	スピーカの音量を調整する	52
		7 画面の解像度を調整する	53

各部の名前と機能を確認する

本体各部の名前とその機能について説明しています。なお、別のページで詳しく説明されている部分もありますので、参照ページもあわせてお読みください。

本体前面(まえ)



① イジェクトボタン

光ディスクドライブにディスクを挿入するとき、または取り出すときに押すボタンです。
(☞ 51ページ)

② ハードディスクアクセスLED

ハードディスクドライブ、または光ディスクドライブへのアクセス中に点灯します。

③ PCカードスロット **AVモデル**

PC Card Standard準拠のPCカードを差し込みます。
(☞ 68~71ページ)

④ PCカードイジェクトボタン **AVモデル**

差し込んだPCカードを取り出すボタンです。
(☞ 71ページ)

⑤ メモリーカードスロット(**SD / MMC**) **AVモデル**

メモリースティック、SDメモリーカード、MMCを差し込みます。(☞ 72~75ページ)

チェック メモリースティック、SDメモリーカード、MMCには差し込む向きがあります。方向を確認して、正しく差し込んでください。(☞ 72、74ページ)

⑥ USBポート(**USB2.0対応**)

USB対応の周辺機器を接続します。USB1.1規格準拠の周辺機器も使用できますが、転送速度などはUSB1.1規格(Full-Speed)に基づきます。
(☞ 66~67ページ)

⑦ マイク端子(**マイク**)

マイクロホンを接続します。マイクロホンからの音声を本機に取り込みます。(☞ 63ページ)

⑧ ヘッドホン端子(**ヘッドホン**)

スピーカまたはヘッドホンを接続します。
(☞ 20~22、62ページ)

⑨ 光デジタル(SPDIF)出力端子(角型) **AVモデル**

光デジタル入力端子を持つオーディオ機器を接続します。(☞ 62ページ)

⑩ IEEE1394端子(**IEEE1394** 4ピン)**AVモデル**

DV端子付きのデジタルビデオなどを接続します。背面には6ピンの端子が付いています。
(☞ 63ページ)

⑪ ライトフューチャ(電源LED)

本機の電源状態を表示します。また、LEDの点灯でメール着信などを知らせることもできます。



ライトフューチャの設定方法は、SOTEC電子マニュアル内に収録されている「ライトフューチャ取扱説明書」をご参照ください。

⑫ 電源スイッチ

本体の電源をONします。(☞ 24ページ)

また、電源スイッチを押したときに、省電力機能で設定した動作を実行できます。



注意

ハードディスクアクセスLED、およびフロッピーディスクアクセスLEDが点灯している間は、電源をOFFにしないでください。ドライブの故障や、データの破損の恐れがあります。

また、電源をOFFにした後に再度電源をONするときは、5秒以上待ってから操作してください。

⑬ フロッピーディスクアクセスLED

フロッピーディスクドライブへのアクセス中に点灯します。

⑭ フロッピーディスクドライブ

3.5インチフロッピーディスクを挿入します。
(☞ 49ページ)

⑮ フロッピーディスクイジェクトボタン

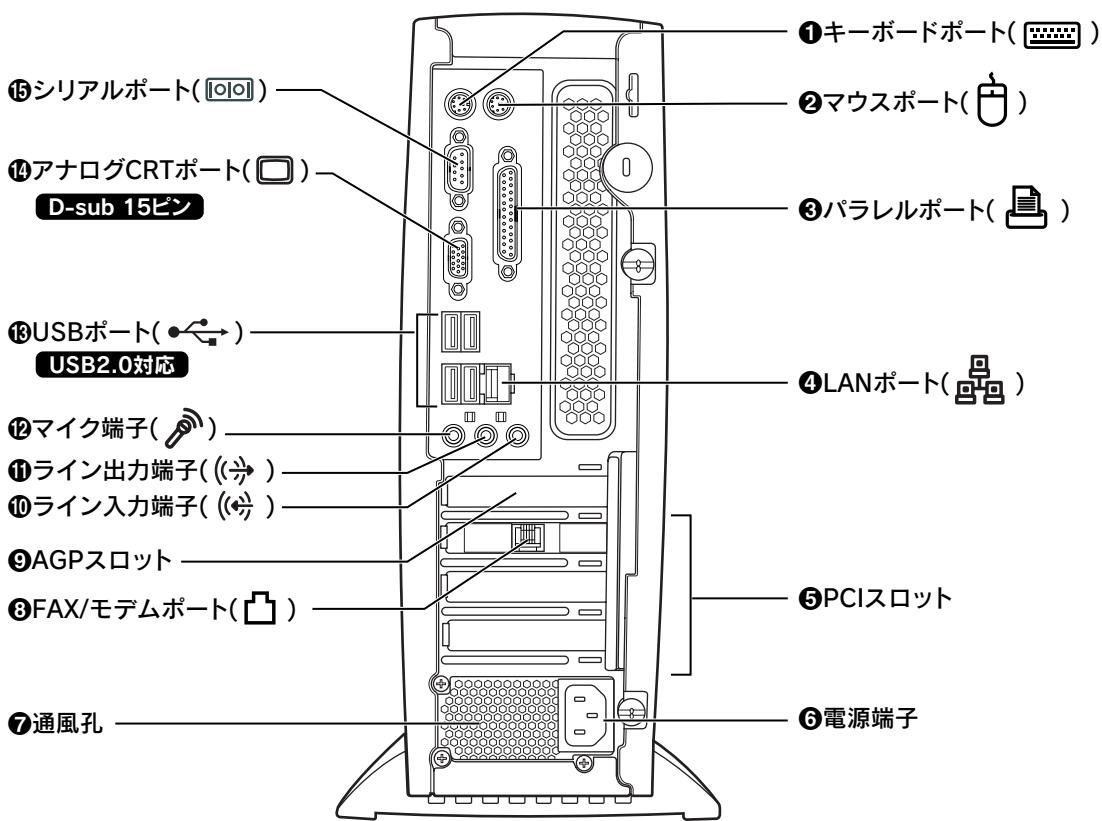
フロッピーディスクドライブに挿入したフロッピーディスクを、取り出すときに押すボタンです。
(☞ 49ページ)

⑯ 光ディスクドライブ

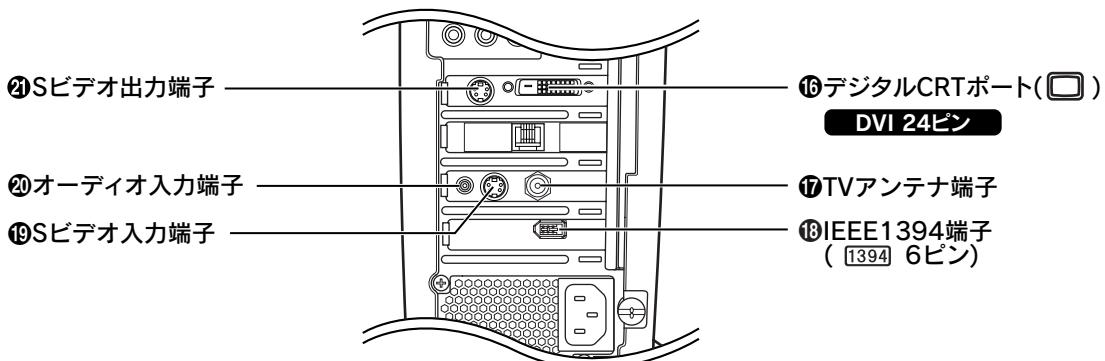
光ディスクドライブが読み込み可能なディスクを挿入します。光ディスクドライブの仕様は、製品の構成によって異なります。

(☞ 50~51ページ)

▶本体背面(うしろ)



AVモデル



① キーボードポート()

付属のキーボードを接続します。
([20~22ページ](#))

② マウスポート()

付属のマウスを接続します。([20~22ページ](#))

③ パラレルポート()

プリンタなどのパラレルポートを使う周辺機器を接続します。

④ LANポート()

10BASE-T/100BASE-TXのLAN接続ができます。



本機のLANポートに接続できるケーブルは10BASE-T/100BASE-TX規格のイーサネットケーブルのみです。それ以外の規格のケーブルは使用しないでください。特にISDNケーブル・モジュラーケーブルは、絶対にLANポートへ接続しないでください。故障の原因となります。

⑤ PCIスロット

本体力バーを取り外して、Low Profile規格対応のオプションカードを装着します。
([82~84ページ](#))

⑥ 電源端子

電源ケーブルを接続します。([20~22ページ](#))

⑦ 通風孔

本機内部を冷却する外気を吸入します。壁などで塞がないようにしてください。



熱は本体の上面、および底面から排気されます。物などを置かれて排気の妨げにならないようご注意ください。また、長時間起動すると熱くなることがありますので直接手で触れないようにご注意ください。

⑧ FAX/モデムポート()(モデム搭載モデルのみ)

アナログ電話回線と接続します。
([20~22ページ](#))



モジュラーケーブル以外のケーブルは絶対に差し込まないでください。故障の原因となります。

⑨ AGPスロット

本体力バーを取り外して、Low Profile規格対応のビデオカードを装着します。([83ページ](#))

⑩ ライン入力端子()

外部オーディオ機器を接続し、音声を本機に取り込みます。([64ページ](#))

⑪ ライン出力端子()

スピーカまたはヘッドホンを接続します。
([20~22ページ](#))

⑫ マイク端子()

マイクロホンを接続します。マイクロホンからの音声を本機に取り込みます。([63ページ](#))

⑬ USBポート() **USB2.0対応**

USB対応の周辺機器を接続します。USB1.1規格準拠の周辺機器も使用できますが、転送速度等はUSB1.1規格(Full-Speed)に基づきます。([66~67ページ](#))

⑭ アナログCRTポート() **D-sub 15ピン**

ディスプレイを接続します。([20~22ページ](#))

⑮ シリアルポート()

モデムなどシリアルポートを使う周辺機器を接続します。

⑯ デジタルCRTポート() **DVI 24ピン****AVモデル**

デジタルディスプレイを接続します。
([21~22ページ](#))

⑰ TVアンテナ端子 **AVモデル**

TVアンテナからの同軸ケーブルを接続します。
([23ページ](#))

⑱ IEEE1394端子( 6ピン)**AVモデル**

DV端子付きのデジタルビデオなどを接続します。前面には4ピンの端子が付いています。

⑲ Sビデオ入力端子 **AVモデル**

Sビデオ出力端子を持つテレビやビデオと接続し、本機にS映像を入力します。([65ページ](#))

⑳ オーディオ入力端子 **AVモデル**

テレビやビデオと接続して、本機に映像ソースの音声を入力します。([65ページ](#))

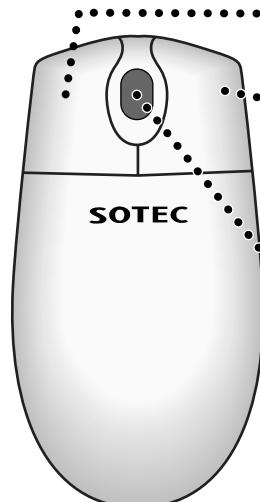
㉑ Sビデオ出力端子 **AVモデル**

Sビデオ入力端子を持つテレビやビデオと接続し、本機にあるS映像を出力します。

マウスを使ってみよう

本機では、文字の入力以外、ほとんどの操作をマウスで行います。ここでは、マウスの基本操作を説明します。

マウスの名前とはたらき



左ボタン

左クリックするときに押します。

右ボタン

右クリックするときに押します。

ホイール

画面を上下にスクロールするときなどに、このホイールを前後に回します。

※製品によっては形状が異なることがあります。



注意

マウス底面部から射出されている赤い光を見ないでください。目を傷つける恐れがあります。



本製品に付属しているマウスは、光学式マウスです。マウスの底面部から出ている赤い光が、マウスの動きを読み取ります。このため、マウスの使用中はマウス底面部が赤く光りますが、故障ではありません。



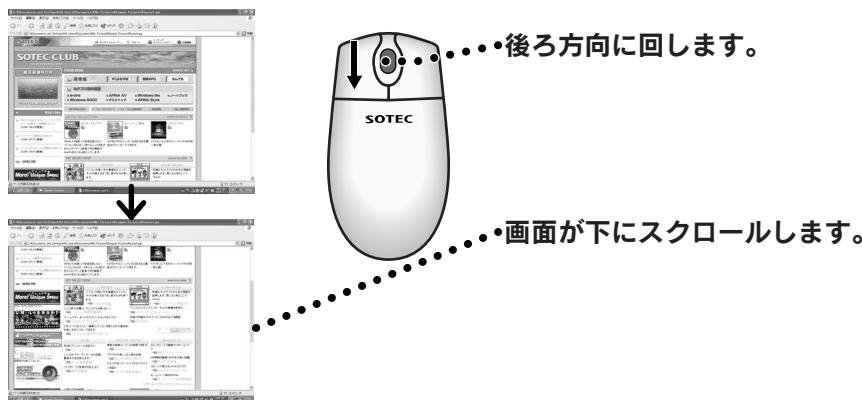
マウスを使用するときは、次のことに注意してください。

- ・ 平らな場所でお使いください。
- ・ 鏡などの光を反射するような素材や、ガラスなどの光を透過する素材の上では使わないでください。
- ・ マウスのケーブルを引っかけないでください。
- ・ マウスのケーブルを強く曲げたり、引っ張ったりしないでください。
- ・ マウス裏面のネジを外さないでください。
- ・ コネクタ内のピンに直接触れないでください。

マウスの操作方法

●スクロール

マウスのホイールを回すと、Windowsの画面をスクロールできます。



SOTEC 「電子マニュアル」 参照

マウスの操作方法

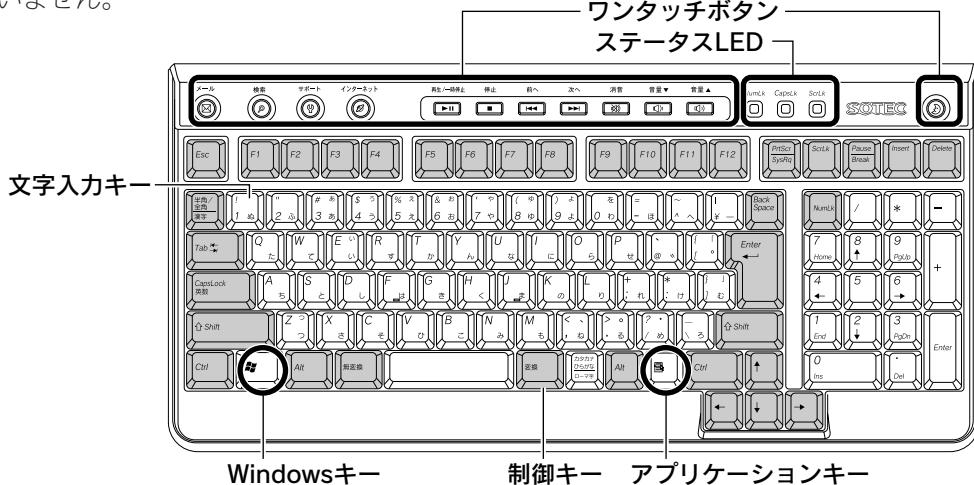
メニュー>ユーザーズガイド応用編>マウス>
マウスの操作方法

キーボードを使ってみよう

キーボードは、文字や記号を入力したりパソコンへ指示をする役目をもっています。ここでは、キーボードの各キーの名前や機能について説明します。

キーはその機能によって、役割が大きく5つに分かれます。

ここでは便宜上、キーボードにアミをかけて説明していますが、製品のキーボードは色分けされていません。



● Windowsキー

単独で押すとWindows XPの「スタート」メニューを表示します。次のキーと合わせて押すと、Windows XPの代表的な機能がすぐに使えます。

- 【 + F1】 Windows XPの「ヘルプとサポートセンター」を表示
- 【 + M】 ウィンドウの最小化
- 【 + Tab】 タスクバーに表示されているボタンの切り替え
- 【 + R】 【ファイル名を指定して実行】ダイアログを表示
- 【 + E】 マイコンピュータを起動
- 【 + F】 ファイルとフォルダ検索画面を起動
- 【 + Pause】 【システムのプロパティ】ダイアログを表示
- 【 + Ctrl + F】 コンピュータの検索画面を起動

● ワンタッチボタン

ワンタッチボタンを押すと、ボタンに割り当てられている機能を実行します。

● アプリケーションキー

マウスの右ボタンに相当します。使用するアプリケーションによって動作が異なります。お使いのアプリケーションソフトのマニュアルをご参照ください。

● 制御キー(薄いアミ部分)

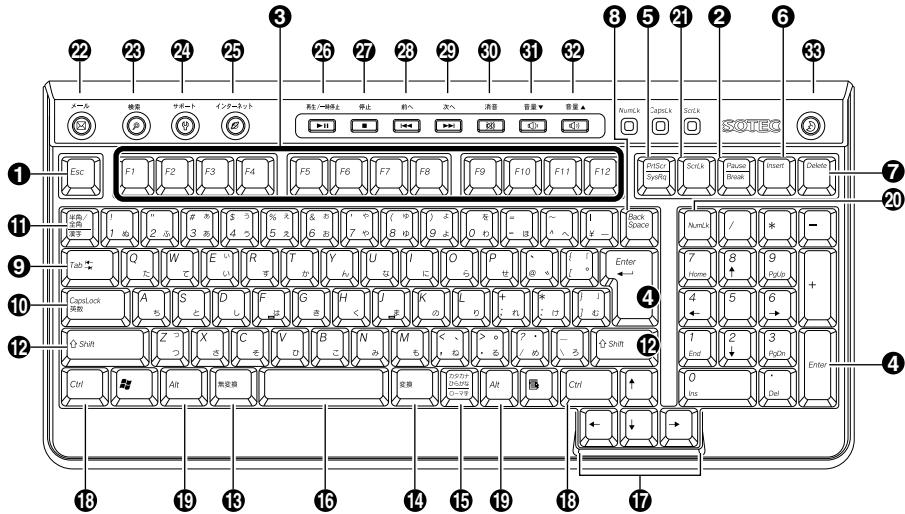
文字入力キーと組み合わせて使うキー、入力位置を決めるキー、パソコンに対してコマンド(命令)を送るキーなどです。これらのキーだけを使って文字を直接入力することはできません。

● 文字入力キー

主に、アルファベットやひらがな、カタカナ、数字、記号などを入力するためのキーです。1つのキーに2つ以上の文字が割り当てられており、**CapsLock** **Shift** **NumLk** ひらがな カタカナ の各キーと組み合わせて、目的の文字が入力できます。

各キーの機能

ここでは、キーボードの各キーの名前と機能を説明しています。



中止や中断させるコマンド(命令)を送るときに使います。

① Esc(エスケープ)キー

設定を取り消したり、実行を中止します。

② Pause Break(ポーズ・ブレーク)キー

実行されているものを中断したり、ブレーク信号を送ります。

設定されている機能を呼び出すときに使います。

③ ファンクションキー

F1からF12までの12個のキーにそれぞれ別の機能やコマンド(命令)が割り付けられています。キーを押したときの動作はアプリケーションにより異なります。

コマンド(命令)や設定されたものを決定するときに使います。

④ Enter(エンター)キー

通常、あるコマンド(命令)の実行を決定したり、設定されたものを確定させる場合に押します。また、文字を入力しているときは、このキーで改行できます。

画面のハードコピーをとるときに使います。

⑤ PrtScr(プリントスクリーン)キー

表示されている画面を取り込んでクリップボードに転送します。

文字を編集するときに使います。

⑥ Insert(インサート)キー【ロックされます】

文字入力のモードを切り替えます。1回押すごとに、カーソル位置にある文字の間に挿入する「インサートモード」と、カーソル位置の文字に上書きする「タイプオーバーモード」が切り替わります。

⑦ Delete(デリート)キー

カーソル位置から右側の文字を削除します。カーソル位置は変わりません。

⑧ Back Space(バックスペース)キー

カーソル位置から、左側の文字を削除します。カーソル位置は左に動きます。

⑨ Tab(タブ)キー

文字を入力しているときに押すと、タブが挿入されカーソルが右に移動します。[Shift]キーと同時に押すと、一つ前のタブ位置まで戻ります。また、表計算やデータベースなどのアプリケーションでは、次の項目への移動などに使われます。

文字入力キーと組み合わせて、文字を入力するときに使います。

⑩ CapsLock(キャップスロック)・英数キー

【ロックされます】

アルファベットを入力するときの文字種を切り替えます。[Shift]キーと同時に1回押すごとに、「大文字モード」と「小文字モード」が切り替わります。また、ひらがな/カタカナモードからアルファベットや数字を入力する英数モードに切り替えるときにも使います。

(☞ 47ページ「メモ」)

⑪ 半角/全角キー【ロックされます】

文字を入力しているときの文字種を切り替えます。Windows XPの日本語入力システムMicrosoft IMEでは、1回押すごとに「日本語入力モード」がオン/オフになります。また、[Alt]キーと同時に押すと「日本語入力モード」になります。

⑫ Shift(シフト)キー

他のキーと同時に押すことで別の機能を実行したり、実行方法を一時的に変えたりすることができます。例えば、「大文字モード」で文字を入力しているときに、アルファベットキーと同時に押すと、小文字で入力することができます。

空白を入れたり、漢字に変換するときに使います。

⑬ 無変換キー

日本語入力システムを使っているときに、入力した文字を漢字などに変換したくない場合に押すと、入力モードが変わります。

⑭ 変換キー

日本語入力システムを使っているときに、入力した文字を漢字などに変換するときに押します。

⑯ カタカナ/ひらがなキー【ロックされます】

「カタカナモード」と「ひらがなモード」を切り替えます。「カタカナモード」のときはこのキーのみ押すと、「ひらがなモード」に、「ひらがなモード」のときは[Shift]キーと同時に押すと「カタカナモード」に切り替わります。また、[Ctrl]+[Shift]キーと同時に押すとカナキー入力のオン/オフを切り替えることができます。

⑯ スペースキー

文字を入力しているときに押すと、スペース(空白)が入ります。

カーソルを動かしたりページをめくるときに使います。

⑰ カーソルキー

キーに表記されている矢印の方向に、カーソルが移動します。

他のキーと組み合わせて機能を実行するときに使います。

⑱ Ctrl(コントロール)キー

文字入力キーや、他の制御キーと組み合わせて使うことにより、特定の動作ができます。

⑲ Alt(オルト)キー

オルタネートキーともいい、文字入力キー、他の制御キーと組み合わせて使うことにより、特定の動作ができます。

⑳ NumLk(ニューメリックロック)キー

【ロックされます】

ロックすると、テンキーをテンキーとして動作させます。ロックを外すと、テンキーを特定の動作キーとして動作させます。

出荷時はロックが外れた状態になっています。

(☞ 47ページ「メモ」)

㉑ ScrLk(スクロールロック)キー

【ロックされます】

使用しているソフトにより動作は異なりますが、通常はカーソルキーの動きを変えることができます。

出荷時はロックが外れた状態になっています。

(☞ 47ページ「メモ」)

ワンタッチで割り当てられている機能が実行します。

㉙ メールキー

Outlook Expressが起動します。

㉚ 検索キー

Internet Explorer、またはエクスプローラの使用時に押すと、検索ページ、検索ファイル用の画面が表示されます。

㉛ サポートキー

Internet Explorerが起動して、「ソーテックテクニカルサポートセンタ」のホームページが表示されます。

㉜ インターネットキー

Internet Explorerが起動します。Internet Explorerの使用時に押すと、設定されたホームページにジャンプします。

音楽CD、DVDビデオ、音声ファイル、映像ファイルの操作に使います。

㉝ 再生/一時停止キー

ファイル、トラックを再生/一時停止します。

㉞ 停止キー

ファイル、トラックを停止します。

㉟ 前へキー

前のファイル、トラックへスキップします。

㉟ 次へキー

次のファイル、トラックへスキップします。

音量を調整するときに使います。

㉟ 消音キー

パソコンから出力される音声がミュート(消音)の状態になります。

㉟ ボリュームダウンキー

1回押すごとに、パソコンから出力される音量が下がります。

(☞ 52ページ)

㉟ ボリュームアップキー

1回押すごとに、パソコンから出力される音量が上がります。

(☞ 52ページ)

電源を操作するときに使います。

㉟ スリープキー

省電力機能が働きます。

省電力モードから、元の状態に戻すには、電源スイッチを押します。



ロック状態について

キーには、1回押すごとに状態が固定されてロック状態になるキーと、固定されずに押したときだけ機能するキーの2通りあります。

ロックされるキーの中でも右の3種類のキーは、ロック状態になるとキーボード上のステータスLEDが点灯します。



フロッピーディスクを使ってみよう

ここでは、フロッピーディスクを取り扱うときの注意と、ドライブにセットする方法について説明します。

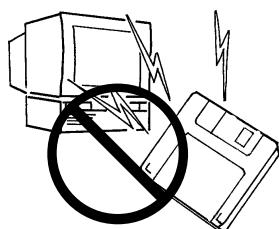


注 意

フロッピーディスクを使うときの注意

3.5インチフロッピーディスクは、入力したデータなどの保存に使う大切なものです。取り扱いにあたっては次の点に十分注意してください。

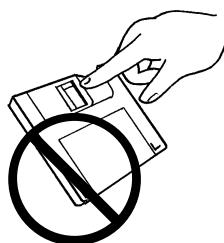
また、フロッピーディスクを使わない場合は、パソコンの電源をOFFにする前に必ずフロッピーディスクドライブから取り出して、適切な場所に保管してください。



テレビやモータのような、磁気を発生する物のそばに置かないでください。



直射日光のあたる車の中や、高温の場所に置かないでください。また、湿度の高いところに置かないでください。



内部の記憶メディアに傷を付ける恐れがあるため、シャッターを開けないでください。



ラベルは、正しい位置（一段へこんでいます）にお貼りください。また、別のラベルを貼るときは重ねて貼らず、前のラベルをはがしてください。



SOTEC「電子マニュアル」参照

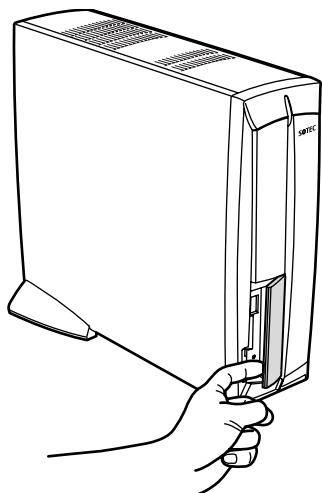
フロッピーディスクの使い方

メニュー>ユーザーズガイド応用編>フロッピーディスクの使い方

フロッピーディスクの出し入れ

STEP 2

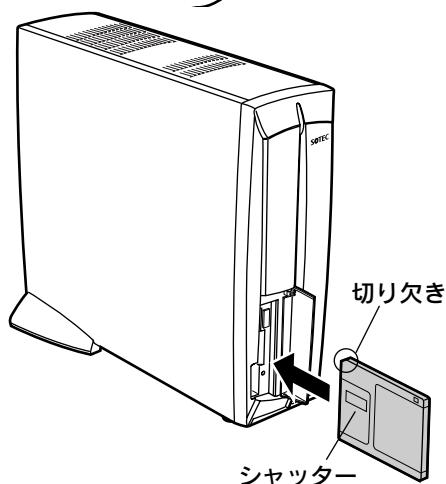
ご使用になる前に



1

フロッピーディスクドライブのカバーと本体のすき間に指を入れ、手前に引きます。

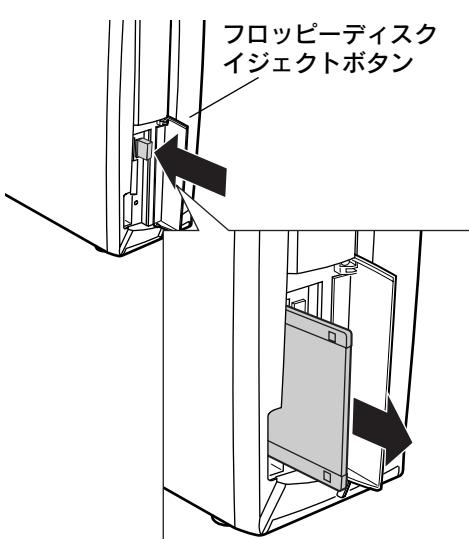
フロッピーディスクドライブのカバーが開きます。



2

フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブへ挿入します。

フロッピーディスクは、切り欠きのある角を上側にし、シャッター側が奥になるように挿入します。フロッピーディスクが正しくセットされると、フロッピーディスクイジェクトボタンが飛び出します。



3

フロッピーディスクを取り出すときは、フロッピーディスクイジェクトボタンを押します。

フロッピーディスクが少し飛び出し、取り出せるようになります。



フロッピーディスクを取り出すときは、フロッピーディスクアクセスLEDが点灯していないことを確認してから取り出してください。点灯しているときに取り出すと、フロッピーディスクのデータが壊れる恐れがあります。



フロッピーディスクを使用しないときは、カバーを閉めてください。

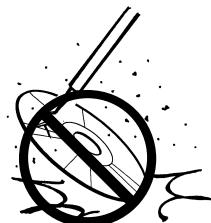
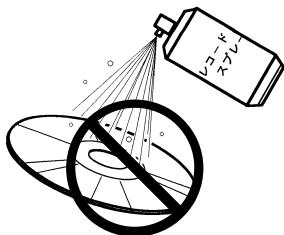
ここでは、CD-ROMを使う方法について説明します。



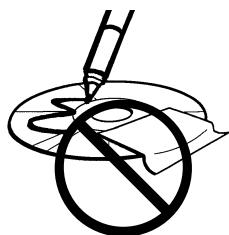
注意

CD-ROMを使うときの注意

光ディスクドライブやCD-ROMディスクの取り扱いにあたっては次の点に十分注意してください。また、CD-ROMディスクを使わない場合は、パソコンの電源をOFFにする前にドライブから取り出して、適切な場所に保管してください。

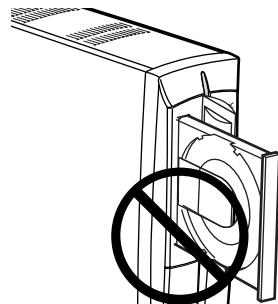


清掃するときは、レコード用クリーナーやベンジン、シンナーではなく、必ずCD専用のクリーナーを使ってください。また、レンズクリーナーは乾式のものを使用してください。湿式は汚れを増長させますので絶対に使わないでください。



記録面にラベルを貼つたり、ペンなどで字を書かないでください。

強い衝撃を与えたり表面にキズを付けないでください。また、ゴミやホコリの多い場所に置かないでください。読み込みエラーの原因となります。



トレイを開けたままにしておかないでください。内部にゴミやホコリが入り込んで故障の原因になります。



SOTEC 「電子マニュアル」 参照

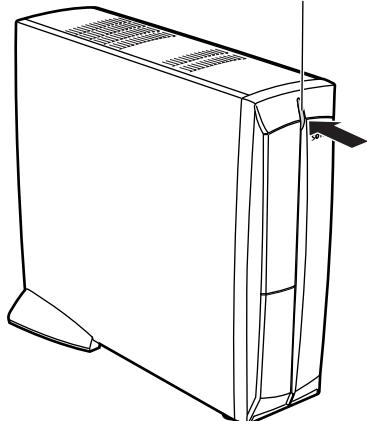
CD-ROMディスクの規格について
メニュー>ユーザーズガイド応用編>CD/DVD>
CD/DVDのディスクの規格について

CD-ROMディスクの出し入れ

STEP 2

ご使用になる前に

イジェクトボタン



1 イジェクトボタンを押します。

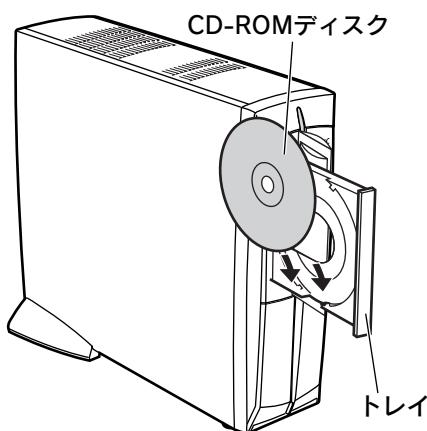
トレイが出てきます。

チェック

本機の光ディスクドライブは、本機の電源がONになっていないと動作しません。

CD-ROMディスク

トレイ



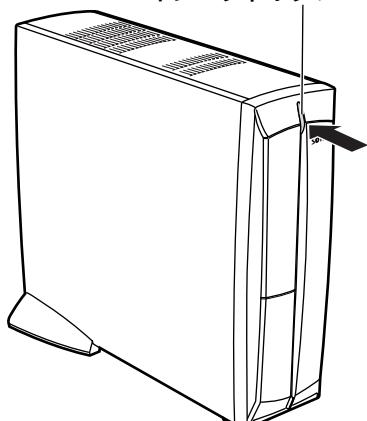
2 CD-ROMディスクの記録面をトレイ側に向けて、トレイにセットします。

3

イジェクトボタンを押します。

トレイが閉じます。

イジェクトボタン



4 CD-ROMディスクを取り出すときは、再度イジェクトボタンを押します。

トレイが出てくるので、CD-ROMディスクを取り出します。

6

音量を調整する

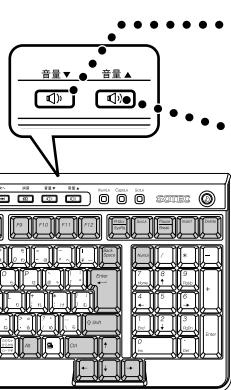
本機には、サウンド機能が搭載されており、音声を入出力する端子が用意されています。ここではそれらの使いかたを説明します。

▶スピーカの音量を調整する

スピーカの音量は次のように調整します。

●キーボードを使って調整する

音量の調整はキーボードで操作できます。



ボリュームダウンキー

：外部スピーカからの音が小さくなります。

ボリュームアップキー

：外部スピーカからの音が大きくなります。



SOTEC「電子マニュアル」参照

Windowsからの音量の調整

メニュー>ユーザーズガイド応用編>音声>
Windowsからの音量調節

音声の録音

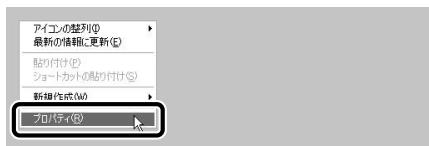
メニュー>ユーザーズガイド応用編>音声>音声
の録音

画面の解像度を調整する

ディスプレイの解像度を変更して、より広い領域でWindowsを表示したり、フォントの大きさを変更して、文字をより見やすく表示できます。ここでは解像度や色数といった、画面の設定の変更方法について説明します。

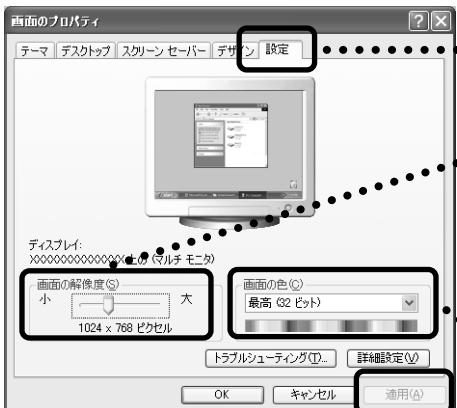
●解像度や色数を変更する場合

画面の解像度、色数、フォントサイズは、【画面のプロパティ】ダイアログから調整できます。



1 デスクトップ上で右クリックして表示されるメニューから、[プロパティ]を選択します。

【画面のプロパティ】ダイアログが表示されます。



2 [設定]タブを選択します。

3 ▶を左右にスライドさせ、画面の解像度を選択します。

初期設定は「1024×768ピクセル」です。

4 ▼ボタンをクリックし、画面の色(表示する色数)を選択します。

5 [適用]ボタンをクリックします。

変更を確認するダイアログボックスが表示されます。

6 [はい]ボタンをクリックします。



SOTEC「電子マニュアル」参照

ビデオメモリの変更方法

メニュー>付属のマニュアル>ビデオメモリの変更方法

フォントサイズの変更方法

メニュー>ユーザーズガイド応用編>画像表示>フォントサイズの変更

壁紙の設定

メニュー>ユーザーズガイド応用編>画像表示>壁紙の設定

STEP 3

周辺機器を使いこなす

プリンタやスキャナなど、PC STATIONと接続できる周辺機器の紹介と、接続の方法や注意事項について説明しています。

さまざまな周辺機器と接続することで、PC STATIONをより充実して使うことができます。ぜひ、お読みください。

1 使用できる周辺機器	56	4 USB対応の周辺機器を使う	66
本体前面(まえ)	56	USB機器を接続する	66
本体背面(うしろ)	57		
2 周辺機器を取り付ける前に	58	5 PCカードを使う	68
取り付けは電源をOFFにしてから	58	PCカードとは	68
取り付け時の注意事項	59	PCカードの差し込み	69
プラグアンドプレイについて	60	PCカードの取り出し	71
3 AV機器と接続する	62	6 メモリースティックを使う	72
光デジタル対応の機器と接続する	62	メモリースティックとは	72
ヘッドホンと接続する	62	メモリースティックの差し込み	72
マイクロホンと接続する	63	メモリースティックの取り出し	73
デジタルビデオと接続する	63		
オーディオ機器と接続する	64		
ビデオやゲーム機器と接続する	65		
7 SDメモリーカードを使う	74		
SDメモリーカードとは	74		
SDメモリーカードの差し込み	74		
SDメモリーカードの取り出し	75		

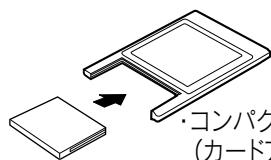
使用できる周辺機器

本機には、さまざまな周辺機器が接続できます。次にその一例を紹介します。

本体前面(まえ)

PCカードスロット AVモデル

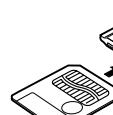
PCカード (☞ 68~71ページ)



・コンパクトフラッシュ
(カードアダプタが必要)

AVモデル

・フラッシュメモリーカード



・スマートメディア
(カードアダプタが必要)

USBポート

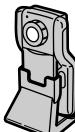
USB2.0対応の周辺機器
(☞ 66~67ページ)



・カードリーダ/ライタ



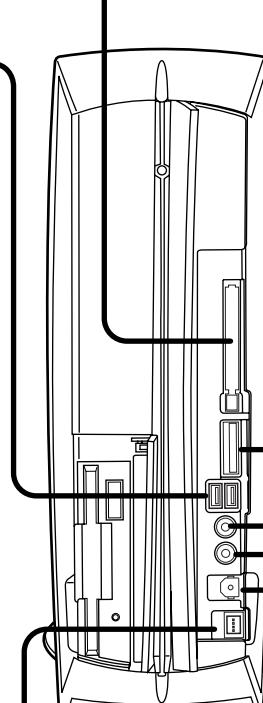
・USB対応マウス



・CCDカメラ



・USBハブ など



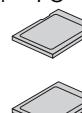
メモリーカードスロット AVモデル

3種類のメモリーカード

・メモリースティック
(☞ 72~73ページ)



・SDメモリーカード
(☞ 74~75ページ)



・MMC



マイク端子

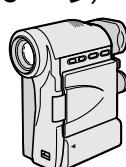
マイクロホン
(☞ 63ページ)



IEEE 1394端子 AVモデル

AVモデル

DV端子付きデジタルビデオ
(☞ 63ページ)



光デジタル出力端子 AVモデル

AVモデル

光デジタル対応のレコーダブルMD
など(☞ 62ページ)



ヘッドホン端子

ヘッドホン/スピーカ
(☞ 62ページ)



▶ 本体背面(うしろ)

STEP 3

周辺機器を使いこなす



USBポート

USB2.0対応の周辺機器
(☞ 66~67ページ)



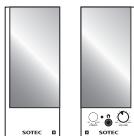
マイク端子

マイクロホン
(☞ 63ページ)



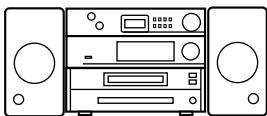
ライン出力端子

スピーカ



ライン入力端子

オーディオ機器
(☞ 64ページ)



**Sビデオ、
オーディオ入力端子**
AVモデル

テレビ、ビデオデッキなど
(☞ 65ページ)



パラレルポート

プリンタ

- ・インクジェットプリンタ
- ・レーザープリンタなど



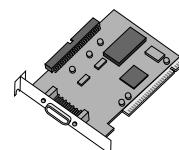
AGPスロット

ビデオカード

- (☞ 83ページ)
- ・AVモデル
:空きスロット×0
 - ・標準モデル
:空きスロット×1

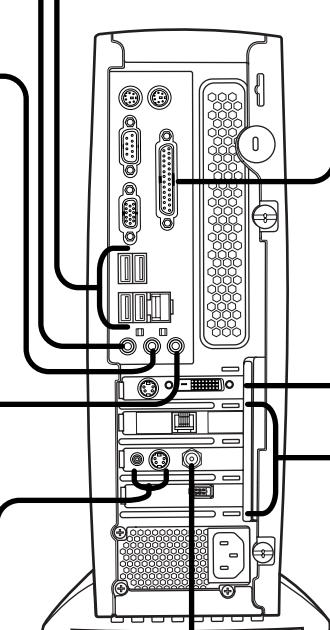
PCIスロット

オプションカード
(☞ 82~84ページ)



·SCSIカードなど

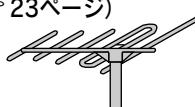
- ・AVモデル
:空きスロット×0
- ・標準モデル
:空きスロット×2



TVアンテナ端子

AVモデル

TVアンテナ
(☞ 23ページ)



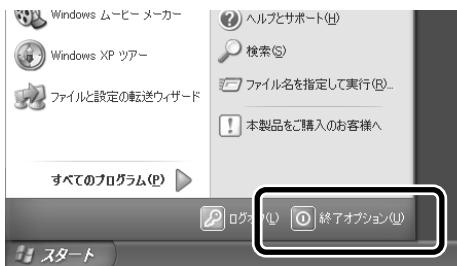
2

周辺機器を取り付ける前に

ここでは周辺機器を取り付ける前に、まず確認したり、作業しなければならないことを説明します。

取り付けは電源をOFFにしてから

ケーブル類や、周辺機器を取り付けるときは、本機の電源をOFFにし、電源ケーブルをACコンセントから取り外します。電源ケーブルが接続されたまま周辺機器を取り付けると、本機の破損や感電の恐れがあります。



1

[スタート]ボタン→[終了オプション]を選択します。

【コンピュータの電源を切る】ダイアログが表示されます。



2

[電源を切る]をクリックします。

電源がOFFになります。

3

電源ケーブルを取り外します。

4

周辺機器を取り付けます。



本体内部の機器を取り付けたり、取り外したりするときは、金属のへりでケガをしないよう、手袋をして作業をするなど十分に気を付けてください。

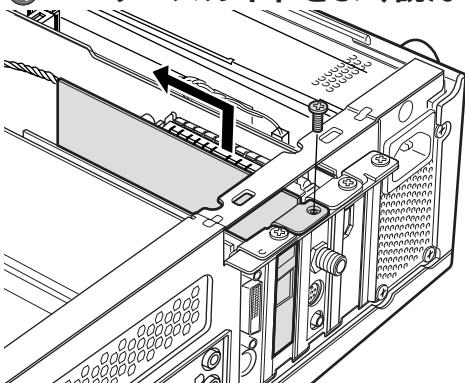
取り付け時の注意事項

● 体の静電気を取り除いてください



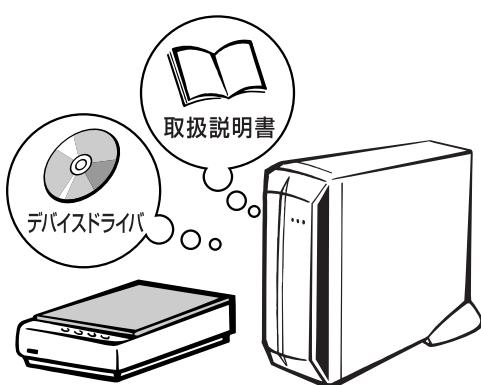
基板がむき出しになっているメモリなどは、静電気に弱く、帯電した手で触ると壊れてしまう恐れがあります。これらの機器を取り付ける前には、ドアのノブなど、身近な金属に触れて、帯電されている静電気を取り除いてください。

● ユーザーズガイドをよく読んでください



オプションカードなどは、取り外しや取り付けを間違うと、機器を壊してしまう恐れがあります。周辺機器を取り付ける前には本書をよくお読みください。

● 周辺機器に付属の取扱説明書をよく読んでください



周辺機器に付属の取扱説明書には、取り付け方法や、取り付けた後に必要となるソフトウェアやハードウェアの設定方法が詳しく書かれています。

周辺機器を取り付ける前には、必ず周辺機器の取扱説明書をよく読み、必要な機器、および必要な設定ファイル(デバイスドライバなど)を理解し、これから始める拡張の作業に備えましょう。

▶ プラグアンドプレイについて

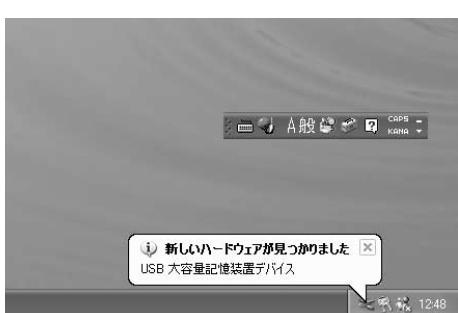
Windows XPには、周辺機器を取り付けるだけで、すぐに使用できる状態に設定する「プラグアンドプレイ」という機能があります。

プラグアンドプレイを実現するには、周辺機器に対応したデバイスドライバがWindows側で用意されている必要があります。

用意されていない場合は、Windowsのウィザード機能を使って、デバイスドライバをWindowsにインストールします。

● 対応したデバイスドライバがすでにWindowsにある場合

周辺機器に対応したデバイスドライバが、すでにWindows側で用意されている場合は、周辺機器を取り付けるだけで、すぐに使える状態になります。



1

デスクトップ画面右下のタスクバーに、「新しいハードウェアが見つかりました」と吹き出しが表示されます。

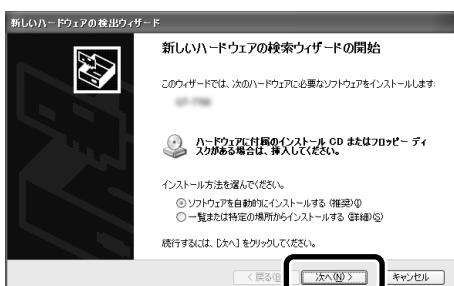
これで、周辺機器が使えるようになります。

● 対応したデバイスドライバがWindowsがない場合

周辺機器に対応したデバイスドライバがWindowsがない場合、周辺機器に付属のCD-ROMディスクなどに収録されているデバイスドライバをWindowsにインストールします。



プラグアンドプレイに対応した周辺機器でも、場合によっては、設定が自動で行われない場合があります。



1

周辺機器を取り付けた後に、電源をONにします。

【新しいハードウェアの検索ウィザードの開始】ダイアログが表示されます。

2

【次へ】ボタンをクリックします。

3

表示される指示に従って操作します。

4

[完了]ボタンをクリックします。

これで、設定は無事終了しました。



チェック

プラグアンドプレイに対応していない周辺機器の場合

プラグアンドプレイに対応していない周辺機器の場合、デバイスドライバの組み込みや、リソースの設定は自分で行う必要があります。また、周辺機器側のデイツップスイッチなどを変更する必要があります。周辺機器の取扱説明書などをよく読み、設定を行ってください。

デバイスドライバとは

周辺機器を使うときは、デバイスドライバという専用ソフトウェアが必要になる場合があります。デバイスドライバは、パソコンが周辺機器をコントロールするときに使う大切なソフトウェアです。

デバイスドライバは、あらかじめ本機のWindows XPに付属されているものと、周辺機器に付属のもの(フロッピーディスクやCD-ROMディスクで提供されています)があります。また、周辺機器メーカーのホームページから最新のものを入手することもできます。

最新のデバイスドライバを入手することで、周辺機器の機能を最大限に引き出すことができます。

61

3

AV機器と接続する

ここでは本製品と接続できるAV機器の紹介と接続方法を説明します。

光デジタル対応の機器と接続する

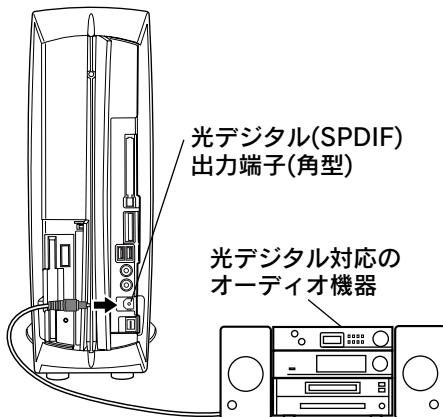
AVモデル

光デジタル入力端子を装備しているオーディオ機器と接続することができます。光デジタルケーブルを利用した、ノイズの少ないクリアなサウンドが楽しめます。

チェック

MDレコーダで音声を録音するには

本製品の光デジタル出力サンプリングレートは48KHzに固定されています。MDレコーダの機種によっては対応していない場合があります。録音するときは、サンプリングレート48KHz対応の機種を使用してください。また、録音したものは個人で楽しむほかは、著作権法により、著作者に無断で使用することはできません。



1

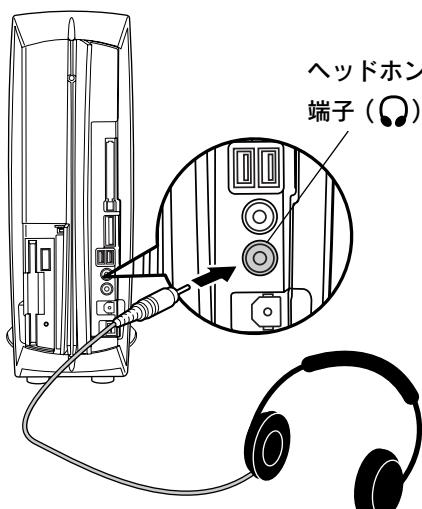
光デジタルケーブルを使用して、本機の光デジタル(SPDIF)出力端子(角型)とオーディオ側の光デジタル入力端子を接続します。



- 光デジタルケーブルはお近くの電器店でお求めください。
- 光デジタル対応のオーディオ機器にはMDレコーダのほかにスピーカやオーディオコンポなどがあります。
- 本機側に接続する光デジタルケーブルのプラグは、角型をご使用ください。

ヘッドホンと接続する

市販のヘッドホンを使用すると、スピーカから音声を出力せずにヘッドホンから出力できます。



1

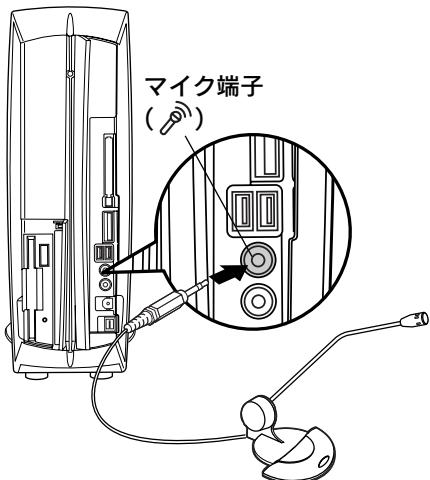
市販のヘッドホンのプラグを、本機のヘッドホン端子()に接続します。



ヘッドホンはミニプラグ付きヘッドホンを、お近くの電器店でお求めください。

マイクロホンと接続する

市販のマイクロホンを使用すると、マイクロホンから音声を録音できます。



- 1 マイクロホンのプラグを、本機のマイク端子（）に接続します。



マイクロホンはステレオタイプのミニプラグ付きマイクロホンを、電器店などでお求めください。



ハウリングの防止方法

スピーカにマイクロホンを近づけると、スピーカとマイクロホンが共振し、キーンという音が出ることがあります。これをハウリングといいます。ハウリングは、マイクロホンをスピーカから遠ざけるか、入力レベルを小さくする(ボリュームコントロールで調整)ことで防ぐことができます。

デジタルビデオと接続する

AVモデル

本機のIEEE1394端子(4ピン)と、DV端子を持つデジタルビデオを接続して映像および音声を取り込んだり、映像および音声をデジタルビデオに出力できます。

- 1 本機のIEEE1394端子(4ピン)と4ピンのDV端子を持つデジタルビデオを、市販のIEEE1394接続ケーブルで接続します。

IEEE1394端子は、DV端子とも呼ばれています。



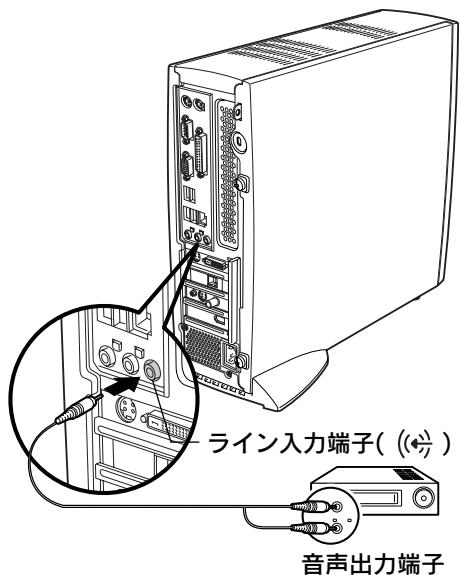
IEEE1394接続ケーブル



本機背面には6ピンのIEEE1394端子があります。

▶ オーディオ機器と接続する

オーディオ機器と接続すると、オーディオ機器からの音声をスピーカから出力したり、本機に録音できます。



1 ステレオミニプラグ付きオーディオケーブルを、本機のライン入力端子(())に接続します。

2 オーディオケーブルのもう一方のプラグを、オーディオ機器の音声出力端子に接続します。

メモ ミニプラグ付きのオーディオケーブルは、電器店などで購入してください。

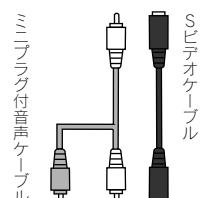
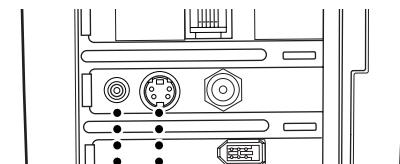
オーディオ機器からの音声を録音するときは、Windows XPの「サウンドレコーダー」を使用します。



ビデオやゲーム機器と接続する

AVモデル

本機とビデオやゲーム機を接続して、ビデオやゲーム機からの映像や音声を本機に入力できます。



ビデオデッキ、ゲーム機などの背面

1 本機のSビデオ入力端子と、ビデオやゲーム機のSビデオ出力端子を、付属のSビデオケーブルを使用して接続します。

2 本機のオーディオ入力端子と、ビデオやゲーム機のオーディオ出力端子を、付属のミニプラグ付き音声ケーブルを使用して接続します。

STEP 3

周辺機器を使いこなす

USB対応の周辺機器を使う

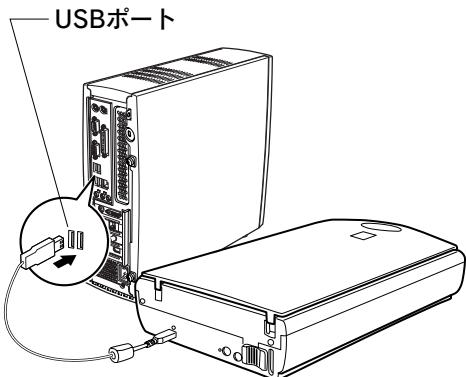
USBポートには、さまざまなUSB機器を接続して利用することができます。ここでは、USB機器を本機で使用するための準備作業について説明します。

USB機器を接続する

本機の電源をONにした状態で、USB対応の周辺機器を接続すると、自動的に設定が始まります。設定が終了すると、USB機器をすぐに使い始めることができます。



ケーブルを差し込む前に、デバイスドライバのインストールが必要なUSB機器があります。USB機器に付属の取扱説明書をよく読んで、USB機器を接続してください。



1

本機のUSBポートに、USB機器のケーブルを差し込みます。

本機には、前面と背面に合わせて6つのUSBポートを用意しています。どのUSBポートを使用しても構いません。

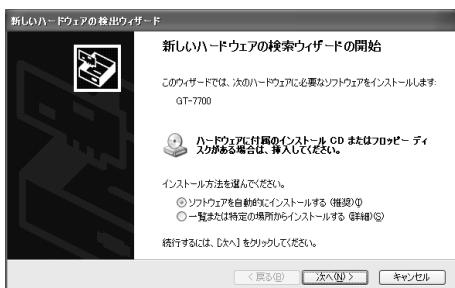


USBケーブルには差し込む向きがあります。無理に差し込むとせず、方向を確認して正しく差し込んでください。



USBポートが足りないときは

USBポートの数が足りないときは、市販のUSBハブを接続することで、USBポートの数を増やすことができます。



USB機器を接続後、しばらく待つと、自動的に画面の表示が切り替わり、【新しいハードウェアの検索ウィザード】ダイアログが表示されます。表示されないときは、USBポートからコネクタを一度抜き、3秒以上時間をおいてから、再度差し込んでみてください。

しばらくすると、自動的に必要なデバイスドライバを読み込み始めます。

2

表示される指示に従って操作します。

デバイスのインストールが終了したことを示すメッセージが表示されれば、設定は終了です。



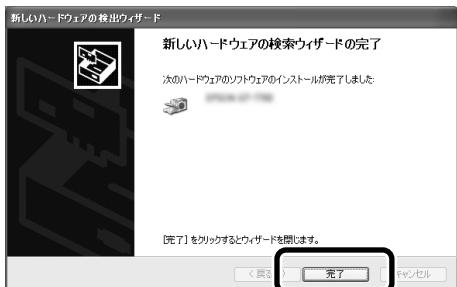
以上の方で画面の表示が切り替わらないときは、Windowsを再起動させ、再度USB機器を接続してください。



USB機器に、Windows XP対応のデバイスドライバが付属されていない場合、USB機器をWindows XPで使うための専用デバイスドライバが別途必要になります。詳しくは、USB機器に付属の取扱説明書を読むか、USB機器販売メーカーにお問い合わせください。

3

[完了]ボタンをクリックします。



USB機器によっては、この後、ソフトウェアのインストールなどの作業が必要になります。詳しくは、USB機器に付属の取扱説明書をお読みください。

USB機器は、一度接続して設定が終了すれば、次回からはUSBポートにコネクタを差し込むだけで、すぐに機器が使用できるようになります。このとき【新しいハードウェアの検索ウィザード】ダイアログは表示されません。



それぞれのUSBポートごとにUSB機器が管理されるため、前回とは異なるUSBポートにUSB機器を接続すると【新しいハードウェアの検索ウィザード】が表示されることがあります。その場合はメッセージに従って操作してください。



SOTEC「電子マニュアル」参照

USB

メニュー>ユーザーズガイド応用編>周辺機器>
USB

PCカードスロットに、市販のPCカードを差し込んで使用することができます。ここではPCカードの接続方法と使いかたを説明します。

AVモデル

▶ PCカードとは

PCカードとは、パソコンをはじめとするコンピュータで使用できる情報メディアのことです。クレジットカードと同サイズ(85.6mm×54.0mm)で、メモリやモデム、LANなど、さまざまな用途で使用できます。

● カード規格について

PC Card Standardは、ノートタイプのコンピュータに使用するICカードを、コンピュータのメーカーが異なっても、共通で使用できるように定められた統一規格です。規格統一されたカードは、一般に「PCカード」と呼ばれています。

PCカードスロットに様々な種類のカードを装着することでパソコンの機能を拡張できます。

カードには、メモリ、ハードディスク、モデム、SCSIインターフェイス、LANなど様々な種類があります。



PCカードを使うには、本製品に、PCカードを認識させるためのデバイスドライバを組み込む必要があります。デバイスドライバは、あらかじめWindowsで用意されているものを使用する場合と、PCカードに付属のものを使用する場合があります。どちらのデバイスドライバを使用するかは、PCカードの取扱説明書をご覧ください。

● CardBus規格について

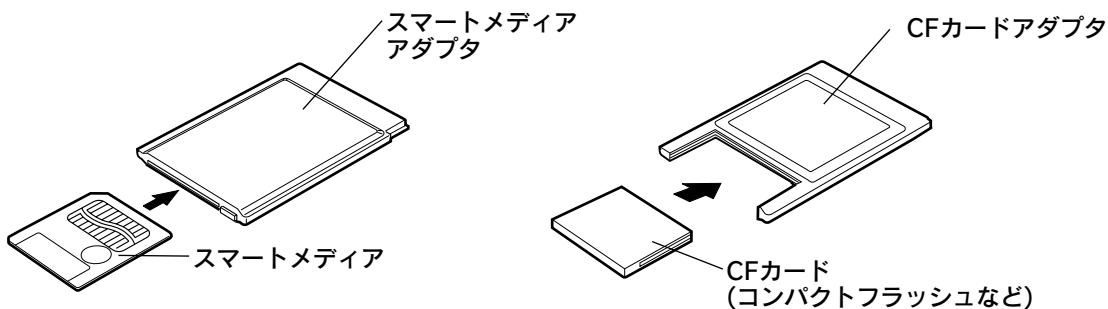
CardBusとはPCカードスロットと互換性を持ちながらPCIバスに対応しているスロットのことです。高速なデータ転送が可能です。本製品のPCカードスロットはCardBusをサポートしています。

● カードサイズについて

PCカードには、現在、TYPE I(厚さ3.3mm)、TYPE II(厚さ5.0mm)、TYPE III(厚さ10.5mm)の3種類のタイプがあります。

本製品では、TYPE IIのカードを1枚装着することができます。

スマートメディアやCFカードを装着する場合は、別売のアダプタを使用してください。

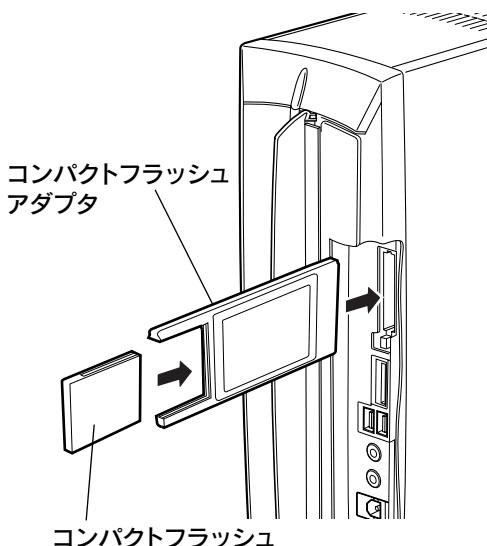


▶ PCカードの差し込み

ここでは、デジタルカメラの画像の記憶媒体として使用されるコンパクトフラッシュを例に、本機に差し込んで使用するまでの手順を説明します。

●コンパクトフラッシュを使ってみる

本機の電源をONにした状態で、PCカードを差し込むと、自動的に設定が始まります。設定が終了すると、PCカードを使い始めることができます。



1

本機のPCカードスロットに、PCカードを差し込みます。

ここでは、コンパクトフラッシュアダプタに差し込んだコンパクトフラッシュをPCカードと呼びます。

PCカードを差し込むと、PCカードダイジェクトボタンが出てきます。

チェック

PCカードには差し込む向きがあります。無理に差し込むとせず、方向を確認して正しく差し込んでください。差し込む方向については、PCカードに付属の取扱説明書をお読みください。

STEP 3

周辺機器を使いこなす

しばらくすると、PCカードが自動的に認識されます。コンパクトフラッシュに画像などが保存されている場合は、スライドショーなどを自動的に行う機能が働きます。

2

実行させたい機能を選択して、[OK]ボタンをクリックします。



チェック

機能を実行させたくない場合は、[キャンセル]ボタンをクリックします。

PCカードによっては、接続後、さらに別の設定を行うものがあります。PCカードに付属の取扱説明書をお読みください。

●正しく認識できたか確認する

差し込んだPCカードが、正しく認識されているかどうかを確認します。



接続したPCカードによって、接続を確認する方法は異なります。詳しくは、PCカードに付属の取扱説明書をご参照ください。

●マイコンピュータで確認する



1

新しく接続されたPCカードがアイコンとして表示されているのを確認します。

例として差し込んだPCカードは、ファイルを保存するハードディスクの機能を持った機器ですので、【マイコンピュータ】ウィンドウの中に新しい「ハードディスク」のアイコンが追加されていることを確認できます。

●デバイスマネージャで確認する



1

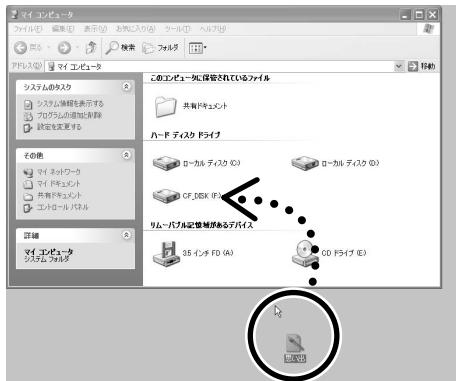
差し込んだPCカードが表示されていることを確認します。

コンパクトフラッシュは、「マイコンピュータ」に追加されたアイコンで確認できますが、差し込んだPCカードの種類によって、確認の方法は異なります。

【コントロールパネル】の【システム】アイコンをダブルクリックし、【ハードウェア】タブの画面から、【デバイスマネージャ】ウィンドウを表示させて、差し込んだPCカードが登録されていることを確認します。

● ファイルをコピーしてみる

ハードディスクとして認識されたコンパクトフラッシュやスマートメディア内のファイルは、そのファイルをドラッグアンドドロップすることで、ハードディスクや他のディスクにコピーできます。



▶ PCカードの取り出し

PCカードへのアクセス中に、本機からPCカードを抜いたりすると、スマートメディアやコンパクトフラッシュに記録されているデータが壊れる場合があります。取り外しは必ず次の手順で行ってください。

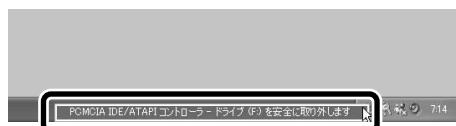
STEP 3

周辺機器を使いこなす

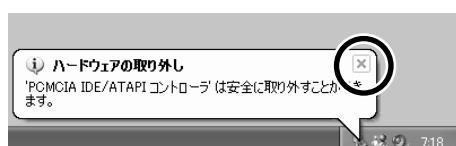
1 デスクトップ右下(タスクバー)の  のアイコンをクリックします。



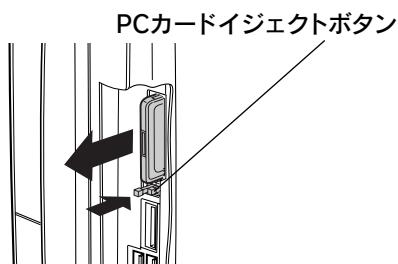
2 「PCMCIA IDE/ATAPI コントローラードライブを安全に取り外します」を選択します。



3 左のようなダイアログが表示されたら  ボタンをクリックします。



4 PCカードイジェクトボタンを押し込みます。



PCカードがPCカードスロットから少し出でています。

5 PCカードをゆっくりと引き抜きます。

メモリースティックを使う

本機前面にあるメモリーカードスロットには、市販のメモリースティックメディアを差し込んで使用することができます。ここでは、メモリースティックの使いかたを説明します。

AVモデル

メモリースティックとは

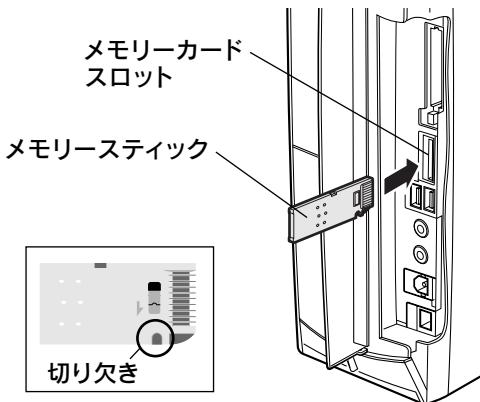
メモリースティックは、ソニー株式会社が提唱する、半導体メモリを利用した板状の記録メディアのことです。縦長の形をしており、大容量のデータを扱うことができます。

チェック

- ・画像ファイルなど、通常のファイルデータの読み出し・書き込み専用です。
- ・マジックゲート メモリースティックに著作権保護(暗号化)を施して記録された音声ファイルは、本機のメモリースティックスロットに装着した状態では再生できません。
- ・メモリースティックProには対応していません。

メモリースティックの差し込み

メモリースティックを本機に差し込んで、使用するまでの手順を説明します。



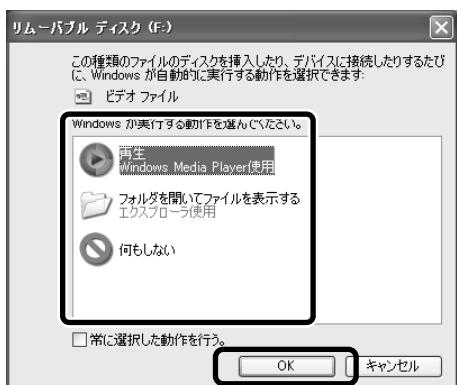
1

切り欠きを下にして、本機のメモリーカードスロットにメモリースティックを「カチッ」と音がするまで差し込みます。

しばらくすると自動的に認識され、ダイアログが表示されます。

チェック

メモリースティックには差し込む向きがあります。方向を確認して、正しく差し込んでください。



2

実行させたい機能を選択して、[OK]ボタンをクリックします。

チェック

機能を実行させたくない場合は、[キャンセル]ボタンをクリックします。

表示される画面は、メモリースティックに入っているファイルによって異なります。

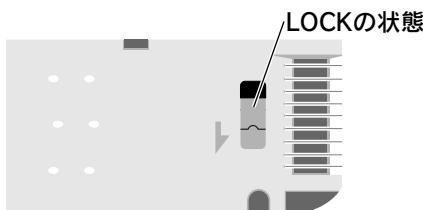
● ファイルをコピーする

正しく認識されたメモリースティックのアイコンに、他のディスクからファイルをドラッグアンドドロップすると、メモリースティック内にコピーできます。



● 誤消去防止スイッチについて

メモリースティックの背面には誤消去防止スイッチがあります。スイッチを「LOCK」に合わせると、データを誤って消去する恐れはありません。



メモリースティックの取り出し

メモリースティックを本機から取り出すまでの手順を説明します。

STEP 3

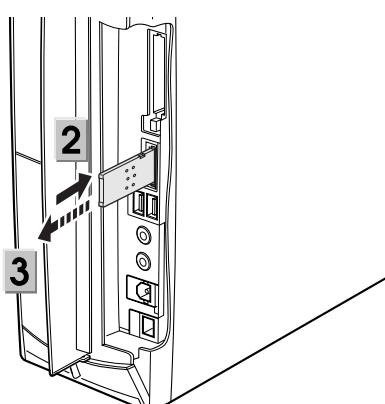
周辺機器を使いこなす

1 メモリースティックの動作が終了しているのを確認します。

2 メモリースティックを押し込みます。

メモリースティックが少し飛び出します。

3 メモリースティックを取り出します。



SDメモリーカードを使う

本機前面にあるメモリーカードスロットには、市販のSDメモリーカードを差し込んで使用することができます。ここでは、SDメモリーカードの使いかたを説明します。 **AVモデル**

SDメモリーカードとは

SDメモリーカードは、サンディスク株式会社、松下電器産業株式会社、株式会社東芝の3社が共同開発した、板状の記録メディアです。サイズが小さく、大容量のデータを扱うことができます。

チェック

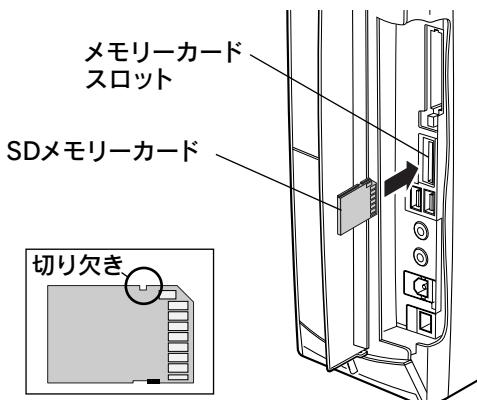
画像ファイルなど、通常のファイルデータの読み出し・書き込み専用です。



メモ メモリーカードスロットには、MMCを挿入できます。MMCとは、シーメンス株式会社とサンディスク株式会社が共同開発した記録メディアです。誤消去防止スイッチがないことと、著作権保護機能がないこと以外は、SDメモリーカードとほぼ同じ仕様です。

SDメモリーカードの差し込み

SDメモリーカードを本機に差し込んで、使用するまでの手順を説明します。



1

切り欠きを上にして、本機のメモリーカードスロットにSDメモリーカードを「カチッ」と音がするまで差し込みます。

しばらくすると自動的に認識され、ダイアログが表示されます。

チェック

SDメモリーカードには差し込む向きがあります。方向を確認して、正しく差し込んでください。

2

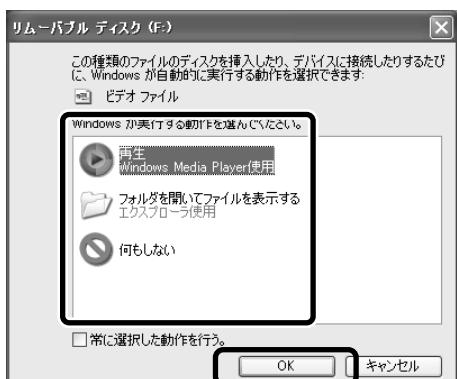
実行させたい機能を選択して、[OK]ボタンをクリックします。



機能を実行させたくない場合は、[キャンセル]ボタンをクリックします。

チェック

表示される画面は、SDメモリーカードに入っているファイルによって異なります。



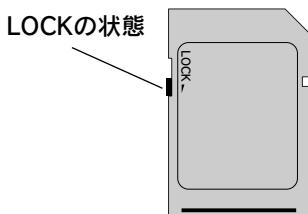
● ファイルをコピーする

正しく認識されたSDメモリーカードのアイコンに、他のディスクからファイルをドラッグアンドドロップすると、SDメモリーカード内にコピーできます。



● 誤消去防止スイッチについて

SDメモリーカードの側面には誤消去防止スイッチがあります。スイッチを「LOCK」に合わせると、データを誤って消去する恐れはありません。



STEP 3

周辺機器を使いこなす

SDメモリーカードの取り出し

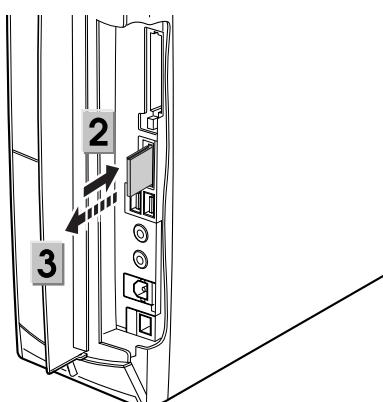
SDメモリーカードを本機から取り出すまでの手順を説明します。

1 SDメモリーカードの動作が終了しているのを確認します。

2 SDメモリーカードを押し込みます。

SDメモリーカードが少し飛び出します。

3 SDメモリーカードを取り出します。



STEP 4

本体内部の増設について

STEP3ではパソコンの外部に周辺機器を接続することについて説明しました。このSTEP4では、パソコンの内部での増設の方法について説明します。パソコンの内部の増設と言うと、難しいと感じますが、このSTEP4の内容をしっかりと理解しておけば大丈夫です。また、内部を拡張することで、本機の機能性をさらに高めることができます。

1 本体カバーの取り付けと取り外し	78	5 ハードディスクを増設する	90
本体カバーの取り外し	78	ハードディスクの種類	90
本体カバーの取り付け	79	内蔵ハードディスクドライブの交換	92
2 前面カバーの取り付けと取り外し	80		
前面カバーの取り外し	80		
前面カバーの取り付け	81		
3 各種カードの取り付けと取り外し	82		
オプションカードの取り付け	82		
オプションカードの取り外し	84		
4 メモリの増設	85		
メモリについて	85		
メモリの取り付けと取り外し	86		
増やしたメモリを確認する	89		

1

本体力バーの取り付けと取り外し

本製品は、機器の拡張・交換がしやすいように、簡単に本体力バーが取り外せます。

本体力バーの取り外し

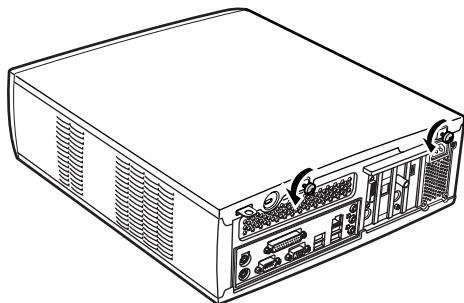


- 注 意
- ・本体内部の機器を取り付けたり、取り外したりするときは、金属のへりでケガをしないよう、手袋をして作業をするなど十分に気を付けてください。
 - ・本体力バーを取り外すときは、必ず電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
また、モデムやネットワークに接続しているケーブルなども外してください。
 - ・本体力バーを取り外すときは、本体を横置きにしてください。本体を縦置きのまま作業をすると、本体が倒れる恐れがあります。

1 本体背面にある2つのネジが上にくるように、
本体を横置きにします。

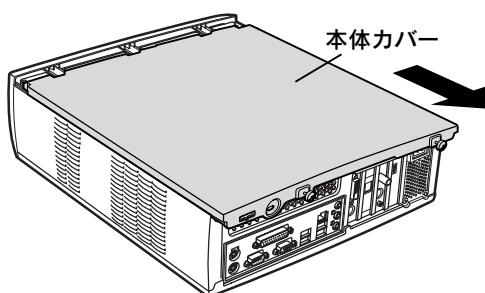
2 スタンドを取り外します。

3 本体背面にある2つのネジをゆるめます。



4 本体力バーを背面側へスライドさせます。

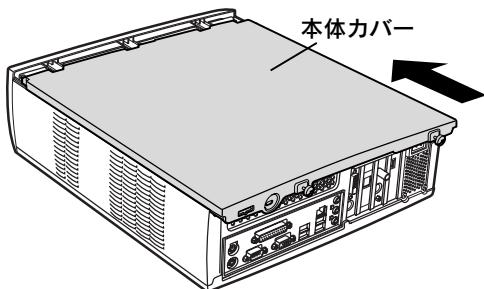
5 本体力バーを持ち上げて、シャーシから取り外
します。



▶ 本体カバーの取り付け

1 内部のケーブルや機器が正しく装着・固定されていることを確認します。

2 本体カバーを、背面側へ1cm程度スライドした位置で、シャーシに取り付けます。

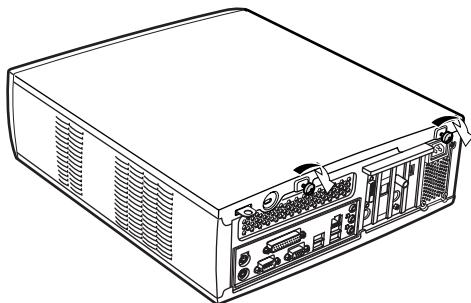


3 本体カバーを正面側へスライドさせます。

チェック

スライド時に、本体内部にあるケーブル類を、本体カバーで挟まないように注意してください。

4 2つのネジで本体カバーを本機に固定します。



STEP 4

本体内部の増設について

前面カバーの取り付けと取り外し

本製品は、機器の拡張・交換がしやすいうように、前面カバーを外せます。

※イラストは、AVモデル

前面カバーの取り外し



本体内部の機器を取り付けたり、取り外すときは、金属のへりでケガをしないよう、
注 意 手袋をして作業をするなど、十分に気を付けてください。

1

本体カバーを取り外します。

「本体カバーの取り外し」(☞ 78ページ)

チェック

本体カバーを外さないと、前面カバーは外れません。

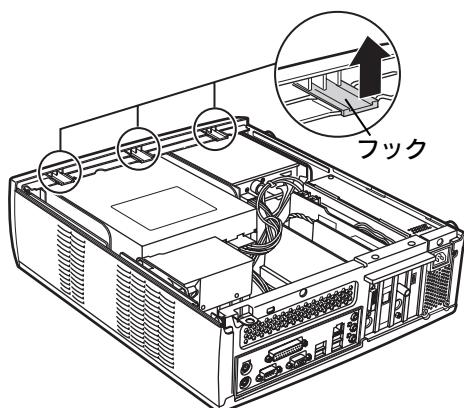
2

シャーシに固定されているフック(3つ)を軽く持ち上げて、フックをシャーシから外します。



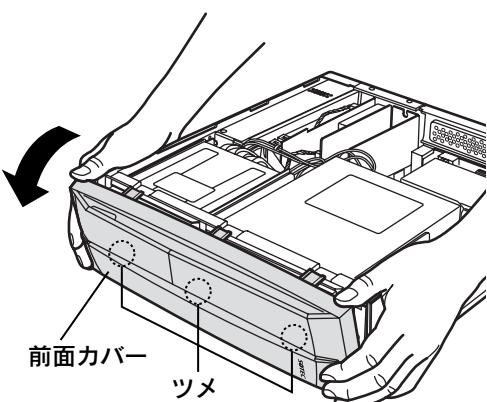
フックを持ち上げすぎると、折れてしまう
恐れがあります。

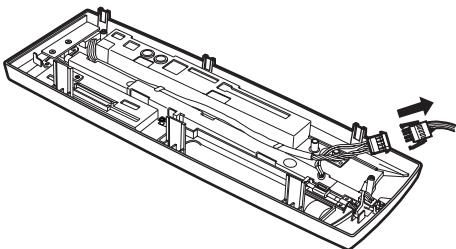
注 意



3

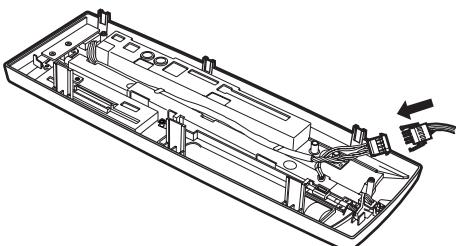
シャーシに引っかかっているツメ(3つ)を、シャーシから外します。



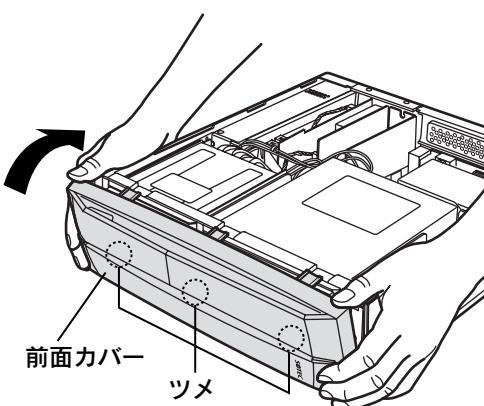


- 4 LEDケーブルのコネクタを、前面カバーから取り外します。

▶ 前面カバーの取り付け



- 1 LEDケーブルのコネクタを、前面カバーに取り付けます。

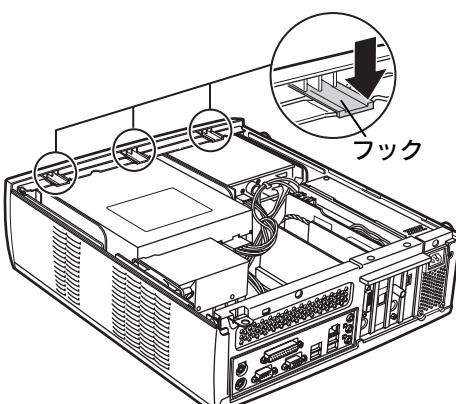


- 2 ツメ(3つ)を、シャーシに差し込みます。

- 3 前面カバーを閉じます。

チェック

前面カバーと光ディスクドライブの間に、LEDケーブルを挟まないように注意してください。



- 4 フック(3つ)を、シャーシに引っ掛けます。

- 5 本体カバーを取り付けます。

「本体カバーの取り付け」(☞ 79ページ)

3

各種カードの取り付けと取り外し

本機は、PCIスロットやAGPスロットにさまざまな機能のオプションカードを取り付けられます。

※Low Profile 規格以外のオプションカードは取り付けできません。

オプションカードの取り付け

1

本体カバーを取り外します。

「本体カバーの取り外し」(☞ 78ページ)

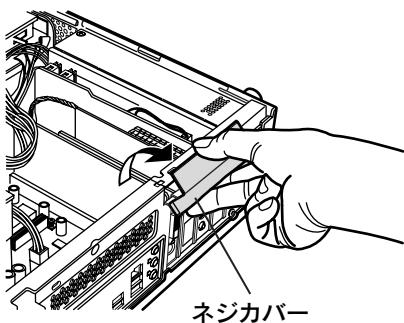


オプションカードを装着するときは、体の
静電気を取り除いてください。

注意 (☞ 59ページ)

2

ネジカバーを取り外します。



3

(空スロットがない場合)

不要なオプションカードを取り外します。

「オプションカードの取り外し」(☞ 84ページ)

4

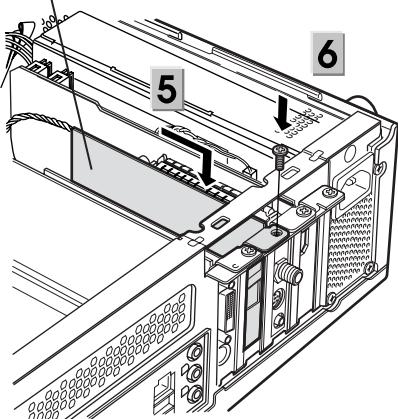
(空スロットがある場合)

本体背面にあるスロットカバーを取り外します。

チェック

スロットカバーを取り外す際、シャーシな
どでケガをしないように注意してください。

オプションカード



5

オプションカードをPCIスロットに取り付けます。



オプションカードによっては、必要に応じて、マザーボードのコネクタにケーブルを接続します。



オプションカードがマザーボードに対して垂直になるように押し込んでください。

注 意

カードによっては、強く力を入れないと装着できないこともありますが、オプションカードおよびマザーボードを壊さないように注意してください。



AGPスロットにオプションカードを取り付ける場合は、ロックを外す必要があります。次の「AGPスロットを増設する場合」をご参照ください。

6

ネジでオプションカードを固定します。

7

ネジカバーを取り付けます。

8

本体力カバーを取り付けます。

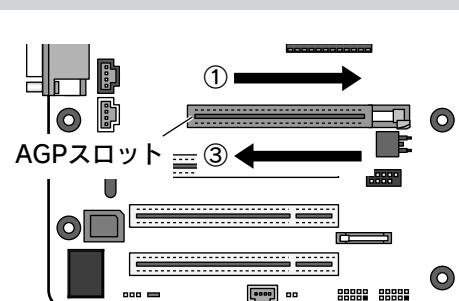
「本体力カバーの取り付け」(☞ 79ページ)



AGPスロットに増設する場合

標準モデルでは空きAGPスロットを1スロット用意しており、ビデオカードを増設できます。AGPスロットには、PCIスロットと同様の手順でビデオカードを取り付けることができます。ただし、AGPスロットにはロック機構があり、ビデオカードを取り付ける際にはロックを外す必要があります。ロック用のレバーはAGPスロットの上部にあります。

- ①ロック用のレバーを右側にスライドさせます。
- ②ビデオカードを取り付けます。
- ③ロック用のレバーを元に戻します。



AGPスロットとは...

Accelerated Graphics Portの略で、ビデオカード専用の拡張スロットのことです。

オプションカードの取り外し

1

本体力カバーを取り外します。

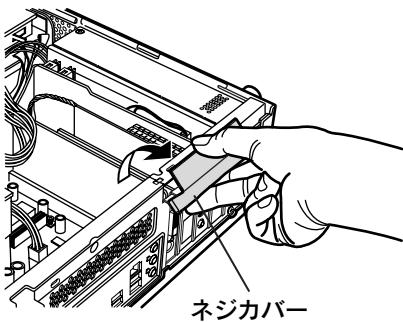
「本体力カバーの取り外し」(☞ 78ページ)



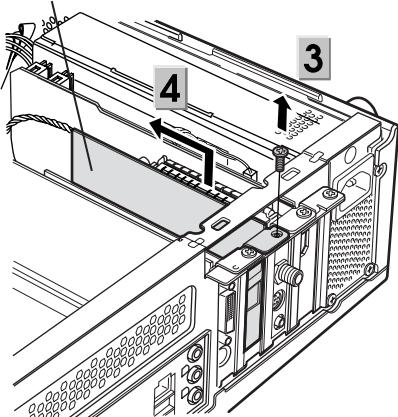
オプションカードを装着するときは、体の
静電気を取り除いてください。
注意 (☞ 59ページ)

2

ネジカバーを取り外します。



オプションカード



3

オプションカードを固定しているネジを取り外します。

4

オプションカードをマザーボードから垂直に引
き抜き、矢印の方向に取り外します。

5

ネジカバーを取り付けます。

6

本体力カバーを取り付けます。

「本体力カバーの取り付け」(☞ 79ページ)

メモリの増設

複数のアプリケーションソフトを使っているときなどに、処理速度が遅いと感じるようになってきたら、メモリを増やしてみましょう。ここでは、メモリについての基本的な知識と、メモリの増設方法について説明します。

メモリについて

メモリは、作業をするときの「作業机」のようなものです。机の上が広いと作業がしやすいうように、メモリの総容量が大きいとアプリケーションソフトの動作も快適になります。



メモリが少ないと . . .

STEP 4

本体内部の増設について

●本機で使用できるメモリ

本機には、メモリ用のスロットが2個あります。メモリは、最大1Gバイト(512Mバイトのメモリを2枚)まで増やすことができます。

本機で使用できるメモリは、次の仕様の184ピンDIMMモジュールです。

メモリの種類	DDR SDRAM
動作電圧	2.5V
ECC構成	パリティなし
メモリの速度	333MHz(PC2700)

チェック

本機で使用するメモリは「PC2700 DDR SDRAM」規格のメモリです。
「SDRAM」規格のメモリと形状が似ていますが、互換性はありません。本機で「SDRAM」規格のメモリは使用できません。



- メモリは1枚単位で増設できますが、2枚使用時に別品種/品番のメモリーを使うと動作不安定になることがありますので、同一品種/品番をご使用されることをお勧めします。

メモリの取り付けと取り外し

ここでは、メモリの取り付け方法と、取り外し方法を説明します。

メモリを取り付けるスロットは2つありますが、どちらのスロットでもかまいません。また、スロットごとにメモリの容量が異なっても差し支えありません。

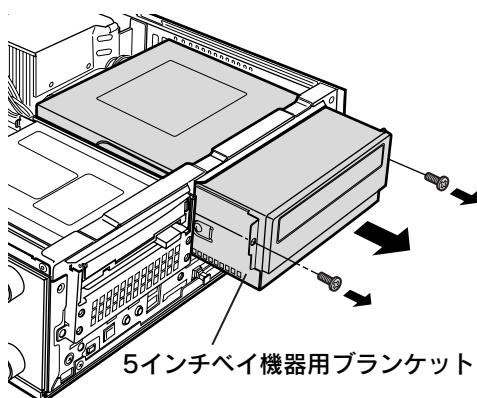
※イラストは、AVモデル



メモリを取り扱うときに気をつけること

注 意

- ・装着の前には、必ず本機の電源をOFFにして、電源ケーブルを本機から抜いてください。
- ・本機には必ず「PC2700 DDR SDRAM」規格のメモリをお使いください。
- ・メモリは静電気に大変弱い部品です。静電気を帯びた物や人の手でメモリに触ると、メモリが壊れる恐れがあります。メモリを取り扱うときは、体の静電気を取り除いてください。
(☞ 59ページ)
- ・メモリの端子部には触れないでください。端子部分に手を触ると、接触不良によりメモリが壊れる恐れがあります。
- ・メモリは大変壊れやすい部品です。取り外したメモリは大切に保管してください。



1

本体カバーと前面カバーを外します。

「本体カバーの取り外し」(☞ 78ページ)
「前面カバーの取り外し」(☞ 80ページ)

2

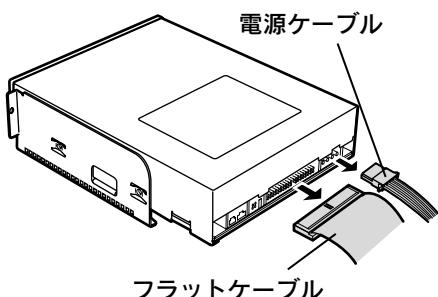
5インチベイ機器用ブランケットを固定しているネジを取り外します。

3

5インチベイ機器用ブランケットを、本体から途中まで取り外します。

4

電源ケーブルおよびフラットケーブルを、光ディスクドライブから取り外します。



 5インチベイ機器にオーディオケーブルが接続されている場合は外します。

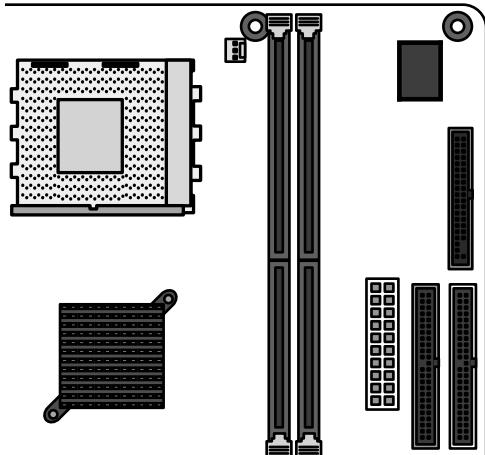
5

5インチベイ機器用ブランケットを、本体から完全に取り外します。

メモリスロット

6

マザーボード上のメモリスロットの位置を確認します。
(☞ 134~135ページ)

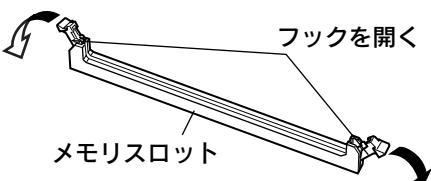


フックを開く

メモリスロット

7

メモリスロットの両側にあるフックを外側に開きます。



切り欠き

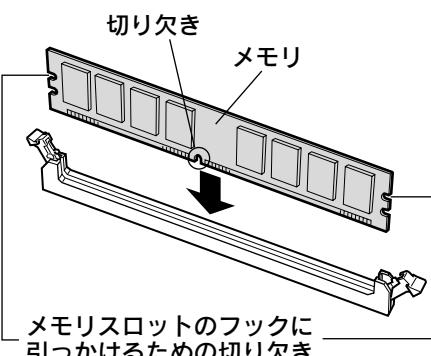
メモリ

8

メモリを装着します。

チェック

メモリの向きを間違えないように、また、メモリ下部の切り欠きがメモリスロットの凸部に合うようにしてください。

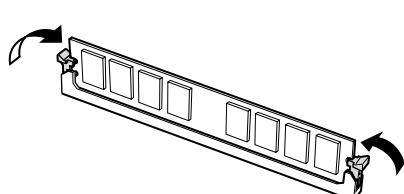
メモリスロットのフックに
引っかけるための切り欠き

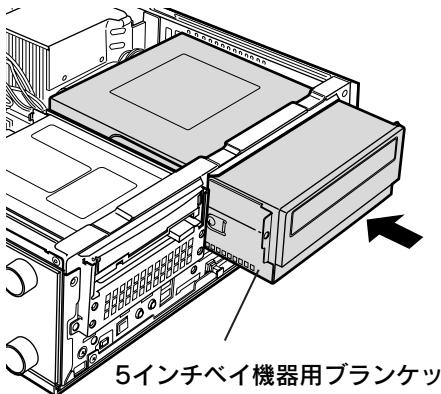
9

メモリスロットの両側のフックがメモリ両側の切り欠きに引っかかるまで、しっかりと差し込みます。

チェック

メモリはその種類によってメモリ下部の切り欠きの位置が異なります。切り欠きの位置が異なるメモリは、メモリスロットに差し込むことはできません。無理に差し込まないでください。

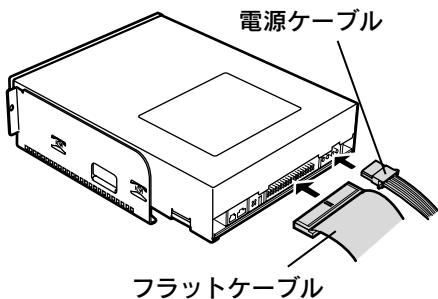




- 10 5インチベイ機器用プランケットを、本体へ途中まで取り付けます。

チェック

このとき、メモリにドライブプランケットやケーブルが接触しないように気を付けてください。ケーブルなどがメモリに接触すると動作不良や、故障の原因となります。



- 11 電源ケーブルおよびフラットケーブルを、光ディスクドライブへ取り付けます。

- 12 5インチベイ機器用プランケットを、本体へ完全に取り付けます。

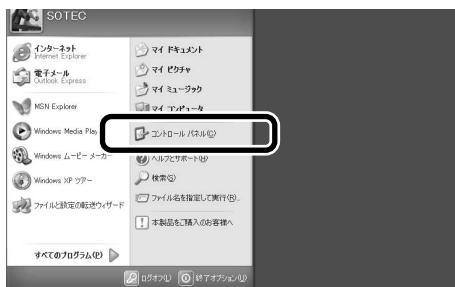
- 13 5インチベイ機器用プランケットを、ネジで本体に固定します。

- 14 本体カバーおよび前面カバーを取り付けます。

「本体カバーの取り付け」(☞ 79ページ)
「前面カバーの取り付け」(☞ 81ページ)

増やしたメモリを確認する

電源をONにして、メモリが増えているか確認しましょう。



1 本機の電源をONにします。

2 [スタート]ボタン→[コントロールパネル]を選択します。

【コントロールパネル】ウィンドウが表示されます。

3 [パフォーマンスとメンテナンス]を選択します。

【パフォーマンスとメンテナンス】ウィンドウが表示されます。



4 [システム]を選択します。

【システムのプロパティ】ダイアログが表示されます。



5 ここに表示されている数字を確認します。



5

チェック

- 表示されたメモリの大きさが増えていなかった場合は、メモリが正しく取り付けられているか、このパソコンで使えるメモリを取り付けたかをご確認ください。
- 本製品のメモリの一部は、自動的にビデオメモリに割り当てられます。そのため、実際に取り付けたメモリ容量より少なく表示されます。

STEP 4

本体内部の増設について

ハードディスクを増設する

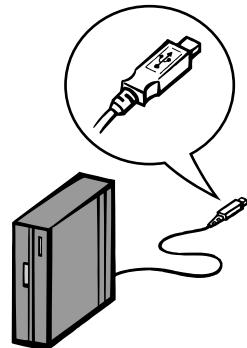
ハードディスクの容量を増やすには、新たなハードディスクを増設するのが一番の早道です。ここでは、ハードディスクの種類を紹介します。

▶ ハードディスクの種類

ハードディスクは、大きく分けて、主にUSB対応のハードディスクと、IDE(アイディイー)と呼ばれる規格のハードディスクがあります。また、IEEE1394や、SCSI対応のハードディスクもあります。

● USBタイプのハードディスク

本機に用意されているUSBコネクタに接続するだけで、使用することができます。



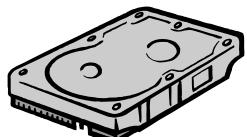
● IDEタイプのハードディスク

マザーボード上に、IDEタイプの機器を接続するためのコネクタがあります。そのコネクタから、理論上合計2台のハードディスクを接続できます。すでに接続されているハードディスクは「マスター」と呼ばれ、次に接続するハードディスクは「スレーブ」と呼ばれます。

マスター(1番目)に接続するか、スレーブ(2番目)に接続するかで、ハードディスクのジャンパスイッチなどの設定が必要です。

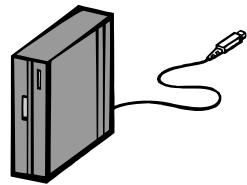
本機では、物理的にIDEタイプのハードディスクドライブを1台のみ接続できます。

IDEタイプのハードディスクドライブを取り付ける場合は、既存のハードディスクドライブを取り外す必要があります。



● IEEE1394タイプのハードディスク

接続がUSBタイプと同じく簡単な、IEEE1394に対応した外付けハードディスクです。データの送信量は、SCSI機器に匹敵するほど高速です。



● SCSIタイプのハードディスク

SCSIインターフェイス(SCSIカード)を利用して接続します。

SCSI IDやターミネータの設定も必要で、ジャンパスイッチなどで設定をします。

チェック

接続した後は、フォーマットと呼ばれる作業が必要です。フォーマットは、ハードディスクに付属のユーティリティソフトウェアを使用する場合があります。ハードディスクに付属の取扱説明書をご参照ください。また、増設したハードディスクを起動用にしたい場合は、フォーマット時に「システムファイル」をコピーしてください。

STEP4

本体内部の増設について

内蔵ハードディスクドライブの交換

ここでは、内蔵ハードディスクドライブの交換について説明します。

※イラストは、AVモデル



- ・本機に内蔵できるハードディスクドライブは1台のみです。新しいハードディスクドライブを内蔵で取り付ける場合は、既存のハードディスクドライブを取り外してください。
- ・内蔵ハードディスクドライブの交換は、サポート対象外です。交換によって生じる結果に対して、当社は責任を負いません。

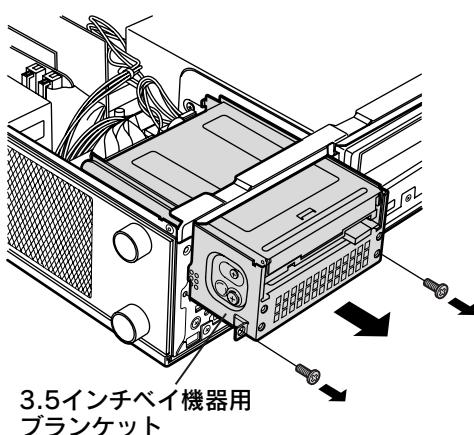
●ハードディスクドライブの取り外し

1 本体カバーおよび前面カバーを取り外します。

「本体カバーの取り外し」(☞ 78ページ)
「前面カバーの取り外し」(☞ 80ページ)

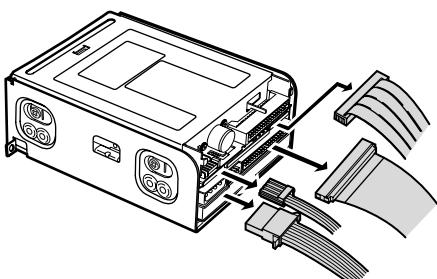
2 3.5インチベイ機器用プランケットを固定しているネジを取り外します。

3 3.5インチベイ機器用プランケットを、本体から途中まで取り外します。



3.5インチベイ機器用
プランケット

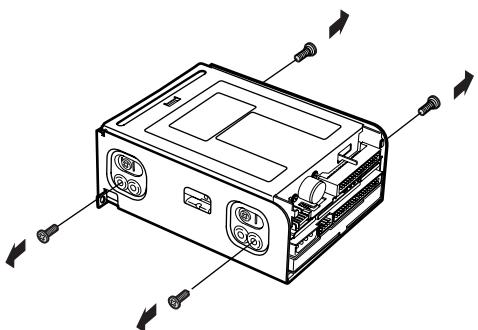
4 電源ケーブルおよびフラットケーブルを、フロッピーディスクドライブ、ハードディスクドライブから取り外します。



5 3.5インチベイ機器用プランケットを、本体から完全に取り外します。

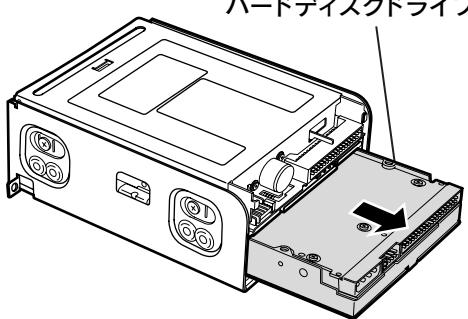
6

ハードディスクドライブを固定しているネジを取り外します。



7

ハードディスクドライブを取り外します。



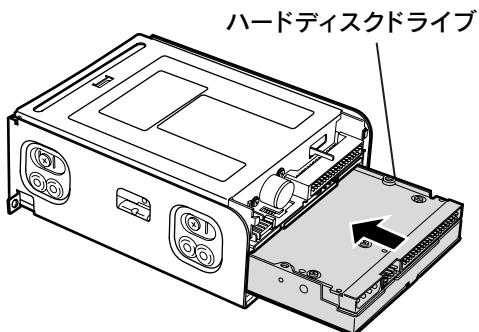
STEP 4

本体内部の増設について

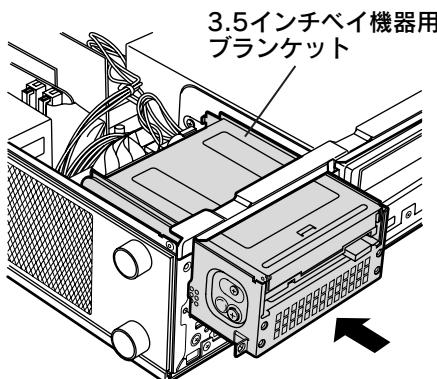
●ハードディスクドライブの取り付け

ハードディスクドライブの取り付けや取り外しには、ジャンパの設定が必要になる場合があります。パソコンはジャンパの設定によって、使用するハードディスクドライブを認識します。ハードディスクドライブに付属のマニュアルをご参照の上、正しく設定してください。

1 ハードディスクドライブのマニュアルを参考に、ジャンパ/スイッチ/ターミネータなどを設定します。

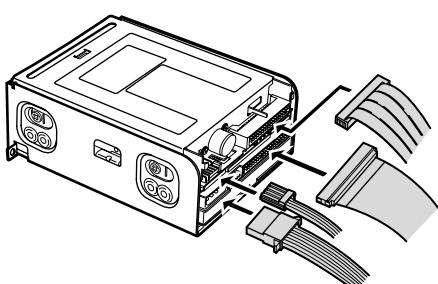


2 ハードディスクドライブを、3.5インチベイ機器用ブランケットへ取り付けます。



3 ハードディスクドライブを、ネジで固定します。

4 3.5インチベイ機器用ブランケットを、本体へ途中まで取り付けます。



5 電源ケーブルおよびフラットケーブルを、フロッピーディスクドライブ、ハードディスクドライブへ取り付けます。

6 3.5インチベイ機器用プランケットを、本体へ完全に取り付けます。

7 3.5インチベイ機器用プランケットを、ネジで本体に固定します。

チェック

このとき、メモリにドライブプランケットやケーブルが接触しないように気を付けてください。ケーブルなどがメモリに接触すると動作不良や、故障の原因となります。

8 本体カバーと前面カバーを取り付けます。

「本体カバーの取り付け」(☞ 79ページ)

「前面カバーの取り付け」(☞ 81ページ)

STEP4

本体内部の増設について

STEP 5

困ったときには・・・

本機の使用中に、トラブルが発生したり、疑問に感じたりしたことがあれば、あわてずにこの項目をご参照ください。

1 「おかしいな？」と思ったら	98
2 パソコンで調べる	99
3 困ったときのチェックリスト	100
SOTEC電子マニュアルで調べる	101
4 よくある質問集	102
パソコンを起動する前に	102
パソコンが動かない	102
パソコンを使っていたら	105

1

「おかしいな？」と思ったら

本機のご使用中にトラブルが発生したり、疑問に感じたことがあれば、あわてずに次の項目をチェックしながら対処してください。

まずははじめに

あわてて対処しないでください

トラブルが発生したと思ったら、パソコンをそのままの状態で1分くらい放置してください。すぐに電源を切つたり、むやみにマウスのボタンを押したり、キーボードのキーをたたいたりしないでください。

また、何らかのメッセージが表示された場合は、そのメッセージを書きとめてください。

1 本書で該当する項目を探しましょう

☞「困ったときのチェックリスト」(100ページ)

本書に該当する項目があれば、本書の指示に従って解決してください。

2 オンライン情報から該当する項目を探しましょう

☞「パソコンで調べる」(97ページ)

本書以外にも、弊社Webサイト「ソーテックオンラインサポート」や、Microsoft社のWebサイト「マイクロソフトヘルプとサポート」に、トラブル解決のためのQ&Aが掲載されています。また、Windows XPおよびアプリケーションソフトのヘルプもご活用ください。

3 パソコンを購入時の状態に戻しましょう

☞「パソコンを購入時の状態に戻す（リカバリ）」(109ページ)

本製品に付属しているリカバリCD-ROMを使って、本機をご購入時の状態に戻します。
(この作業をリカバリといいます)

リカバリする前には、必要なデータや設定情報のバックアップを取ってください。

4 SOTECテクニカルサポートセンタに連絡しましょう

☞別冊「サポートのご案内」

以上の方でどうしても解決できないときは、SOTECテクニカルサポートセンタに連絡してください。連絡する前に、別冊「サポートのご案内」をよくお読みになり、注意事項などをご確認ください。

パソコンで調べる

本書以外にも、次のWebページおよびヘルプをご参照ください。トラブル解決のための情報が提供されています。

●SOTEC電子マニュアル (デスクトップ画面にある[SOTEC電子マニュアル]アイコンをダブルクリック)

本機のマルチメディア機能の活用方法、およびWindows XPやインターネットの便利な使いかたを図解つきで説明しています。また、トラブルの解決方法および予防方法も説明しています。



●マイクロソフトヘルプとサポート (<http://www.microsoft.com/japan/support/>)

Windows固有の技術情報を中心に掲載されています。Windowsの不具合の修正プログラムもこのWebページよりダウンロードできます。



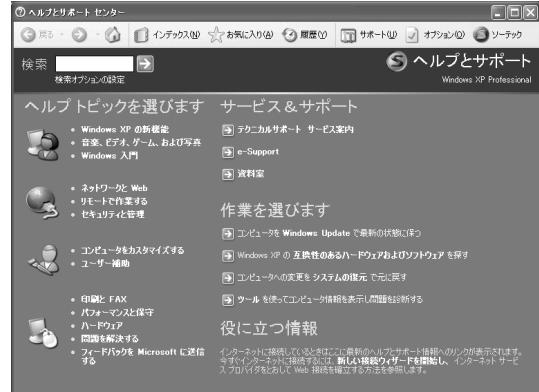
●ソーテックオンラインサポート (<http://sotec.techsupport.co.jp/>)

弊社製品の仕様の公開や、SOTECテクニカルサポートセンタに寄せられる質問などを掲載しています。また、各製品ごとに、ドライバおよびプログラムのダウンロードもできます。



●ヘルプとサポート ([スタート]ボタン→[ヘルプとサポート])

Windowsおよび本機に関して、知っておくと有用な情報を掲載しています。また、Windowsのトラブルシューティングおよびチュートリアルもご利用になれます。



3

困ったときのチェックリスト

トラブルが発生した、または発生したと思ったら、下のチェックリストでパソコンの症状をチェックしてください。

1 パソコンの電源はONになりますか？

- ONになりません (☞ 102ページ)



ONになります

2 Windowsは起動しますか？

- セーフモードで起動します (☞ 103ページ)
- 起動しません (☞ 102~104ページ)



正常に起動します

3 Windowsの画面は表示されますか？

- 表示しますが、正常ではありません (☞ 105~106ページ)
- セーフモードで表示されます (☞ 103ページ)



正常に表示されます

4 マウス・キーボードは正常ですか？

- 正常ではありません (☞ 106~107ページ)



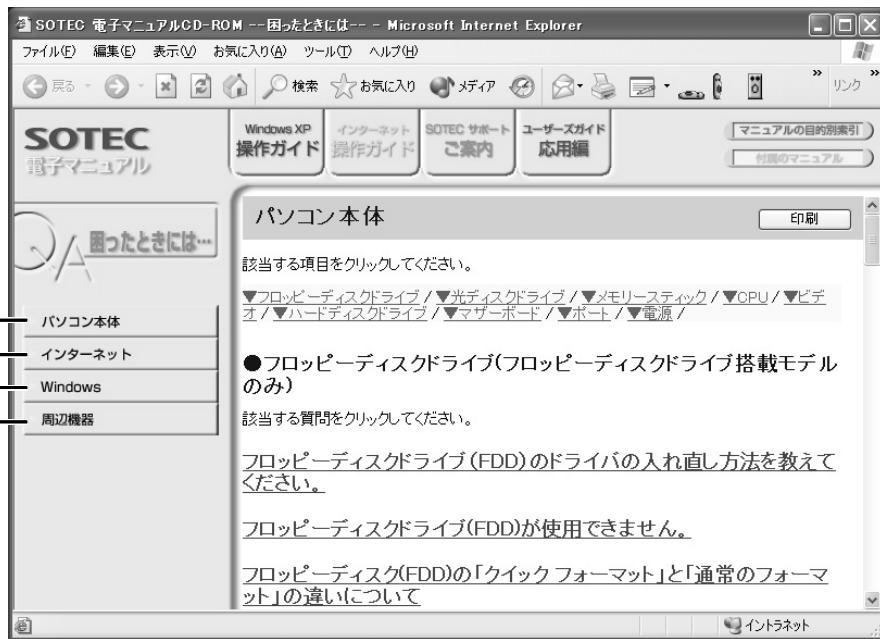
正常に動作します

SOTEC電子マニュアルをご参照ください。

本書に記載されていない、他のトラブルの解決方法を記載しています。 (☞ 101ページ)

SOTEC電子マニュアルで調べる

Windowsの使用中に起こるトラブルや質問は、「SOTEC電子マニュアル」の「困ったときには・・・」に記載しています。



①パソコン本体

フロッピーディスク、CD/DVD、CPU、メモリなどのトラブルや質問をまとめています。

②インターネット

インターネットや電子メールの使用中によく起こるトラブルや質問をまとめています。

③Windows

Windows本体に関する質問をまとめています。

④周辺機器

周辺機器に関するトラブルや質問をまとめています。

STEP 5

困ったときには

よくある質問集

本機のご使用中に遭遇する、よくある質問や問題をまとめました。SOTECテクニカルサポートセンタへお問い合わせいただく前に、ご確認ください。

▶パソコンを起動する前に

Q1

海外のコンセントに接続して使用できるか

A

・電源が交流100Vであれば使用できます(プラグの形状が異なる場合、変換プラグが必要)。

ただし、日本国外で本機を使用される場合は、サポート対象外となります。

▶パソコンが動かない

Q2

電源スイッチを押しても動かない

A

・電源ケーブルは抜けていませんか？

電源ケーブルを差し込んでください。

・本機が故障していることがあります。

SOTECテクニカルサポートセンタへお問い合わせください。

Q3

画面に何も表示されない

A

・本機の電源はONになっていますか？

本機の電源LEDを確認し、消えている場合は本機の電源スイッチをONにしてください。

・本機の再起動前に、本機とディスプレイを接続してください。

ディスプレイは、本機の起動開始後すぐに認識されるため、本機の電源投入後にディスプレイを接続しても、ディスプレイを認識できません。

・ディスプレイのプラグは外れていませんか？

ディスプレイのプラグを正しく接続してください。

本機とディスプレイの接続については、「接続する」(☞ 20~22ページ)をご参照ください。

・ディスプレイの電源はONになっていますか？

ディスプレイの電源をONにしてください。

Q4

パソコンの電源をONにしたところ、黒い画面に英語の文字が表示され、Windowsが起動しない

A

- ・フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクが入ったままになつていませんか？

フロッピーディスクを挿入したままパソコンの電源をONにして起動すると、このメッセージが表示されます。もし入っていれば、フロッピーディスクを抜いていずれかのキーを押してください。

上記方法でも解消しない場合は、リカバリを試してください。なお、リカバリを実行すると、Windowsが工場出荷時の初期状態に戻り、お客様がハードディスクドライブに保存されたデータは全て消去されてしまいます。必要なデータは、あらかじめバックアップを取ることをお勧めします。

リカバリ方法は、「パソコンを購入時の状態に戻す(リカバリ)」をご参照ください。(☞ 109ページ)

一部のアプリケーションについては、個別にインストールしていただく必要があります。

- ・これで回復できない場合は、ケーブルとハードディスクドライブの物理的な接触不良の可能性もありますので、SOTECテクニカルサポートセンタまでお問い合わせください。

Q5

パソコンを起動したところ、「セーフモード」という文字が画面に表示され、通常よりも低い解像度で起動している

A

- ・この状態は誤動作ではなく、「セーフモード」というWindowsを正常な状態に戻すための診断モードです。

セーフモードで起動した場合、ドライバや周辺機器との接続に問題があるか、何かの設定が壊れているなどの原因が考えられます。セーフモードは、不具合の原因がどこにあるかを調べて、それを解消するための診断モードであるため、不具合がどこにあるかを調べるための最低限の操作のみを行うよう設定されています。

問題解決後(自動修復含む)、再起動を行うと通常どおりWindowsが起動します。

STEP 5

困ったときには

Q6

周辺機器を取り付けたら
Windows XPが起動しない

A

・周辺機器のデバイスドライバが原因で、Windows XPが起動できなくなつた可能性があります。

「セーフモード」でWindows XPを起動して、トラブルの原因と思われるデバイスドライバを無効にしてください。この方法でWindows XPが正常に起動した場合、正しいデバイスドライバをインストールするか、デバイスドライバ自体を削除する必要があります。

「セーフモード」でデバイスを無効にするには、次の操作に従つて設定してください。

- ①本機の電源をONにし、メモリチェックが終了したら**F8**キーを連打してください。
- ②[Windows拡張オプションメニュー]が表示されるので、「セーフモード」をキーボードで選択してください。
- ③[オペレーティングシステムの選択]で「Microsoft Windows XP」を選択してください。
- ④ユーザー名を選択してください。セーフモードでWindows XPが起動します。
- ⑤【デバイスマネージャ】ダイアログを表示させ、追加した周辺機器の【プロパティ】ダイアログで[全般]タブをクリックしてください。
- ⑥「すべてのハードウェアプロファイルを使用する」のチェックを外し、[OK]ボタンをクリックしてください。

Windows XPを再起動すると、通常モードでWindows XPが起動します。

・この方法でもWindows XPが起動しない場合、本機の電源をOFFにしてから、新しく取り付けた周辺機器を外してください。

Q7

終了できない

A

・電源スイッチを4秒以上押すことにより電源を切ることが可能です。

その際、必ず各種アクセスLEDがついてないことをご確認ください。上記の方法で電源が切れない場合は、電源ケーブルを抜いてください。

▶ パソコンを使っていたら

● 画面上のトラブル

Q8

いきなり画面が消えた

・スタンバイに入った可能性があります。

電源スイッチを押してください。

・休止状態になった可能性があります。

電源スイッチを押してください。

・電源ケーブルが電源コンセントから外れていませんか？

電源ケーブルを正しく接続してください。

電源ケーブルの接続については、「接続する」(☞ 20~22ページ)をご参照ください。

・ディスプレイのプラグは外れていませんか？

ディスプレイのプラグを正しく接続してください。

本機とディスプレイの接続については、「接続する」(☞ 20~22ページ)をご参照ください。

Q9

表示される日付や時刻が正しくない

・日付や時刻が間違った設定になっていませんか？

Windowsのタスクバーの時刻をダブルクリックして「日付と時刻のプロパティ」を起動します。【日付と時刻のプロパティ】ダイアログで正しい日付や時刻を設定してください。



・本機に内蔵されている電池が切れている可能性があります。

マザーボードに取り付けられているリチウム電池の寿命は、平均2~3年です。本機の使用期間が2~3年経過していたら、リチウム電池の交換を試してください。(☞ 136~137ページ)

STEP 5

困ったときには

Q10

日付の設定を変更しても元に戻ってしまう

A

・電池容量切れになっている可能性があります。

日付設定などのバックアップ電源として内蔵電池を使用しています。この内蔵電池が容量不足になると、日付設定などのデータ保持ができなくなります。

電池は消耗品ですので、寿命があります。寿命についてはお客様のご使用状況により大きく異なりますが、平均2~3年です。

●ディスプレイのトラブル

Q11

画面表示がブレてしまう

A

・液晶ディスプレイの場合、使用前にパソコンとのチューニング(ディスプレイ設定「OSDメニュー」内の「AutoTune」)をして、位相を調整しないと画面表示がブレるなどの症状が起こることがあります。

本来はCRT(液晶ではない通常のディスプレイ)でも調整が必要ですが、CRTは液晶と出力形式の違いから、画面全体が微妙にズレるなど、液晶ディスプレイとは違った症状で現れるため、視覚的には気になりません。

「AUTO TUNE(自動調整)」の項目を選択すると、2~5秒後に自動的にサイズとポジション、位相などを調整します。

Q12

画面表示にムラがある

A

・ディスプレイを見やすい角度に調整してください。

液晶ディスプレイは、周囲の温度などの影響によって表示が変わることの特徴があります。ムラがあるのは故障ではありません。

●マウスやキーボードのトラブル

Q13

マウスポインタが動作しない

A

・接続ケーブルが外れていませんか？

接続ケーブルを正しく接続してください。それでも動かない場合は、本機を再起動してください。

・本機の電源をONにした後にマウスを接続していませんか？

マウスを接続後、再起動してください。

・適正なマウスドライバを使用していますか？

付属のマウス以外を使用する場合は、専用のマウスドライバが必要なことがあります。使用するマウスに付属のマウスドライバを正しくインストールしてください。

Q14

A

押したキーと違う文字が表示される

- ・**CapsLock**、**ひらがな/カタカナ**などが間違って押されていませんか？
目的の文字がタイプされるように**CapsLock**、**ひらがな/カタカナ**キーを押してください。

- ・キーボードのドライバは適正なものですか？

キーボードのドライバがお使いのキーボードに対応したものでない可能性があります。キーボードのドライバを更新してください。

Q15

A

デバイスマネージャ上で日本語106(109)キーボードが、英語101(102)キーボードと表示されてしまう

- ・この現象は、Windows XPのシステムがプラグアンドプレイでキーボードを認識する際に、英語101/102キーボードが指定されているために発生します。

回避策として、次の方法を試してください。デバイスマネージャから、次の手順で日本語106/109キーボードに変更します。

- ①[スタート]ボタン→[コントロールパネル]→[システム]アイコンを選択して、[ハードウェア]タブをクリックします。
- ②[デバイスマネージャ]ボタンをクリックして【デバイスマネージャ】ウィンドウを開きます。「キーボード」にある英語101/102キーボードをクリックします。
- ③[ドライバ]タブを選択し[ドライバの更新]ボタンをクリックします。
- ④「一覧または特定の場所からインストールする(詳細)」をチェックして、[次へ]ボタンをクリックします。
- ⑤「次の場所で最適のドライバを検索する」をチェックして、「次の場所を含める」をチェックし、[参照]ボタンをクリックします。
- ⑦リカバリCD-ROM(3枚目)をCD-ROMドライブにセットします。
- ⑧「フォルダの参照」からカバリCD-ROMをセットしたドライブを開き、[DRIVERS]→[KEYBOARD]フォルダを選択して[OK]ボタンをクリックします。
- ⑨日本語キーボードが検索されるので画面の指示にしたがってドライバを更新します。

STEP 5

困ったときには

STEP 6

パソコンを購入時の状態に戻す(リカバリ)

PC STATIONをご購入時の状態に戻す(リカバリ)方法や、リカバリ前に作業していただきたいデータや設定のバックアップ方法について説明しています。

1 リカバリの流れ	110
2 リカバリの準備をする	111
ファイルのバックアップ	111
Internet Explorerの『お気に入り』の バックアップ	111
Outlook Express 6のバックアップ	112
デスクトップ画面設定のバックアップ	116
ユーザー辞書のバックアップ	117
3 リカバリを実行する	118
リカバリ時のエラーメッセージと その対処法	124
4 パソコンの環境を元に戻す	126
パソコンの環境設定	126
製品購入後にインストールした アプリケーションソフトの設定	126
バックアップしたファイルを元に戻す	126
Internet Explorerの『お気に入り』を 元に戻す	126
Outlook Express 6を元に戻す	127
デスクトップの画面設定を元に戻す	130
ユーザー辞書を元に戻す	131

リカバリの流れ

本機をご購入時の状態に戻すことを、リカバリと呼びます。リカバリは、次の手順で操作してください。

ステップ1 リカバリの準備をする

リカバリを実行すると、ハードディスクの情報が消去されます。
必要なデータをフロッピーディスク、またはCD-R/RWディスクなどに保存して下さい。

P.111

ステップ2 リカバリを実行する

パソコンの電源をONにして、イジェクトボタンを押し、「リカバリCD-ROM」を光ディスクドライブに入れます。
機種によっては、光ディスクドライブがない場合があります。ドライブがない場合は、弊社推奨の光ディスクドライブを用意する必要があります。

P.118

ステップ3 パソコンの環境を元に戻す

リカバリ実行後は、パソコンを以前使用していた環境に戻す作業が必要です。
また、バックアップをとったデータを元に戻してください。

P.126

2

リカバリの準備をする

使用していたデータや設定内容をバックアップして、リカバリ後に同じ環境で使えるようにします。

ファイルのバックアップ

リカバリを実行すると、ご購入後にお客様が作成・追加したデータは全て消去され、製品出荷時の状態に戻ります。お客様が作成・追加したデータは、外部記憶メディア(フロッピーディスク、CD-R/RWなど)に保存してください。

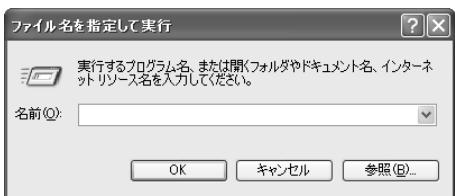
Internet Explorerの『お気に入り』のバックアップ

Internet Explorerの『お気に入り』は「C:\Documents and Settings*****\Favorites」フォルダ内に格納されています(*****にはWindows XPのユーザーアカウント名が入ります)。次の手順に従って、バックアップを取ってください。



1 [スタート]ボタン→[ファイル名を指定して実行]を選択します。

【ファイル名を指定して実行】ダイアログが表示されます。



2 「C:\Documents and Settings*****\Favorites」を入力し、[OK]ボタンをクリックします(*****にはWindows XPのユーザーアカウント名が入ります)。

【お気に入り】ウィンドウが表示されます。

3 【お気に入り】画面内にある、全てのフォルダとファイルを、外部記憶メディアに保存します。

以上でInternet Explorerの『お気に入り』のバックアップ作成は完了です。

Outlook Express 6のバックアップ

Outlook Express 6のバックアップは、メール、アカウント、アドレス帳に分けて行います。

●メールのバックアップ

Outlook Express 6のメールのバックアップは次の手順に従って操作してください。



1

Outlook Expressを起動します。



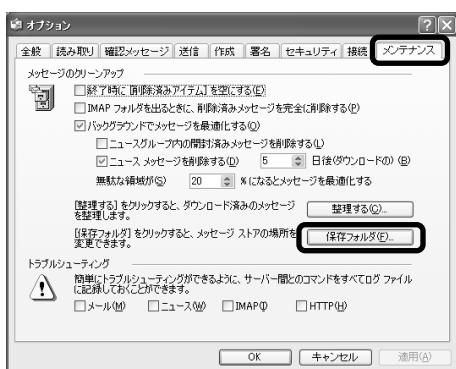
複数のユーザーでOutlook Expressを使用している場合は、バックアップをとりたいユーザーのアカウントを選択(ログイン)します。



2

[ツール]メニューより[オプション]を選択します。

[オプション] ダイアログが表示されます。



3

[メンテナンス]タブをクリックし、[保存フォルダ]ボタンをクリックします。

[保存場所] ダイアログが表示されます。



- 4 【保存場所】ダイアログに表示されている保存場所のアドレスをメモします。

- 5 [スタート]ボタン→[ファイル名を指定して実行]を選択します。

[ファイル名を指定して実行]ダイアログが表示されます。

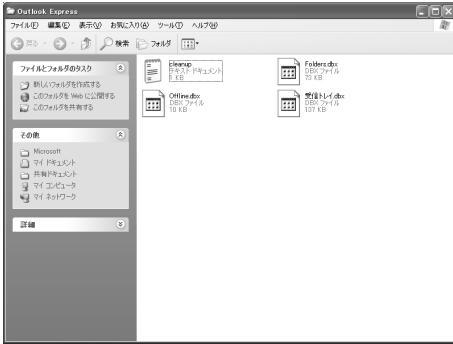
- 6 手順4でメモしたアドレスを入力し、[OK]ボタンをクリックします。

メールデータが保存されているウィンドウが表示されます。



- 7 表示されているファイルの中から、拡張子が「*.dbx」になっているファイルを全て、外部記憶メディアに保存します。

以上でメールのバックアップ作成は完了です。



STEP 6

パソコンを購入時の状態に戻す(リカバリ)

●メールアカウントのバックアップ

Outlook Express 6のメールアカウントのバックアップは次の手順に従って操作してください。



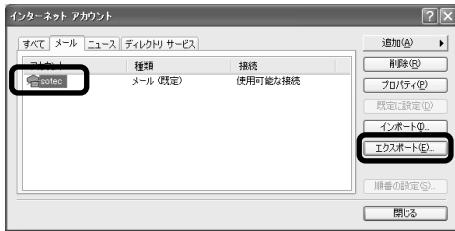
1

Outlook Expressを起動した状態で、[ツール]メニューより[アカウント]を選択します。

【インターネットアカウント】ダイアログが表示されます。



複数のユーザーでOutlook Expressを使用している場合は、バックアップをとりたいユーザーのアカウントを選択(ログイン)します。



2

[メール]タブをクリックし、表示されるアカウントの一覧からバックアップをとりたいアカウントを選択し、[エクスポート]ボタンをクリックします。

【インターネットアカウントのエクスポート】ダイアログが表示されます。



3

任意のファイル名と保存場所を設定して、[保存]ボタンをクリックします。

【インターネットアカウント】ダイアログに戻ります。

以上でメールアカウントのバックアップ作成は完了です。

● アドレス帳のバックアップ

Outlook Express 6のアドレス帳のバックアップは次の手順に従って操作してください。



1 [スタート]ボタン→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[アドレス帳]の順に選択します。

「アドレス帳」が起動します。

メモ 複数のユーザーでOutlook Expressを使用している場合は、バックアップをとりたいユーザーのアカウントを選択(ログイン)します。



2 [ファイル]→[エクスポート]→[アドレス帳]の順に選択します。

【エクスポートするアドレス帳ファイルの選択】ダイアログが表示されます。



3 任意のファイル名と外部記憶メディアの保存場所を設定して、[保存]ボタンをクリックします。

保存が完了したことを知らせるダイアログが表示されます。



4 [OK]ボタンをクリックします。

以上でアドレス帳のバックアップ作成は完了です。

STEP 6

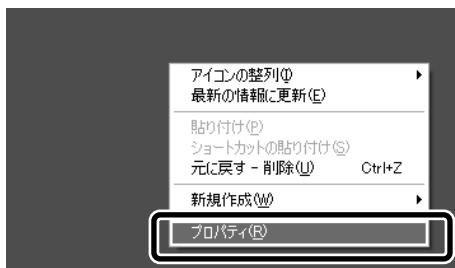
パソコンを購入時の状態に戻す(リカバリ)

デスクトップ画面設定のバックアップ

現在使用しているデスクトップ画面の設定をバックアップします。

チェック

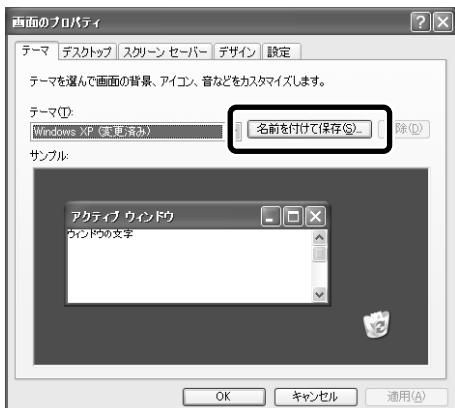
お客様が作成した画像を壁紙で使用している場合は、別途で画像ファイルのバックアップを取ってください。



1

デスクトップ上で右クリックして表示されるメニューから、[プロパティ]を選択します。

【画面のプロパティ】ダイアログが表示されます。



2

[名前を付けて保存]ボタンをクリックします。

【名前を付けて保存】ダイアログが表示されます。



3

任意のファイル名と外部記憶メディアの保存場所を設定して、[保存]ボタンをクリックします。

以上でデスクトップ画面設定のバックアップ作成は完了です。

▶ユーザー辞書のバックアップ

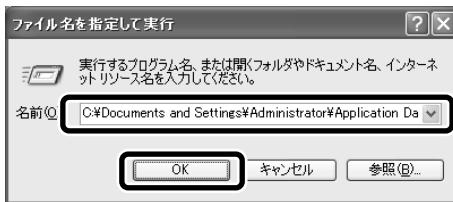
現在使用しているユーザー辞書をバックアップします。



1

[スタート]ボタン→[ファイル名を指定して実行]の順に選択します。

[ファイル名を指定して実行] ダイアログが表示されます。



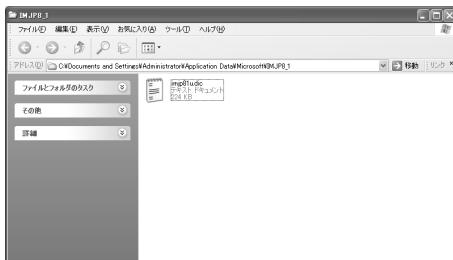
2

[C:\Documents and Settings* * * * Application Data\Microsoft\IMJP8_1]と入力して、[OK]ボタンをクリックします。
(* * * *にはWindows XPのユーザー名が入ります)

[IMJP8_1] ウィンドウが表示されます。



ユーザー辞書を他の任意のフォルダへ保存している場合は、任意のフォルダを開きます。



3

[imjp81u] ファイルを、異なる任意のファイル名で外部記憶メディアに保存します。

以上でユーザー辞書のバックアップ作成は完了です。



ファイル名は必ず変更してください。

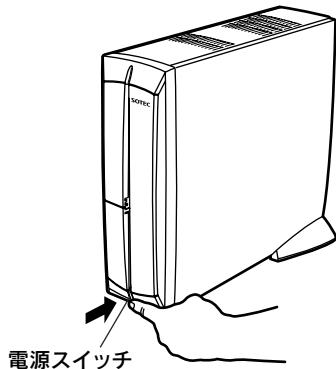
STEP 6

パソコンを購入時の状態に戻す(リカバリ)

3

リカバリを実行する

リカバリの実行は、「リカバリCD-ROM」を使用します。



- 1 本機の電源をONにして、"SOTEC"のロゴが入った画面が表示されたら、**Delete**キーを押します。

しばらくすると、セットアッププログラムの起動画面が表示されます。

チェック

リカバリを実行するときは、プリンタやその他の周辺機器は接続しないでください。OSの設定が、このユーザーズガイドの表記と異なる手順になる可能性があります。

- 2 「EXIT」メニューの[Load Setup Defaults]にカーソルをあわせて、**Enter**キーを押します。

「Load Optimized Defaults (Y/N)」と表示されます。

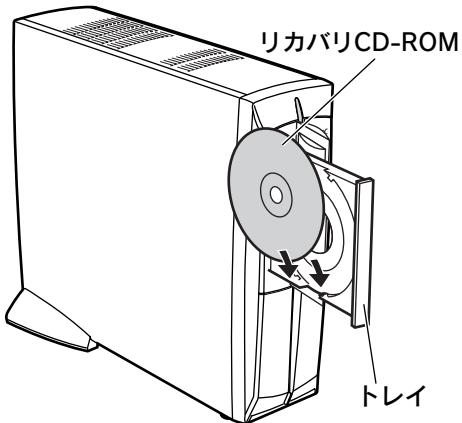
- 3 [YES]にカーソルをあわせて、**Enter**キーを押します。

- 4 「EXIT」メニューの「EXIT Saving Changes」にカーソルをあわせて、**Enter**キーを押します。

「Save to CMOS and EXIT (Y/N)」と表示されます。

- 5 [YES]にカーソルをあわせて、**Enter**キーを押します。

変更した設定値の保存をして、Windowsが再起動されます。再起動が完了したら、次の手順に進みます。



6 イジェクトボタンを押して「リカバリCD-ROM」を光ディスクドライブに挿入します。



書き込み可能な光ディスクドライブを装備しているモデルは、事前にリカバリCD-ROMを作成する必要があります。
リカバリCD-ROMの作成は、本製品に付属の「はじめにお読みください」から「リカバリCD-ROM作成手順」をご参照ください。

7 [スタート]ボタン→[終了オプション]を選択します。

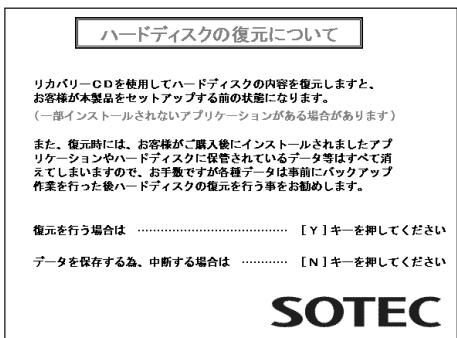


8 [再起動]をクリックします。

パソコンが再起動します。しばらくすると画面にリカバリ・プログラムのメニュー画面が表示されます。

9 [Y]キーを押します。

【復元方法の選択】の画面が表示されます。



復元方法の選択

ハードディスクの復元方法を選択してください。

- 一般的な方法で復元を行う場合 [1] キーを押してください
通常は、この方法を選択してください。C ドライブのみ復元を行います。
- 高度なオプションを選択して復元を行う場合 [2] キーを押してください
ハードディスクを分割しての復元や、ハードディスク全体を 1 つにして復元を行います。(すべての内容が消去されます)
- 復元を中止する場合 [N] キーを押してください

SOTEC

10

復元方法を選択します。

一般的な方法で復元を行いたい場合

[1] キーを押します。 → 手順 11 へ

高度なオプションを選択して復元を行いたい場合

[2] キーを押します。 → 手順 12 へ

復元を中止する場合

[N] キーを押します。

→ キャンセルのメッセージが表示されるので、リカバリ CD - ROM を取り出し、
[Ctrl] + [Alt] + [Delete] キーを同時に押して、パソコンを再起動します。



復元方法として、2種類の復元方法があります。「高度なオプションを選択して復元を行う場合」を選択した場合、ハードディスクの構成を変更する必要があるため、全てのデータが消えてしまいます（復旧することはできません）。
通常は「一般的な方法で復元を行う場合」を選択することをお勧めします。この場合、C ドライブのみ消去します。

復元の開始（一般）

この方法では、複数のパーティションが存在するハードディスクの C ドライブにリカバリを行います。

注意！
リカバリの操作を開始すると、C ドライブの内容は消去されます。
一度消去されたデータを元に戻すことはできません。
実行中に電源を切ったり、リセットしたりしないでください。

- リカバリを開始する場合 [Ctrl] キーを押しながら [S] キーを押してください
- リカバリを中止する場合 [N] キーを押してください

SOTEC

11

リカバリを実行します。（一般的な復元方法を選択した場合）

リカバリを開始する場合

[Ctrl] キーを押しながら [S] キーを押します。
→ 手順 16 へ

リカバリを中止する場合

[N] キーを押します。

→ キャンセルのメッセージが表示されるので、リカバリ CD - ROM を取り出し、
[Ctrl] + [Alt] + [Delete] キーを同時に押して、パソコンを再起動します。

復元方法の選択(2)

- 復元のオプションを選択してください。
注意!重要なデータは作業を行う前にバックアップを行ってください。
- 8GBをCドライブ、**
残りをDドライブに使用する場合 [1]キーを押してください
ハードディスクの内容すべてが消去され、パーティションは2分割されます。
 - 全体の半分をCドライブ、**
残りをDドライブに使用する場合 [2]キーを押してください
ハードディスクの内容すべてが消去され、パーティションは2つになります。
 - 全体をCドライブとして使用する場合** ... [3]キーを押してください
ハードディスクの内容すべてが消去され、パーティションは1つになります。
- ◀ 戻る [N]キーを押してください

SOTEC

12

復元のオプションを選択します。
(高度な復元方法を選択した場合)

チェック

「高度なオプションを選択して復元を行う場合」を選択した場合、ハードディスク構成を変更する必要があるため、全てのデータが消えてしまいます。
消去したデータは復旧できないので、あくまでもデータのバックアップをとりましょう。

8GBをCドライブ、残りをDドライブにして復元する場合:

①キーを押します。

→ハードディスクの内容すべてが消去され、
ハードディスクが2つに分かれます。

→手順13へ

全体の半分をCドライブ、残りをDドライブにして復元する場合:

②キーを押します。

→ハードディスクの内容すべてが消去され、
ハードディスクが2つに分かれます。

→手順14へ

全体をCドライブにして復元する場合:

③キーを押します。

→ハードディスクの内容すべてが消去され、
ハードディスクが1つになります。

→手順15へ

前のメニューに戻る場合

Nキーを押します。

復元の開始

この方法では8GBをCドライブ、残りをDドライブとしてリカバリを行ないます。

注意！
リカバリの操作を開始すると、ハードディスクの内容はすべて消去されます。
一度消去されたデータを元に戻すことはできません。
実行中に電源を切ったり、リセットしたりしないでください。

→ リカバリを開始する場合 [Ctrl]キーを押しながら [S]キーを押してください
← リカバリを中止する場合 [N]キーを押してください

SOTEC

13

リカバリを実行します。(8GBをCドライブ、残りをDドライブにして復元する場合)

リカバリを開始する場合：

[Ctrl]キーを押しながら [S]キーを押します。

→手順16へ

リカバリを中止する場合：

[N]キーを押します。

→キャンセルのメッセージが表示されるので、
リカバリ CD-ROMを取り出し、
[Ctrl]+[Alt]+[Delete]キーを同時に押して、パソコンを再起動します。

復元の開始

この方法では全体の半分をCドライブ、残りをDドライブとしてリカバリを行ないます。

注意！
リカバリの操作を開始すると、ハードディスクの内容はすべて消去されます。
一度消去されたデータを元に戻すことはできません。
実行中に電源を切ったり、リセットしたりしないでください。

→ リカバリを開始する場合 [Ctrl]キーを押しながら [S]キーを押してください
← リカバリを中止する場合 [N]キーを押してください

SOTEC

14

リカバリを実行します。(全体の半分をCドライブ、残りをDドライブにして復元する場合)

リカバリを開始する場合：

[Ctrl]キーを押しながら [S]キーを押します。

→手順16へ

リカバリを中止する場合：

[N]キーを押します。

→キャンセルのメッセージが表示されるので、
リカバリ CD-ROMを取り出し、
[Ctrl]+[Alt]+[Delete]キーを同時に押して、パソコンを再起動します。

復元の開始

この方法では全体をCドライブとしてリカバリを行ないます。

注意！
リカバリの操作を開始すると、ハードディスクの内容はすべて消去されます。
一度消去されたデータを元に戻すことはできません。
実行中に電源を切ったり、リセットしたりしないでください。

→ リカバリを開始する場合 [Ctrl]キーを押しながら [S]キーを押してください
← リカバリを中止する場合 [N]キーを押してください

SOTEC

15

リカバリを実行します。(全体をCドライブにして復元する場合)

リカバリを開始する場合：

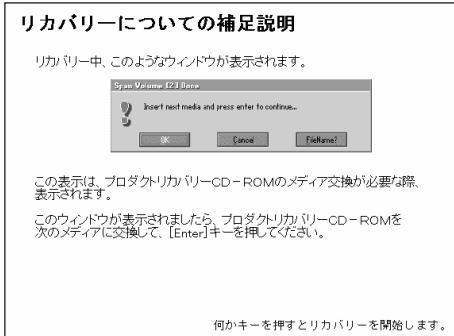
[Ctrl]キーを押しながら [S]キーを押します。

→手順16へ

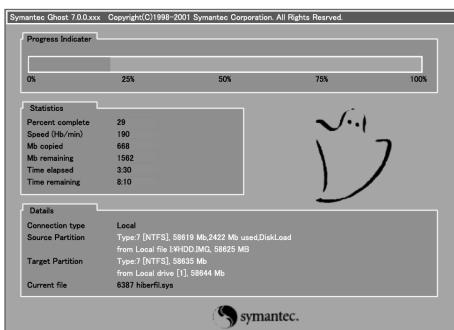
リカバリを中止する場合：

[N]キーを押します。

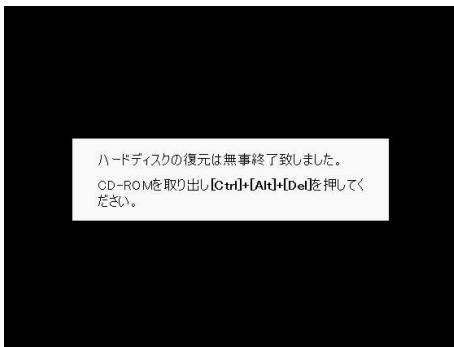
→キャンセルのメッセージが表示されるので、
リカバリ CD-ROMを取り出し、
[Ctrl]+[Alt]+[Delete]キーを同時に押して、パソコンを再起動します。



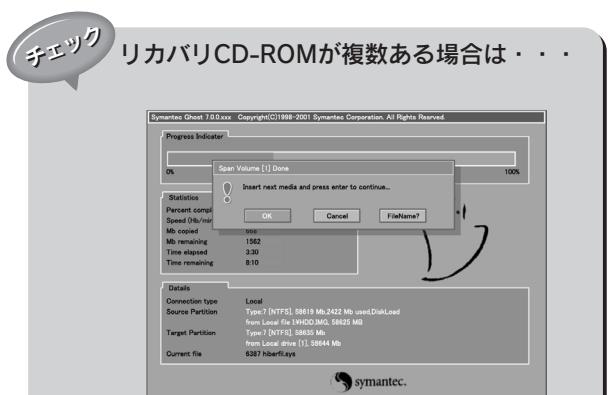
16 【リカバリーについての補足説明】の画面が表示されるので、何かキーを押します。



リカバリーが開始されます。



17 リカバリーが完了すると、左の画面が表示されるので、リカバリーCD-ROMを取り出します。



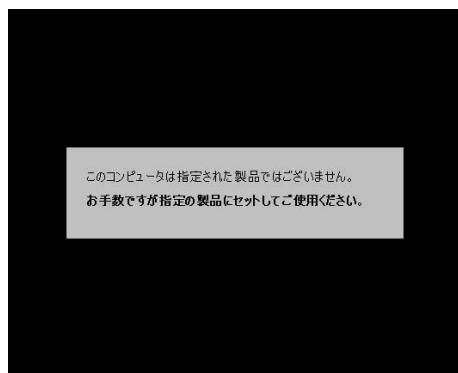
リカバリーCD-ROMが複数あるモデルでは、リカバリーの途中で、「Insert next media and enter to continue...」というメッセージが表示されます。メッセージが表示されたら、リカバリーCD-ROMを交換し、[Enter]キーを押してください。

パソコンが再起動します。パソコンの再起動後、Windows XPのセットアップが始まります。「セットアップをはじめる」(☞24~29ページ)を参照して、セットアップを完了させてください。

リカバリ時のエラーメッセージとその対処法

ここでは、リカバリ時に画面に表示されるエラーメッセージと、その対処法を説明します。

■ 「このコンピュータは指定された製品ではございません。お手数ですが指定の製品にセットしてご使用ください。」



このエラーメッセージが表示された場合、次の原因が考えられます。
□リカバリを行うパソコン専用のリカバリCD-ROMを使用していない。

□リカバリCD-ROMを指定されていないパソコンに使用した。
→正しいリカバリCD-ROMがセットされているかご確認ください。

■ 「正常にリカバリできませんでした。」

正常にリカバリーできませんでした。

以下のような原因が考えられます。

1. リカバリー中にCDを取り出した。
特定の指示がない限り、CDは取り出さないでください。
2. 購入時以外の機器（ハードディスク等）を増設している
お客様で増設されている機器がある場合、正常にリカバリできないことがあります。そのような機器はすべて外してからリカバリを行ってください。
3. ハードディスクが正常に認識されていない。
ハードディスクが正しく接続されていない可能性があります。
配線やBIOSで正常に認識されているか確認をしてください。

SOTEC

このエラーメッセージが表示された場合、次の原因が考えられます。

□リカバリー中にリカバリーCD-ROMを取り出した。

→リカバリー手順1(☞ 118ページ)に戻り、再度リカバリーしてください。

□製品購入後、機器(ハードディスク)を増設している。

→製品購入後に機器を増設した場合、正常にリカバリーできないことがあります。増設機器をすべて取り外してから、手順1(☞ 118ページ)に戻り、再度リカバリーしてください。

□ハードディスクが正常に認識されない。

→ハードディスクの配線や、BIOSで正常に認識されているかをご確認ください。

■ 「ハードディスクが異常です」

ハードディスクが異常です

ハードディスクに異常が発見されました。

ハードディスクに対し、強制的に初期化を行います。

強制的な初期化を行うと全てのアプリケーションおよびデータが消去されます。

初期化を行う 「CTRL」キーを押しながら「S」キーを押す

初期化を行わずに終了する 「N」キーを押す

強制的な初期化を行っても、メッセージが表示されるときは、テクニカルサポートセンターまでご連絡ください。

SOTEC

このエラーメッセージが表示された場合、次の原因が考えられます。

□ハードディスクの一部に異常がある。

→ハードディスクの初期化を行う必要があります。[Ctrl]キーを押しながら[S]キーを押して、リカバリーを行ってください。

データのバックアップをとっていない場合は、[N]キーを押してください。キャンセルのメッセージが表示されるので、リカバリーCD-ROMを取り出し、[Ctrl]+[Alt]+[Delete]キーを同時に押して、パソコンを再起動します。

STEP 6

パソコンを購入時の状態に戻す(リカバリ)

パソコンの環境を元に戻す

リカバリ終了後、パソコンの環境をリカバリ前に使用していた状態に戻します。

パソコンの環境設定

パソコンの環境設定を行います。

製品購入後にインストールした アプリケーションソフトの設定

製品購入後にインストールしたアプリケーションソフトは、別途インストールする必要があります。インストールについての詳細は、アプリケーションソフトのマニュアルを参照するか、アプリケーションソフトのメーカーにお問い合わせください。

バックアップしたファイルを元に戻す

111ページでバックアップをとったデータを元に戻します。

外部記録メディアにバックアップをとったデータは、バックアップ前と同じ場所に戻してください。

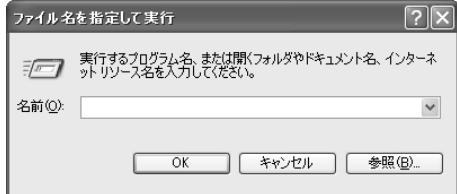
Internet Explorerの『お気に入り』を元に戻す

バックアップをとったInternet Explorerの『お気に入り』は、「C:\Documents and Settings*****\Favorites」フォルダ内に格納されています(*****にはWindows XPのユーザー名が入ります)。



1 [スタート]ボタン→[ファイル名を指定して実行]を選択します。

【ファイル名を指定して実行】ダイアログが表示されます。



2

「C:\Documents and Settings*****\Favorites」を入力し(* * * *にはWindows XPのユーザーアカウント名がります)、[OK]ボタンをクリックします。

【お気に入り】ウィンドウが表示されます。

以上でInternet Explorerの『お気に入り』のバックアップの読み込みは完了です。

3

外部記憶メディアからバックアップをとったフォルダやファイルを、【お気に入り】ウィンドウ内へコピーします。

Outlook Express 6を元に戻す

メール、アカウント、アドレス帳のバックアップを元に戻します。

メールのバックアップを読み込む

バックアップをとったOutlook Express 6のメールを読み込むには、次の手順に従って操作してください。



1

Outlook Expressを起動した状態で、[ファイル]メニューから[インポート]→[メッセージ]の順に選択します。

【Outlook Express インポート】ダイアログが表示されます。



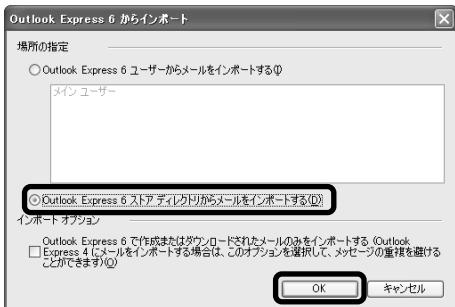
2

一覧より、[Microsoft Outlook Express 6]を選択して、[次へ]ボタンをクリックします。

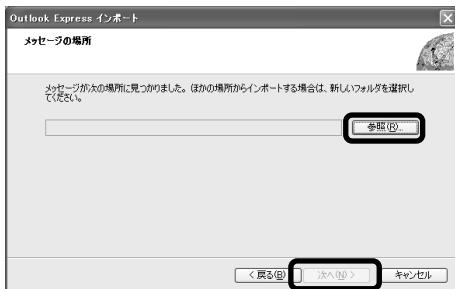
【Outlook Express 6からインポート】ダイアログが表示されます。

STEP 6

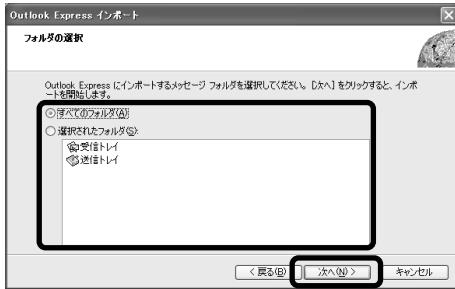
パソコンを購入時の状態に戻す(リカバリ)



3 「Outlook Express 6ストア ディレクトリからメールをインポートする」にチェックを入れて、[OK]ボタンをクリックします。



4 [参照]ボタンをクリックして、バックアップをとったデータの場所を指定して、[次へ]ボタンをクリックします。



5 「すべてのフォルダ」をチェックするか、「選択されたフォルダ」をチェックし、読み込ませたいフォルダを選択して[次へ]ボタンをクリックします。

6

[完了]ボタンをクリックします。

以上でバックアップの読み込みは完了です。

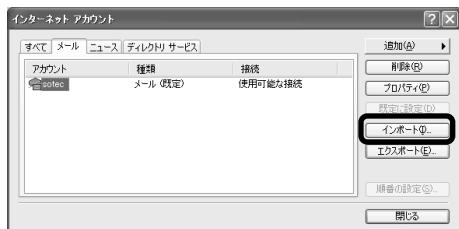
●メールアカウントのバックアップを読み込む

バックアップをとったOutlook Express 6のメールアカウントを読み込むには、次の手順に従って操作してください。



1 Outlook Expressを起動した状態で、[ツール]メニューから[アカウント]を選択します。

【インターネットアカウント】ダイアログが表示されます。



2

[インポート]ボタンをクリックします。



3

バックアップをとったiafファイルを選択し、[開く]ボタンをクリックします。

以上でメールアカウントのバックアップの読み込みは完了です。

STEP 6

パソコンを購入時の状態に戻す(リカバリ)

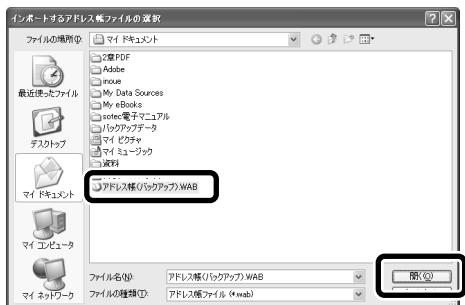
● アドレス帳のバックアップを元に戻す

バックアップをとったOutlook Express 6のアドレス帳を元に戻します。



1 Outlook Express 6を起動した状態で、[ファイル]メニューから[インポート]→[アドレス帳]の順に選択します。

【インポートするアドレス帳ファイルの選択】ダイアログが表示されます。

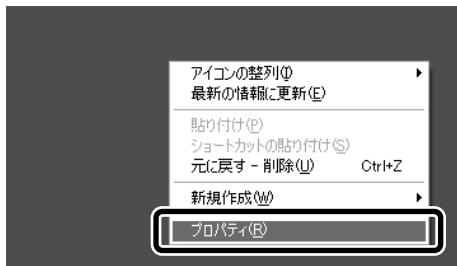


2 バックアップをとったアドレス帳ファイルを選択して、[開く]ボタンをクリックします。

以上でアドレス帳のバックアップの読み込みは完了です。

デスクトップの画面設定を元に戻す

バックアップをとったデスクトップ画面設定を元に戻します。



1 デスクトップ上で右クリックして表示されるメニューから、[プロパティ]を選択します。

【画面のプロパティ】ダイアログが表示されます。



2 [テーマ]の をクリックして、表示される一覧から[参照]を選択します。

【テーマを開く】ダイアログが表示されます。



3 バックアップをとったデスクトップの画面設定ファイルを選択して、[開く]ボタンをクリックします。

以上でデスクトップの画面設定のバックアップの読み込みは完了です。

ユーザー辞書を元に戻す

バックアップをとったユーザー辞書を元に戻します。

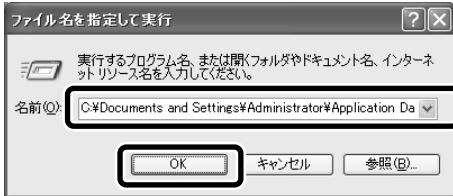


1 [スタート]ボタン→[ファイル名を指定して実行]の順に選択します。

【ファイル名を指定して実行】ダイアログが表示されます。

STEP 6

パソコンを購入時の状態に戻す(リカバリ)

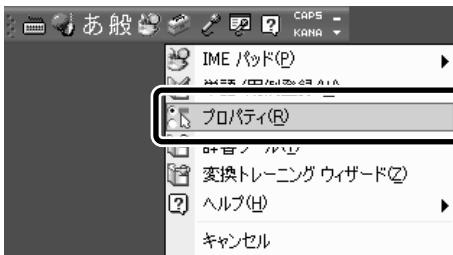


2 [C:\\$Documents and Settings\\$* * *\\$Application Data\\$Microsoft\\$IMJP8_1]を入力して、[OK]ボタンをクリックします。
(* * *にはWindows XPのユーザーアカウント名が入ります)

【IMJP8_1】 ウィンドウが表示されます。



3 バックアップをとったユーザー辞書ファイルを、
【IMJP8_1】 ウィンドウ内に移動します。



4 IME2002のツールバーから をクリックして、表示されるメニューから[プロパティ]を選択します。

【Microsoft IME スタンダードのプロパティ】ダイアログが表示されます。



5 [辞書]タブを選択し、[参照]ボタンをクリックします。

【ユーザー辞書の設定】ダイアログが表示されます。



6 バックアップをとったユーザー辞書ファイルを選択して、[開く]ボタンをクリックします。

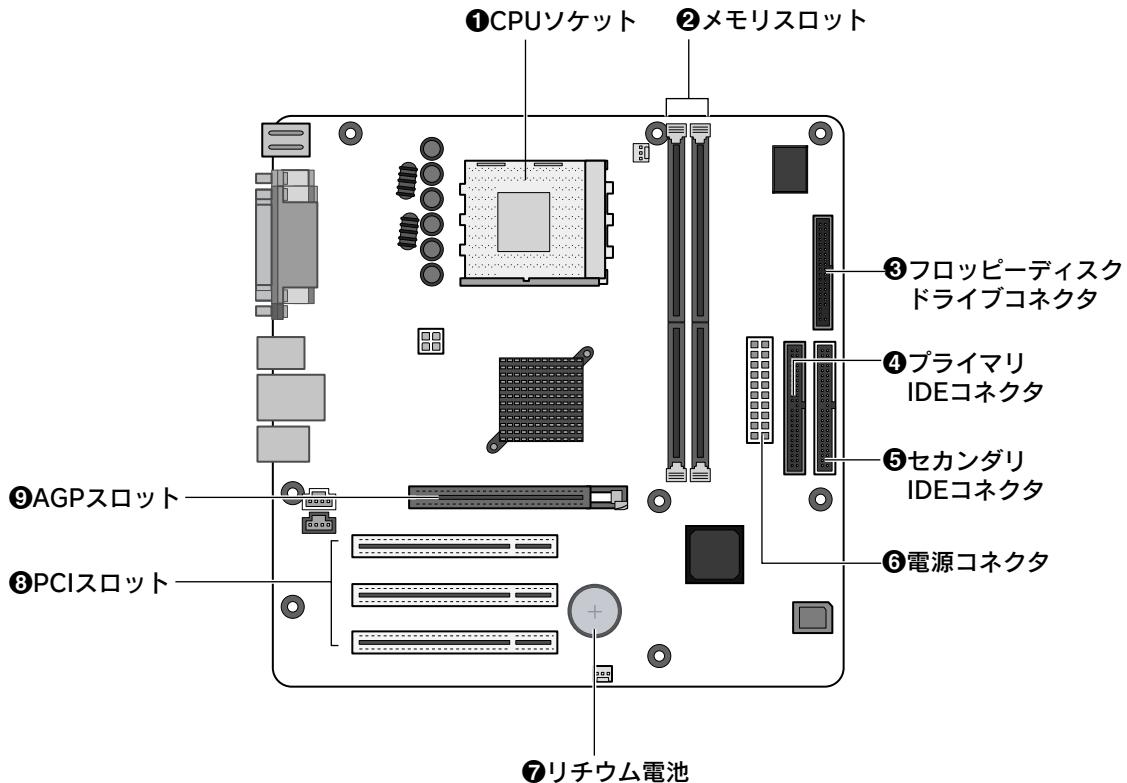
以上でデスクトップのユーザー辞書のバックアップの読み込みは完了です。

付録

1 マザーボードの名前と機能	134
2 バックアップ電池の交換	136
バックアップ電池について	136
バックアップ電池の取り付けと取り外し	137
3 5インチベイ機器の取り外し	138
4 3.5インチベイ機器の取り外し	139
5 電源ユニットの取り外し	141
6 BIOSを設定する	143
BIOSとは	143
BIOSセットアッププログラムの起動方法	143
BIOSセットアッププログラムの終了	144
7 廃棄について	145
本製品の廃棄について	145
8 索引	147

マザーボードの名前と機能

マザーボードの名前と機能について説明します。



① CPUソケット

CPUが装着されています。

② メモリスロット

メモリが装着されています。また、メモリを増設する場合はここに装着します。

(☞ 87ページ)

③ フロッピーディスクドライブコネクタ

3.5インチフロッピーディスクドライブを接続するコネクタです。

④ プライマリIDEコネクタ

IDEハードディスクや光ディスクドライブ、MOドライブなどを接続するためのコネクタです。このコネクタはプライマリ対応です。

⑤ セカンダリIDEコネクタ

IDEハードディスクや光ディスクドライブ、MOドライブなどを接続するためのコネクタです。このコネクタはセカンダリ対応です。

⑥ 電源コネクタ

電源ユニットからマザーボードに電源を供給するためのコネクタです。

⑦ リチウム電池

BIOSの設定を保存するメモリと、カレンダ機能を駆動するための電池です。



電池の寿命は平均2~3年です。パソコンの時計が遅れるなどの異常を感じたら、電池を交換してください。
(☞ 136~137ページ)

⑧ PCIスロット

PCIバス対応のLow Profile PCIカードを接続するためのスロットです。(☞ 82~84ページ)

⑨ AGPスロット

ビデオボード専用の拡張スロットです。
(☞ 83ページ)

チェック

- マザーボードを勝手に分解・改造したりしないでください。分解・改造された場合は保証期間内であっても、無償修理の対象外となります。また、修理対応もできません。
- マザーボードは非常に静電気に弱い部品です。帯電した手で触ったりすると、壊れる恐れがあります。マザーボードを取り扱う前は、まわりの身近な金属に手を触れて、帯電した静電気を取り除いてください。(☞ 59ページ)

バックアップ電池の交換

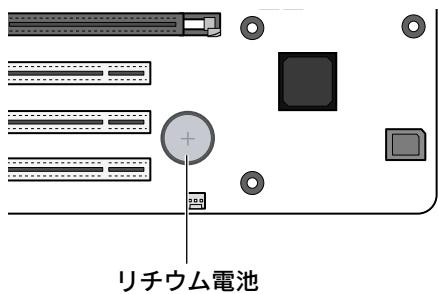
本製品はBIOSの設定保存と、カレンダ機能の駆動にリチウム電池を使用しています。ここではリチウム電池の交換方法について説明します。



注 意

- ・装着の前には、必ず本機の電源をOFFにして、電源ケーブルを抜いてください。
- ・マザーボードは静電気に大変弱い部分です。静電気を帯びた物や人の手で触ると、破損する恐れがあります。交換の際には、体の静電気を取り除いてください。(☞ 59ページ)
- ・リチウム電池取り付け部周辺の端子は傷つけないでください。破損の原因となります。
- ・交換したリチウム電池は、地方自治体の条例、または規則に従って廃棄してください。
「法規について」(☞ 6ページ)

バックアップ電池について



リチウム電池

本製品はBIOSの設定保存と、カレンダ機能の駆動にリチウム電池を使用しています。リチウム電池はマザーボードに装着されています。交換の目安は、平均2~3年です。パソコンの時計が遅れるなどの異常が発生したら交換してください。



交換するためのリチウム電池は、お近くの電器店でお求めください。



本機で使用できるバックアップ電池

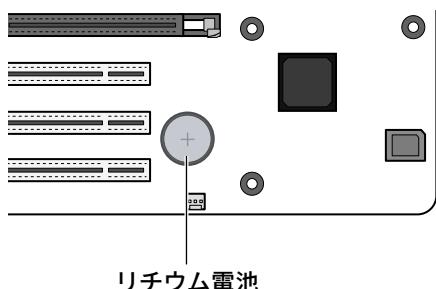
本機で使用できるバックアップ電池の規格は次のとおりです。

- ・CR2032 (リチウム電池)

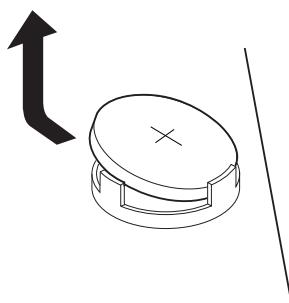
バックアップ電池の取り付けと取り外し

1 本体カバーを外します。

「前面カバーの取り外し」(☞ 80ページ)

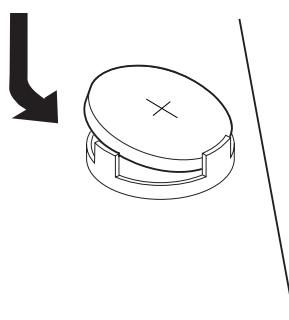


2 マザーボード上のリチウム電池の位置を確認します。



3 リチウム電池を取り外します。

リチウム電池を固定しているツメを外してから、取り外します。



4 新しいリチウム電池を取り付けます。

完全に装着されるまで、取り付け位置にリチウム電池を挿入します。



左の図では、底面が「-」面です。「+」面と「-」面の向きを間違えないでください。向きを間違えると、正常に動作しません。

3

5インチベイ機器の取り外し

ここでは、5インチベイ機器の取り外し方法を説明します。

チェック

5インチベイ機器の取り外しは、サポート対象外です。取り外しによって生じる結果に對して、当社は責任を負いません。

1

本体力バーおよび前面カバーを取り外します。

2

5インチベイ機器用ブランケットを固定しているネジを取り外します。

3

5インチベイ機器用ブランケットを、本体から途中まで取り外します。

4

電源ケーブルとフラットケーブルを5インチベイ機器から外します。



5インチベイ機器にオーディオケーブルが接続されている場合は外します。

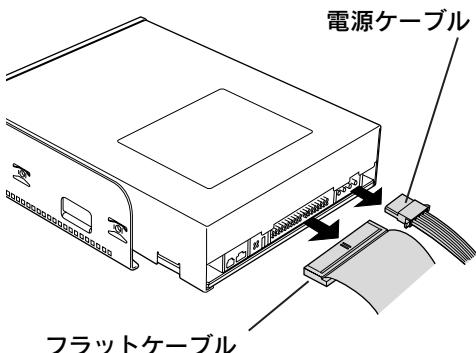
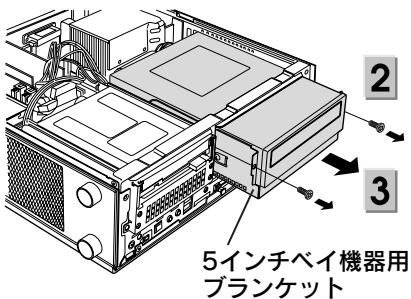
5

5インチベイ機器用ブランケットを、本体から完全に取り外します。

6

本体力バーと前面カバーを取り付けます。

「本体力バーの取り付け」(☞ 79ページ)
「前面カバーの取り付け」(☞ 81ページ)



4

3.5インチベイ機器の取り外し

ここでは、3.5インチベイ機器の取り外し方法を説明します。

チェック

3.5インチベイ機器の取り外しは、サポート対象外です。取り外しによって生じる結果に対して、当社は責任を負いません。

1

本体力バーおよび前面カバーを取り外します。

2

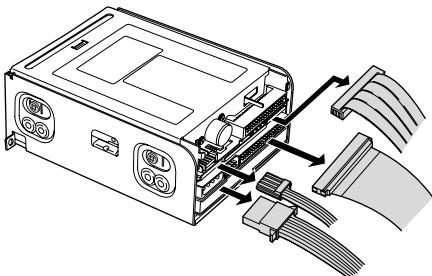
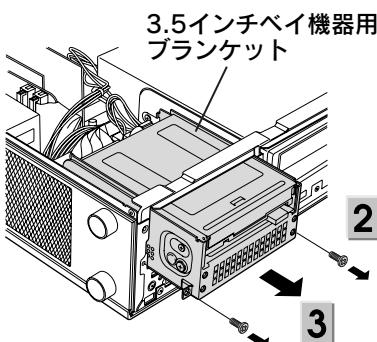
3.5インチベイ機器用ブランケットを固定しているネジを取り外します。

3

3.5インチベイ機器用ブランケットを、本体から途中まで取り外します。

4

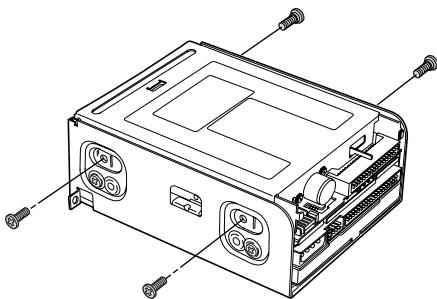
電源ケーブルおよびフラットケーブルを、フロッピーディスクドライブ、ハードディスクドライブから取り外します。



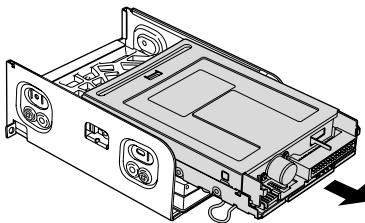
5

3.5インチベイ機器用ブランケットを、本体から完全に取り外します。

付
録



- 6** フロッピーディスクドライブを固定しているネジを取り外します。



- 7** フロッピーディスクドライブを取り外します。

- 8** 3.5インチベイ機器用ブランケットを、本体へ途中まで取り付けます。

- 9** 電源ケーブルおよびフラットケーブルを、ハードディスクドライブへ取り付けます。

- 10** 3.5インチベイ機器用ブランケットを、本体へ完全に取り付けます。

- 11** 3.5インチベイ機器用ブランケットを、ネジで本体に固定します。

- 12** 本体カバーと前面カバーを取り付けます。

「本体カバーの取り付け」(☞ 79ページ)
「前面カバーの取り付け」(☞ 81ページ)

5

電源ユニットの取り外し

ここでは、電源ユニットの取り外し方法を説明します。

チェック

電源ユニットの取り外しは、サポート対象外です。取り外しによって生じる結果に対して、当社は責任を負いません。

1

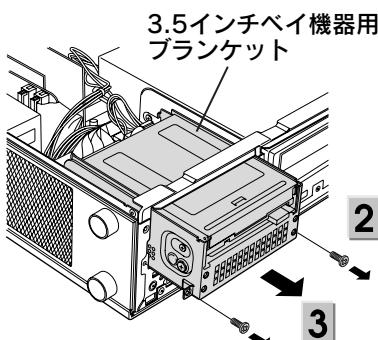
本体カバーおよび前面カバーを取り外します。

2

3.5インチベイ機器用ブランケットを固定しているネジを取り外します。

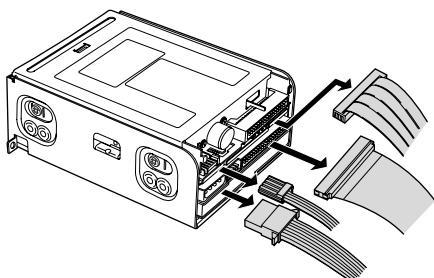
3

3.5インチベイ機器用ブランケットを、本体から途中まで取り外します。



4

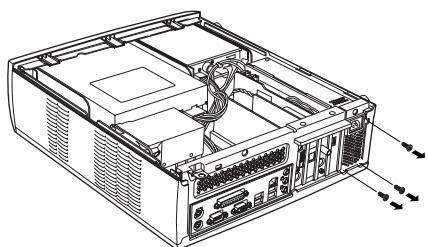
電源ケーブルおよびフラットケーブルを、フロッピーディスクドライブ、ハードディスクドライブから取り外します。



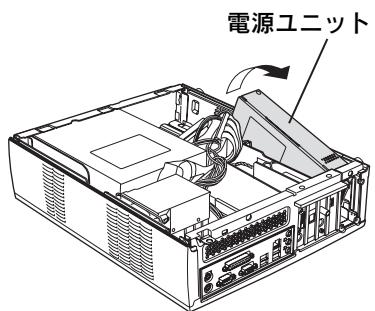
5

3.5インチベイ機器用ブランケットを、本体から完全に取り外します。

付
録



6 電源ユニットを固定しているネジを取り外します。



7 電源ユニットを本体から取り外します。

BIOSを設定する

ここではBIOSの概要と、BIOSを設定するための「BIOSセットアッププログラム」の操作方法について説明します。

BIOSとは

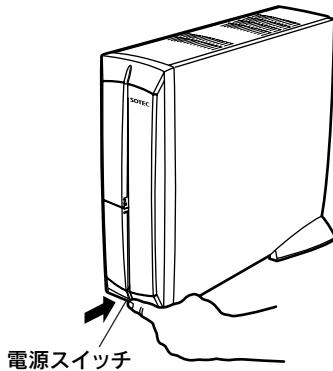
"BIOS"とは「Basic Input Output System」の略称で、パソコンを動作させるためのプログラムです。このBIOSの設定を正しく行うことで、パソコンの性能を正しく引き出すことができます。本機ではあらかじめ、最適の状態でBIOSが設定されています。ただし、本機の拡張などを行った際には、拡張する機器に合わせてBIOSの設定を変更する必要があります。

チェック

BIOSの設定は複雑で、誤った設定をしてしまうと、本機が正常に動かなくなる恐れがあります。特に理由もなくBIOSの設定を変更しないでください。

- ①メニューから「Load Optimized Defaults」にカーソルをあわせて、**Enter**キーを押します。
- ②「Load Optimized Defaults (Y/N)」とメッセージが表示されるので、**Y**キーを押してから、**Enter**キーを押します。
- ③メニューから「Save & Exit Setup」にカーソルをあわせて、**Enter**キーを押します。
- ④「Save to CMOS and EXIT (Y/N)」とメッセージが表示されるので、**Y**キーを押してから、**Enter**キーを押します。変更した設定値の保存をして、Windowsが再起動されます。

BIOSセットアッププログラムの起動方法



1

本機の電源がOFFであることを確認した後、ディスプレイ、パソコンの順に電源をONにします。



2

"SOTEC"のロゴが入った画面が表示されたら、
Deleteキーを押します。

しばらくすると、セットアッププログラムの起動画面が表示されます。



BIOSの詳しい操作方法については、「SOTEC電子マニュアル」から「付属のマニュアル」→「BIOSセットアップマニュアル」をご参照ください。

●項目の選択・設定の方法

BIOSセットアッププログラムは、次のキーを使って操作します。

- | | |
|------------------------|---------|
| ・カーソルを左右に移動するには | ←→キー |
| ・カーソルを上下に移動するには | ↑↓キー |
| ・サブメニューへ移動するには | Enterキー |
| ・ヘルプを見るには | F1キー |
| ・変更した設定を保存するには | F10キー |
| ・サブメニュー・メインメニューを終了するには | Escキー |
| ・設定値を変更するには | -+キー |

▶ BIOSセットアッププログラムの終了

●設定した内容を保存して終了する

- ① メニューから「Save & Exit Setup」にカーソルをあわせて、Enterキーを押します。
- ② 「Save to CMOS and EXIT (Y/N)」とメッセージが表示されるので、Yキーを押してから、Enterキーを押します。変更した設定値が保存され、Windowsが再起動されます。

●設定した内容を保存せずに終了する

- ① メニューから「Exit Without Saving」にカーソルをあわせて、Enterキーを押します。
- ② 「Quit Without Saving (Y/N)」とメッセージが表示されるので、Yキーを押してから、Enterキーを押します。変更した設定値が保存されず、Windowsが再起動されます。

廃棄について

パソコンの廃棄は、法律や各自治体の条例などにより、廃棄方法が定められています。本製品を廃棄する前にご参照ください。

本製品の廃棄について

本製品は、個人使用か事業使用で、廃棄方法が異なります。

●事業系使用済みパソコンの回収・再資源化業務について

ソーテックは、2001年4月1日より事業系(法人ユーザー)の使用済みパソコンの回収及び再資源化業務を開始致しております。

本件は、2001年4月より施行された「資源の有効な利用の促進に関する法律(改正リサイクル法)」に基づき、3月28日に公布された省令「パーソナルコンピュータの製造等の事業を行う者の使用済みパソコンの自主回収及び再資源化」に準拠しております。

事業系使用済みパソコンにおける回収工程から、再生・再資源化及び処分工程までの全工程を遂行しております。回収・リサイクルの流れは次の通りです。

- 1.事業系のお客様から、リサイクル専用コールセンタにて受付。
- 2.全国ネットワークの回収デポにて製品を回収。
- 3.リサイクルセンタへ運搬。
- 4.リサイクルセンタ及び指定業者にて再生・再資源化。

なお、料金体系や周辺機器などの個別条件につきましても、下記の電話番号にてご案内しております。

リサイクル専用コールセンタ

TEL 03-5493-3756

9:00～17:00(月～金)

(弊社指定休業日はお休みさせていただきます)

この電話番号は、リサイクル専用です。

製品に関するサポートには対応しておりません。

●個人でパソコンを所有している場合

廃棄方法に関しましては、お住まいの各自治体にお問い合わせください(2003年9月現在)。

●廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意

最近、パソコンは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきております。これらのパソコンの中のハードディスクという記録装置に、お客様の重要なデータが記録されています。

従つて、そのパソコンを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータ内容を消去するということが必要となります。

ところが、このハードディスク内に書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。

「データを消去する」という場合に、一般に

- ・データを「ゴミ箱」に捨てる
- ・「削除」操作を行う
- ・「ゴミ箱を空にする」コマンドを使って消す
- ・ソフトで初期化(フォーマット)する
- ・付属のリカバリCDを使い、工場出荷状態に戻す

などの作業をするとと思いますが、これらのことをして、ハードディスク内に記録されたデータのファイル管理情報が変更されただけで、実際はデータは見えなくなっているという状態なのです。つまり、一見消去されたように見えますが、WindowsなどのOSのもとで、それらのデータを呼び出す処理が出来なくなつただけで、本来のデータは残っているという状態なのです。

従いまして、特殊なデータ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読み取ることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、このパソコンのハードディスク内の重要なデータが読み取られ、予期しない用途に利用されることがあります。

パソコンユーザが破棄・譲渡等を行う際に、ハードディスク上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、ハードディスクに記録された全データを、ユーザの責任において消去することが非常に重要になります。消去するためには、専用のソフトウェアあるいはサービス(共に有償)を利用するか、ハードディスク上のデータを金槌や強磁気により物理的・磁気的に破壊して、読めなくすることを推奨します。

8

索引

あ

- アドレス帳 115、130
アナログ電話回線 20~22
アプリケーションキー 44
アルファベット 44、46

い

- イジェクトボタン 38~39、51
インサートキー 45
インターネットキー 47

え

- 英数キー 46
エスケープキー 45
エンターキー 45

お

- 大文字モード 46
お気に入り 111、126~127
オーディオ機器 62、64
オーディオケーブル 64
オーディオ入力端子 40~41、57、65
オプションカード 82~84
オルトキー 46
オンライン登録 28
音量の調整 52

か

- 解像度 53
カーソルキー 46
カタカナ 46
カタカナ/ひらがなキー 46
カテゴリ表示モード 11
画面の色数 53
画面の解像度 53

き

- キーボード 44~47、107
キーボードポート 20~22、40~41
キャップスロックキー 46

く

- クラシック表示モード 11
クリック 25、42

け

- 検索キー 47

こ

- 小文字モード 46
コントロールキー 46
コンパクトフラッシュ 56、68~71
コンパクトフラッシュアダプタ 69

さ

- 再起動 32
再生/一時停止キー 47
サウンド機能 52
サウンドレコーダー 64
サポート 99
サポートキー 47

し

- シフトキー 46
周辺機器 56~75
消音キー 47
使用許諾契約書 26
シリアルポート 40~41

す

- スクロール 42~43
スクロールロックキー 46
ステータスLED 44、47
スピーカ 20~22
スペースキー 46
スマートメディア 56、68、71
スマートメディアアダプタ 68
スリープキー 47

せ

- 制御キー 44
セカンドリIDEコネクタ 134~135
接続 20~23
セットアップ 24~29
セーフモード 103~104
全角キー 46
前面カバー 80~81

た

- タブキー 46
ダブルクリック 25

つ

- 通風孔 40~41
次へキー 47

て

- 停止キー 47
デジタルCRTポート 11、21~22、40~41
デスクトップ 29、31、33
デバイスドライバ 60~61
デリートキー 45
電源コネクタ 134~135
電源スイッチ 38~39、102
電源端子 40~41
電源を入れる 24、31
電源を切る 30
電源LED 38~39
電子マニュアル 12~13

に

- 日本語入力モード 46
ニューメリックロックキー 46

は

- 廃棄 145~146
ハウリング 63
バックアップ 103、111~117、121、126~132
バックアップ電池 106、136~137
バックスペースキー 45
ハードディスク 90~95、103、146
ハードディスクアクセスLED 38~39
ハードディスクドライブの取り付けと取り外し 92~95
パラレルポート 40~41
半角キー 46

ひ

- 光ディスクドライブ 38~39、50~51
光デジタル(SPDIF)出力端子 38~39、56、62
左クリック 25、42
左ボタン 25、42
日付と時刻 105
ひらがな 46

ふ

- ファンクションキー 45
プライマリIDEコネクタ 134~135
プリンタ 57
プリントスクリーンキー 45
フロッピーディスク 48~49、103
フロッピーディスクアクセスLED 38~39、49
フロッピーディスクイジェクトボタン 38~39、49
フロッピーディスクドライブ 38~39、49、103
フロッピーディスクドライブコネクタ 134~135

へ

- ヘルプ 25、44、99
変換キー 46

ほ

- ホイール 42~43
 ポーズ・ブレークキー 45
 ボリュームアップキー 47、52
 ボリュームダウンキー 47、52
 本体力バー 78~79
 本体前面 38~39
 本体背面 40~41

ま

- マイク端子 40~41、63
 マイクロホン 41、63
 マウス 25、42~43、106
 マウスポート 20~22、40~41
 前へキー 47
 マザーボード 134~135

み

- 右クリック 42
 右ボタン 42

む

- 無変換キー 46

め

- メモリ 85~89
 メモリースティック 39、56、72~73
 メモリーカードスロット 11、38~39、56、72~75
 メモリスロット 87、134~135
 メールアカウント 114、129
 メールキー 47

も

- 文字入力キー 44
 モデムポート 20~22、40~41

φ

- ユーザー辞書 117、131~132
 ユーザー名の登録 28
 ユーザーの切り替え 35

ら

- ライン出力端子 20~22、40~41
 ライン入力端子 40~41、64

り

- リカバリ 110~132
 リチウム電池 105、134~137

ろ

- 録音 64
 ログオン 33
 ログオフ 34
 ロック状態 47

わ

- ワンタッチボタン 44

A

- AGPスロット 40~41、82~83、134~135
 Altキー 46

B

- Back Spaceキー 45
 BIOS 143~144
 BIOSセットアッププログラム 143~144

C

- CapsLockキー 46、107
 CD-ROM 50~51
 CFカード 68
 CFカードアダプタ 68
 CPUソケット 134~135
 CRTポート 20~22、40~41
 Ctrlキー 46

D

- DDR SDRAM 85
 Deleteキー 45
 DIMM(ディム) 86
 DV端子 39、56、63

E	
Enterキー	45
Escキー	45
F	
FAX/モデムポート	20~22、40~41
I	
IEEE1394端子	11、38~39、56、63
Insertキー	45
L	
LANポート	40~41
M	
Microsoft IME	46
MMC	39、56、74
N	
NumLkキー	46
P	
Pause Breakキー	45
PCカード	39、56、68~71
PCカードスロット	11、38~39、56、68~71
PCIスロット	40~41、82~83、134~135
PrtScr キー	45
S	
Sビデオケーブル	65
Sビデオ入力端子	40~41、57、65
ScrLkキー	46
SDメモリーカード	39、56、74~75
Shiftキー	46
T	
Tabキー	46
TVアンテナ	23、41、57
TVアンテナ端子	23、40~41、57
U	
USB	66~67
USBハブ	66
USBポート	38~41、66
W	
Windowsキー	44
Windows XP	11
数字	
3.5インチフロッピーディスク	48
5インチベイ	138

MEMO

付
録

-
- ・本書の仕様、情報(本製品、ソフトウェアを含む)は予告なしに変更される場合があります。本製品ならびに、ソフトウェア、マニュアルを運用した結果については、いっさいの責任を負いかねますのでご了承ください。
 - ・本書で紹介されている各ソフトウェアは、ライセンスあるいはロイヤリティ契約のもとに供給されています。
- ソフトウェアおよびそのマニュアルは、そのソフトウェアライセンス契約にもとづき、同意書記載の管理責任者のもとでのみ使用することができます。よって、それ以外の目的で当該ソフトウェア供給会社の承諾なしに無断で使用することはできません。
- ・本製品にあらかじめインストールされているWindows XP以外のOSについては、サポートの範囲外とさせていただきますので、ご了承ください。
 - ・本書の全ての内容は著作権法によって保護されています。株式会社ソーテックの許可なしに、本書の内容の一部または全部を無断で複写、転載することを禁じます。
 - ・本製品で録画・録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権上、権利者に無断で使用できません。

©2003 株式会社ソーテック
PC STATION PA7シリーズ ユーザーズガイド
2003年9月初版

- ・AMD、AMDロゴ、Athlon、Athlonロゴ、Duron、Duronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の登録商標です。
 - ・Microsoft、Outlook、Windows、Windows XPおよびWindowsロゴは米国マイクロソフト社の登録商標です。
 - ・Symantec、Symantecロゴ、Ghostは、Symantec Corporationの登録商標です。
- ©2003 Symantec Corporation. All rights reserved.
- ・VGA、PS/2は米国IBM社の登録商標です。
 - ・“メモリースティック”およびは、ソニー株式会社の商標です。
 - ・“SDメモリーカード”およびは、松下電器産業株式会社、米国サンディスク社、株式会社東芝の商標です。
 - ・MMCは、独国Infineon Technologies AGの商標です。
 - ・その他、記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。
-

